

在宅・福祉サービス事業部

2023年の年頭所感から生活圏域を軸とする都道府県別の事業管理組織に変更することが示され、当該事業部の見直しについて検討することとなった。このことから事業団組織において複数の都道府県に跨る在宅・福祉サービス事業部の再編案が示され、これを実行する。在宅・福祉サービス事業部は介護保険発足直前となる1999年、和合、浜北、淡路、花屋敷、浦安の施設が開設され、その後高齢者公益事業部の所管する関東圏域の福祉施設及び在宅サービス、関西圏域の在宅サービスが移管された。そして、事業部制への管理組織を目指して社会福祉部と在宅サービス部が統合され2006年に在宅・福祉サービス事業部として組織された。施設福祉と在宅福祉の統合、事業部制に伴う本部二重構造への対応から集中と分散を繰り返して今日に至っている。介護保険、高齢福祉、障害福祉、児童福祉、その他社会福祉制度のセーフティネットとして様々な制度枠を超えて連帯し、現在の在宅・福祉サービス事業部は存在している。そして施設毎、事業毎、種別や職種を超えて地域福祉へ貢献する集団として多くの事業や取り組みを生み出した。現場の最前線で利用者と向き合い、真摯に取り組んで下さる職員のひとりひとりに感謝したい。

組織再編の仕組みとして現行のエリア体制(縦軸)、統括所長(横軸)を基本とし、関東ブロック、関西ブロック、静岡ブロックによる3つの新事業部体制として2023年を始動していくこととなる。本部機能は、現行の法人本部機能と事業部運営管理機能の二つの側面を担っているが、新事業部体制の事業部運営管理機能については、検討する年度として位置づけ、現場への支援機能が低下しないように考えを深める必要がある。

社会福祉事業を担う者として培ってきた福祉への主体性は変化してはならない。このことから、以下の言葉を以て2023年に向かう在宅・福祉サービス事業部の事業計画策定への方針として位置付ける。

【事業部理念】

地域への感謝と貢献

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【中期事業計画における事業部目標】

私たちの仕事は自動化される

Society5.0時代を見据えて全てが繋がり、共有され、新たな価値が生まれる。

【2023年度事業部目標】

事業精神を継承しつつ、組織改革に取り組む

私たちの大切にしているものを受け継ぎ、継続する

【2023 年度重点目標】

1. 業務の I C T 化をさらに進める
2. I C T 化で生まれる新たな支援の形をつくる
3. 地域福祉の成長に貢献する
4. 地域ごとの主体性を重んじたエリア体制、ブロック体制(事業部制)に変更する
5. 老朽化した設備更新を行いながら付加価値を見出す
6. 職員個人のライフスタイル、ライフサイクルに応じた多様な働き方やキャリア選択ができる働き方を見出す

(事業における主な取り組み)

○ 静岡ブロック

【静岡第 1 エリア】

- ① 聖隷こども発達支援事業所かみあ和合の児童発達支援センター化、事業運営開始
- ② 聖隷こども家庭総合支援センターによる地域ネットワークを形成する
- ③ 訪問看護ステーション住吉第二を、訪問看護ステーション住吉に統合し、サテライト事務所とし、人材の集中強化を行う

【静岡第 2 エリア】

- ① 聖隷訪問看護ステーション三ヶ日に聖隷ケアプランセンターいなさ南部を移転併設し事業の強化に取り組む
- ② 生活困窮者支援と生活保護社会復帰支援との連携に取り組む
- ③ 浜松学園を中心に障害者利用ニーズに即した事業内容の見直しを行い、就職支援機能を強化する

【静岡第 3 エリア】

- ① 磐田市と連携した子ども家庭支援センターへの協力体制の構築
- ② 森町愛光園の事業エリアの見直しによる事業の強化

【奄美エリア】

- ① 介護サービス事業の強化に向けた事業所再編計画の策定
- ② 児童発達支援のニーズに即したのぞみ園の事業の見直し

○ 関東ブロック

【関東第1エリア】

- ① 稲毛海岸サテライトの閉鎖に伴う聖隷訪問看護ステーション浦安の集中強化
- ② 浦安ベテルホーム通所リハビリテーションのスペース拡張に伴う新規プログラムのとの取り組み
- ③ 浦安市高洲高齢者福祉施設では浦安市との指定管理更新契約の方向性を協議する
- ④ 松戸愛光園で通所介護事業における共生型サービス（生活介護）の実施

【関東第2エリア】

- ① 横須賀愛光園で看護小規模多機能事業の運営を開始する
- ② 横須賀愛光園デイサービスセンター改修に伴う障害福祉サービス事業の取り組みを検討

○ 関西ブロック

【宝塚第1エリア】

- ① すみれ保育園跡地への障がい者就労支援事業の実施の検討
- ② 野上児童館の児童発達支援事業への事業転換の協議
- ③ 逆瀬川あゆみ保育園の事業存続、テナント契約の協議

【宝塚第2エリア】

- ① ケアハウス花屋敷の利用ニーズを見直し二人部屋(2戸)の改修実施
- ② 北神戸エリア(訪問看護、居宅介護支援)の事業強化

【淡路エリア】

- ① 聖隷ケアプランセンター淡路、淡路第二の統合
- ② 聖隷訪問看護ステーション淡路岩屋サテライトの聖隷淡路病院内への移転

○ 運営管理部

- ① ブロック制(事業部制)の移行に向けた組織変更に伴う業務分掌、組織権限変更
- ② 各種既存業務 ICT システムの整備拡大 (HIMVIT、けあピアノート、ZEST)
- ③ 新たな ICT システムの導入、利用開始 (HitomeQ コネクト、AI ケアプラン)
- ④ 見守りシステムの更なる整備、導入検討 (浦安愛光園、浦安ベテルホーム、初生サテライト、花屋敷栄光園、淡路栄光園、カーネーションホーム、奄美佳南園)
- ⑤ 聖隷こども家庭総合支援センターの県外支援業務の準備

和合せいれいの里

特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき
障害者支援施設みんとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター
聖隷放課後クラブはなえみ和合 聖隷こども発達支援事業所かるみあ和合
聖隷チャレンジ工房和合 相談支援事業所くすのき
浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター
聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉

2022 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染力拡大に伴い、全国的視野での支援策を立案し、物的支援だけではなく感染拡大施設への支援チームの派遣を実践した。同時に、施設内も幾度か感染拡大の危機にさらされたが、職員が「持ち込まない」、「広げない」対策の徹底に努めたことで、重篤な事態には至らなかった。

介護保険事業では、特別養護老人ホームやデイサービスセンター等に実装された ICT 機器の運用が本格化され、介護職をはじめ専門職の働き方を見直す転換期となった。あわせて、各サービスの運営方針や計画の見直しを図り、利用者ニーズとサービス提供実態との乖離を是正した。また、障害福祉サービス事業では、5 号館となる児童発達支援センターの建築工事が具体化する中、ライフステージの変化に応じた切れ目のない支援が提供できるよう、領域を共有する事業所間の連動強化に努めた。世界情勢等の影響により工期は 2023 年度にずれ込んだが、この延長期間を好機と捉え、センター開設への基盤を強固にするための体制整備を図った。

2023 年度は、利用者や家族、地域の方々のニーズを事業運営の中心に捉えながら、児童発達支援センターの新設を皮切りに、サービス種別を問わない総合的な相談窓口の編成や生活介護事業所の再編等を進めることで、これまでの価値観を刷新し、より地域に求められる新たな機能を獲得していく。

【施設理念】

和合せいれいの里の全事業所および全職員は、和合せいれいの里の利用者一人ひとりがその人らしい生き方ができるよう常に利用者の視点に立ち、そのために必要とされる質の高い適切な支援を切れ目なく総合的に提供する。

【経営方針】

1. 地域共生の視点の下、複合施設としての利点を活かし、ライフステージの変化に応じた切れ目のない支援体制の構築を目指す
2. 利用者、家族、地域に安全と安心を与え続けられるようサービスの質の向上に努める
3. 専門職のキャリアアップを促進しながら、AI・ICT・ロボット等の機器やシステムの具体的な活用を図ることで、専門職としてのやりがいと新たな役割を創造する
4. 安定した運営が継続できるよう、適切な職員配置、コスト管理、設備改修等に努める
5. 防災・福祉拠点としての役割等を果たし、地域貢献に取り組む

【事業・運営計画】

1. ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築

- (ア) 地域ニーズに合致したサービスを計画的に創造、拡充していく
(児童発達支援センターの開設、訪問看護ステーション住吉の2サテライト運営と将来展望、生活介護事業所・事務所の再編 等)
- (イ) 制度の枠を超えた切れ目のない支援体制を構築するとともに、地域への周知に努める
(総合相談窓口の開設、専門職の事業横断的な働き方の創造 等)
- (ウ) 事業種別を超えた協議を重ね、地域課題を見通す能力（マーケティング力）を醸成する

2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) 利用者や家族、地域の方々が求めていることと提供サービスとの差異を適時評価し、選択され続けるサービスに向けて修正を重ねることで、サービスの質の強化に努める
- (イ) ICT 機器を活用することでリスクマネジメントを徹底し、事故の発生予防に努めるとともに、利用者の状態変化に早期に気づき状態悪化を抑制していく
- (ウ) 支援困難な方や医療ニーズの高い方等の受け入れを積極的に検討、実践していく。あわせて、稼働率を意識した受け入れの徹底を図る
- (エ) 個性性にフォーカスしたケアに努め、利用者の生きがいや、やりがいを創造する

3. 新たな働き方・やりがい・役割の創造

- (ア) 資格取得や関連研修等の受講を促進し、専門性の向上を図る
- (イ) 専門職として、施設・在宅サービスを問わない地域視点での新たな役割を創造する
- (ウ) 次世代リーダーの育成に注力する
- (エ) 根拠を持ったケアが実践できるように、プリセプター制度等の OJT 体制を再構築する。
あわせて、画一的な育成システムではなく、多様性に対応できるシステムを創造する
- (オ) 業務仕分けを進め、高齢者・障がい者・子育て世代等の雇用を促進する
- (カ) 記録システムや福祉機器等の活用を図り、業務の効率化並びに業務負担軽減を目指す

4. 運営安定化の推進

- (ア) 児童発達支援センター、総合相談窓口の開設等への計画的な投資を図る
- (イ) 施設・事業所の継続性を意識し、新たな価値を生み出す計画的な購入、改修を図る
- (ウ) 適切な加算算定、及び効率的な職員配置が行えるように業務改善を図る
- (エ) 水光熱費、消耗備品の購入、及び外部委託業者の契約状況等を評価し、適正化を図る

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 静岡 DWAT メンバーを中心に、地域の避難訓練等に参加し福祉施設の役割理解を促す
- (イ) 小中学校や介護未経験者、近隣企業等を対象に、情報発信、介護相談、研修会開催等を通して、介護に対する理解促進、介護離職防止等に貢献する
- (ウ) 学習支援事業へ聖隷キッチン和合の弁当配食を継続する
- (エ) 河川里親制度に登録し、隣接河川の環境美化活動を継続する

【数値指標】

■高齢者入所・通所事業

	和合愛光園		和合サテライト	和合愛光園 デイサービスセンター			やまぶき 生活支援ハウス	
	特養入所			短期	通所介護			
	従来型	ユニット型	従来型 (障害)	ユニット型	一般型 介護	予防	認知症 対応型	
利用者定員	62名	40名	20名	29名	50名		12名	5名
利用者延数	22,976名	14,207名	6,218名	10,432名	8,257名	372名	2,459名	—
一日平均利用者数	62.8名	38.8名	17.0名	28.5名	26.6名	1.2名	7.9名	—
稼働率	101.3%	97.0%	84.9%	98.3%	55.7%		66.1%	—
稼働延日数	366日	366日	366日	366日	310日		310日	—
単価（一人一日）	12,901円	14,848円	12,777円	14,846円	10,500円	7,153円	14,100円	—
サービス活動収益	296,424 千円	210,945 千円	79,445 千円	154,872 千円	91,186 千円		35,326 千円	6,204 千円
正職常勤換算数	32.7名	24.0名	9.4名	15.2名	7.5名		2.5名	0.3名
パート常勤換算数	11.2名	3.6名	1.4名	5.5名	9.2名		4.1名	1.2名

■障害者入所・通所・相談事業

	聖隷トライサポート 和合		障害者支援施設 みるとす			相談支援 くすのき	中障がい者 相談支援 センター
	介護 予防	共生型 機能訓練 生活介護	施設入所 生活介護 Ⅰ	生活介護 Ⅱ	短期入所	特定 児童	浜松市 受託
利用者定員	40名 (午前・午後・1日)		20名	20名	2名	—	—
利用者延数	12,273名	1,904名	7,270名	6,468名	1,057名	1,731名	—
一日平均利用者数	39.6名	6.1名	19.9名	21.0名	2.9名	—	—
稼働率	76.2%		99.3%	105.0%	144.4%	—	—
稼働延日数	309日		366日	308日	366日	—	—
単価（一人一日）	6,699円	9,034円	18,663円	14,930円	8,800円	—	—
サービス活動収益	101,274 千円		138,984 千円	96,568 千円	9,586 千円	32,854 千円	43,661 千円
正職常勤換算数	11.9名		13.4名	9.8名	—	5.0名	4.0名
パート常勤換算数	7.6名		5.3名	8.2名	—	0名	※3.0名

※他法人出向受入

■就労支援・障害児通所支援事業

	聖隷チャレンジ工房和合				はなえみ和合		かるみあ和合
	就労移行	就労継続B	就労継続A	就労定着	放課後等デイサービス 学校日	休校日	児童発達支援
利用定員	10名	15名	10名	—	20名		20名 9月～30名
利用者述べ人数	2,295名	3,902名	2,290名	108名	3,768名	764名	6,035名
一日平均利用者数	9.4名	14.0名	9.4名	—	18.7名		24.4名
稼働率	94.4%	93.6%	94.2%	—	93.2%		94.9%
稼働日数(延べ)	243日	278日	243日	—	202日	41日	247日
単価(一人一日当り)	12,003円	9,129円	7,632円	—	6,496円	7,290円	16,741円
サービス活動収益	33,319千円	45,778千円	45,402千円	2,016千円	31,128千円		104,089千円
正職常勤換算数	8.5名				6.7名		13.2名
パート常勤換算数	13.8名(うち、A型利用者6.8名)				1.0名		3.5名

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション 住吉	平均利用者数	月訪問件数		年訪問件数		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数		
	361名	1,880件		22,560件		9,945円		223,856千円	33.6名		
聖隷ヘルパーセンター	介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数		
	平均利用者数	訪問件数		利用者		介護(時間)	予防(時間)				
		月間	年間	月間	年間						
70名	813件	9,757件	26名	306名	4,800円	3,700円	69,205千円	9.8名			
聖隷ケアプランセンター和	年間請求件数			平均単価			サービス活動収益	常勤換算職員数			
	介護	予防	予防A	介護	予防	総合A					
	2,112件	120件	120件	19,200円	3,700円	3,700円			43,883千円	5.7名	
地域包括支援センター和合	浜松市受託収入		予防プラン請求件数		うち再委託件数		予防プラン単価	サービス活動収益	常勤換算職員数		
	31,100千円		3,397件		2,820件		4,471円				
	日常生活支援総合事業の予防プラン										
	種別	ケアマネジメント請求件数		うち再委託件数		ケアマネジメントプラン単価					
	ケアマネジメントA	2,576件		2,040件		4,471円					
ケアマネジメントB	144件		36件		3,246円						
ケアマネジメントC	36件		0件		732円						
							58,297千円	7.5名			

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト
聖隷デイサービスセンター初生

2022年度は、コロナ禍において、感染対策を講じた上での行事の実施、面会や外出の機会を市中の感染状況に応じ対応してきた。職場では感染予防に努め、拡大させないという意識のもと対策を徹底し、施設内での感染拡大には至らなかった。事業としては、厨房業務の自営化、管理栄養士の配置、完全調理品の活用により新しい形の食事提供体制を構築した。利用される皆様への栄養管理体制強化の基礎が整ったと言える。

2023年度は、特別養護老人ホーム、デイサービスでの栄養管理体制を中心としたサービスを展開し、その人らしい暮らしや生きがいを支えていく。また、記録システム、見守り支援システムを導入、推進していくことで、働き方の刷新をしていく。そのプロセスの中で職員一人一人が、仕事の楽しさ、やりがいを感じ、サービスの質の向上に繋げていく。私たちを取り巻く状況が変化し続ける中、聖隷ケアセンター初生の事業が地域のニーズにマッチしているのかを検証し、事業再編も視野に入れ、柔軟に検討していく1年とする。

【施設理念】

わたしたちは、住み慣れた地域でその人らしい“暮らし”や“生きがい”を支え続ける

【事業・運営計画】

1. 利用者、地域のニーズに沿ったサービスの見直しと再構築による質の向上
 - (ア) 利用者の多様なニーズに応えられるよう、デイサービスにおける短時間利用枠を創出する
 - (イ) 管理栄養士が積極的に事業に参画し、在宅に訪問するなど栄養マネジメント体制を構築する。また、他事業所との連携を図っていく
 - (ウ) デイサービスにおいて、事業所としての強みを明確にし、他事業所との連携を強化する
 - (エ) 地域のニーズに沿って、聖隷ケアセンター初生の強みが最大限活かせるようサービスを創造、拡充していく（事業所の再編、新たなサービスの創造等）
2. 働きがいのある職場環境と人材育成の推進
 - (ア) 記録システムや見守りシステムの導入に伴い、若手職員が事業に主体的に参画する機会を創り出し、仕事のやりがい、楽しさを体感してもらう
 - (イ) 記録システム、見守りシステム、福祉機器等の活用により、業務の効率化、業務負担軽減を図る
 - (ウ) センターにおいてアドバンス・ケア・プランニングの考えを浸透、実施していくため研修を行い、その人の人生に寄り添えるケアを提供する
 - (エ) 目標参画システムを推奨するにあたり、職員への動機づけ、目標設定、達成への指導、支援を実施する
 - (オ) 職員のメンタルヘルスや腰痛等の対象者を減少させるための取り組みを行う

3. 感染症対応、災害時など、いかなる状況においても事業継続ができる体制を構築する
- (ア) 職員個々が役割を遂行できるように、センター内で定期的な訓練、勉強会を実施する
 - (イ) センターにおける事業継続計画を整備し、非常時に地域と相互支援体制が構築できるよう地域と会話をしていく
4. 安定した運営の推進
- (ア) 適切な加算算定、及び効率的な職員配置が行えるように業務の見直しを図る
 - (イ) 新規利用者獲得のための ICT を活用した広報活動を行う
 - (ウ) 業務の見直しを行う中で、現在の業務契約状況を評価し、適正化を図る
5. 地域における公益的な取組
- (ア) 福祉避難所の役割を果たすことを常に念頭に、地域防災拠点としての組織作りに取り組む
 - (イ) 地域包括支援センターと協力し、地域に対しての講義等に専門職を派遣し、地域福祉の向上に貢献する
 - (ウ) 各専門職の実習、小・中学校からの福祉体験、特別支援学校の実習受け入れを行い、施設機能を提供する

【経営指標】

	和合愛光園初生サテライト	聖隷デイサービスセンター初生	
		介護給付	総合事業
利用者定員	29人	50人	(50人)
利用延数	10,491人	9,809人	209人
一日平均利用者数	28.7人	31.7人	3.0人
稼働率(%)	98.8%	69.4%	
稼働延日数	366日	309日	
平均介護度	3.50	2.21	—
単価	14,800円/日	9,813円/回	6,417円/日
サービス活動収益(千円)	155,267(千円)	102,164(千円)	
職員数(正職)	13.2人	6.3人	
職員数(パート)	10.3人	17.6人	

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘
地域包括支援センター高丘
聖隷リハビリプラザ IN 高丘
聖隷ケアプランセンター浜松

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まらない中、感染防止に努め、通常の事業に加え、2021年度より開始した地域の方のフレイル予防を目的とした行事等の継続ができた。

2023年度は地域の方の状況に応じ必要とされていることは何か考え、ケアセンター内の事業所が連携・協働し事業を展開していく。

【事業・運営計画】

1. 地域の利用者特性をつかみ、ケアセンター高丘内の連携を強化することでセンター全体として地域の中で、質の高いサービスを展開できる
 - (ア) 訪問看護ステーション高丘はチームで協働し、病状の進行や身体能力の低下予防に働きかけることで利用者・家族の生活を支える
 - (イ) 聖隷リハビリプラザ IN 高丘は障がいの方への関わり方や特性、難病に対する知識や対応方法の知識・技術を深める。また自宅での入浴をめざし、入浴サービスを実施する
 - (ウ) 地域包括支援センター高丘は地域の課題や利用者特性を把握し情報を発信する。また、幅広い世代へ認知症への啓発をし、認知症に優しい地域づくりの継続をする
 - (エ) 聖隷ケアプランセンター浜松は根拠に基づいたケアマネジメントをチームとして実践できる力を高める。特に神経難病に対する対応力強化を図る
 - (オ) センター化の強みを生かし、各事業所の事例検討への参加や必要時の訪問同行等を実践する

2. 職員1人ひとりがやりがいを持ち、働きやすい職場風土を醸成する
 - (ア) 業務の効率化、業務負担の軽減や超過勤務の削減を目指しながらも、安全に「質の高い」情報共有ができることを目的に、HIMVIT導入、AIケアプランの運用等ICT化をすすめる
 - (イ) 職員が自分や家族との時間がとれ、心身ともに健康に過ごせるような職場環境の整備をする

3. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) ロコモーショントレーニング事業、地域のニーズに応じた活動の継続をする
 - (イ) 地域行事（防災訓練等）・学校行事に参加する
 - (ウ) 各専門職の実習・職場体験、ボランティアの積極的な受け入れを行なう

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動 収益（千円）	職員数 （常勤換算）
206人	1,098件	13,180件	9,434円	124,407千円	16.6名

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入 （千円）	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）
41,424千円	3,458件	2,783件	4,471円		
日常生活支援総合事業の予防プラン					
種別	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価		
ケアマネジメントA	2,252件	1,467件	4,471円		
ケアマネジメントB	360件	0件	3,246円		
ケアマネジメントC	0件	0件	2,195円		

通所介護事業（聖隷リハビリプラザ IN 高丘）

介護給付			予防給付		共生型		サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）
平均 利用者 数	月間 利用者 数	年間 利用者 数	月間 利用者 数	年間 利用者 数	月間 利用者 数	年間 利用者 数		
26.3名	677.4名	8,128名	76.0名	912名	52.8名	634名	84,992 千円	13.2名
単価 （円）	6,303円		30,138円		9,086円			

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防	年間 件数	単価		
2,400件	360件	16,100円	4,000円	12件	4,400円	40,947千円	5.8名

聖隷コミュニティケアセンター

2022年度は障害福祉事業へ聖隷施設おむつ販売事業、施設レンタル事業の業務移管を全て完了する事ができた。また店舗運営では経営判断の結果、聖隷コミュニティケアセンター佐倉店は事業を廃止し浜松の店舗運営は継続する事とした。2023年度は介護保険事業を中心に力を入れ地域の必要とするサービスに応えられるよう組織体制を整え、福祉用具と住環境の専門性を高めていく。

1. 利用者満足度の高いサービスの提供

(ア) 利用者が安全に在宅生活を送れるよう支援の強化

- ①居宅支援事業所との報連相を確実にいき、利用者の元へ遅延なくサービスを提供
- ②福祉用具の定期点検訪問を6ヵ月に1度訪問し利用者のニーズをキャッチする
- ③介護保険制度にしばられない有償貸与サービス拡大の検討

(イ) 店舗販売の充実と連携

- ①病院と連携し、入院・外来患者の必要な商品を定期的な見直しを行い、シームレスな対応を行う
- ②Webサイトを活用した販売展開の検討
- ③高丘配送センターに介護用品のショールームを開設

(ウ) 資格取得や福祉用具関連研修の受講を促し、計画的な勉強会を開催し専門性の向上を図る

(エ) 丁寧で親切な利用者対応が出来るよう、職場内教育や同行訪問を充実させる

2. 事業運営安定化の推進

(ア) 聖隷居宅支援事業所の平均紹介率を70%維持し、平均単価13,000円/1件を目指す

(イ) フォロー体制の構築。予算に挙げた人員を確保し安定した事業運営を図る

(ウ) 関東エリアへの施設販売強化

(エ) 感染対策及び災害対策を講じ、BCP(事業継続計画)を作成する

3. 職員のやりがいと働きやすい職場作り

(ア) 職員単独での支援にならないよう、リーダーを中心にチーム支援を行う

(イ) 職員がリフレッシュできる取組みの推進(長期休暇取得等)

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 聖隷の在宅サービス事業所、行政が行う地域に向けた取組みに協賛していく

【2022事業収益：数値指標】

	レンタル件数	介護保険 収益	販売 収益	住宅改修 収益	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
コミュニティケアセンター	15,145件	196,128千円	204,150千円	18,800千円	419,078千円	29.4名

浜松市生活自立相談支援センターつながり

【事業計画】

1. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の子ども達（小学1年生～高校生）に対して、学習サポートを継続実施する。
学習を入り口として世帯に関わり、様々な課題の早期発見、解決につなげていく。
- (イ) 聖隷キッチン和合と連携し、学習サポート教室の子ども達や困窮世帯において食のニーズがある世帯へ食事の提供支援を実施する。
- (ウ) 生活困窮及び生活保護世帯の内、各制度や適切な支援につながりにくい『制度の狭間にいる困窮世帯』に対し、救護施設讃栄寮と連携し生活再建に向けた支援体制を構築する。

2. 就労支援及び就労準備支援

- (ア) 就労支援対象者のうち、年間100名以上の就職実績を目指す。
- (イ) 就労準備支援対象者の新規利用者15名以上の支援を実施する。
- (ウ) 協力企業を活用し職場見学、職場体験から就職へ年間4名以上の就職を目指す。

3. 学習サポート及びキャリア形成支援

- (ア) 卒業生を対象に高校定着や就労支援など必要な支援が実施できるよう、早期に課題がキャッチできるSNSの活用について検討し、2023年10月より運用開始をする。
- (イ) 教室に通えない生徒や家庭に課題のある世帯に対して訪問支援を実施し、学習支援及び生活相談支援を実施する。

4. 地域との連携強化

- (ア) 1. (ウ)を発展させる為、関係機関と連携し日常生活リズム構築等の生活上の支援及び就労支援や家計支援等を同時提供できる『無料定額宿泊所の開設』、『無料定額宿泊所における日常生活住居支援施設の運営』を2024年4月より開始できるよう検討する。
- (イ) 複数の課題を抱える生活困窮世帯に対して、当事者、行政、支援機関、民生児童委員等関係機関と支援開始前にケース検討を行い、連携した支援を年間4ケース実施する。
- (ウ) 上記取り組みを民生児童委員や関係機関と取り組み事例の共有会を実施できる。

【数値指標】

	つながり			
	生活困窮者自立支援事業 (自立相談支援・就労支援・就労準備支援・家計改善支援・キャリア形成支援・一時生活支援事業)	学習支援事業	ホームレス巡回支援事業	学習サポート事業
サービスマス活動収益 (千円)	85,077千円	4,096千円	384千円	-千円
職員数 (常勤換算)	17.4名			0.3名

聖隷厚生園 信生

障害者支援施設 聖隷厚生園信生寮

聖隷厚生園まじわりの家

訪問看護ステーション細江

聖隷ケアプランセンター細江

聖隷ヘルパーセンター浜松北

2023年も引き続き医療と介護・福祉の連携強化を行い、コロナ禍でも利用される方が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、一体的な事業展開を目指す。

聖隷厚生園信生寮では、廃用性による身体機能の低下を予防するとともに、利用者の“やりたい”を支援する取り組みを行う。また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策が続き、利用者と職員がお互いの気持ちを分かち合う機会が減り、それが利用者・職員の情緒・感情的負担感を増大させている原因だと考えられる。コロナ時代に適した新たな交流機会を作る。

在宅部門においては、利用者が望む地域生活が選択できるように、介護保険、障害福祉分野との連携強化を継続し、地域の多様なニーズに対応できる事業運営を目指す。

【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 利用者が楽しく安心して尊厳のある生活ができる支援を行う
2. 地域課題の解決に向けた取り組み
3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造
4. 介護人材の確保と育成の取り組み
5. 災害時対策・地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者が楽しく安心して尊厳ある生活ができる支援を行う
 - (ア) 身体機能の廃用性や生活意欲の減退を防ぐため、介護過程に基づいた利用者の“できる”を引き出す個別支援を多職種協同で行う。
 - (イ) 処遇困難ケースについて、グループスーパービジョンを行う。困難となっている原因を職員同士で分かち合い、利用者とのかかわり方法を模索する。
 - (ウ) 虐待防止セルフチェック表を年2回実施し、利用者の尊厳を守る取り組みを行う。
 - (エ) 感染予防に配慮して、利用者と職員が外出の機会を作り、楽しい時間を共に分かち合う。
 - (オ) コロナ時代に適した利用者、家族、職員がつながる新しい交流の機会を創造する。
 - (カ) 入所・通所者の咀嚼能力等の口腔機能及び栄養状態を適切に把握し、かたちのある食べ物を口から食べる楽しみを多職種で支援し、食事の付加価値を向上させる。

(キ)水光熱費、食材料費の価格高騰に考慮した運営を行う。

2. 地域課題の解決に向けた取り組み

- (ア)訪問看護ステーション細江では、聖隷三方原病院と連携し、浜松市北区・西区を中心に利用者支援をする。なおとらシートを活用した ACP の継続を推進するとともに、特定行為の必要な利用者への支援を拡げる。
- (イ)聖隷ヘルパーセンター浜松北では、細江、引佐、三方原、都田 4 地区を中心に引き続き地域ニーズに応じていく。またヘルパーセンターいなさと協働し、三ヶ日への進出を図る。
- (ウ)聖隷ケアプランセンター細江では、聖隷三方原病院の病棟カンファレンスに参加して、訪問看護と連携し、ターミナルや医療依存度の高い利用者のコーディネートをを行う。また、もくせいの里の事例検討会を開催し、先を見通した生活のコーディネートを提案する。
- (エ)在宅福祉サービス事業所、通所事業所、相談支援事業所等が合同カンファレンスを定期的に行い、支援困難ケースを通じて実質的な連携に取り組み、課題解決の糸口を見出す。
- (オ)聖隷厚生園まじわりの家では、意思疎通ができない利用者に対して感覚刺激を促す新たな支援を導入して、利用者満足度を向上させる。
- (カ)西部特別支援学校からの体験実習を積極的に受け、卒業後に利用者やその家族が求める地域生活ができるように支援計画を提案する。
- (キ)シオンハウスの今後の事業の方向性を協議し、具体的な動きにつなげる。

3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造

- (ア)ノーリフトケア推進を継続し、職員が長く働き続ける職場づくりに努める。
- (イ)新たな支援記録・請求ソフト（ケアカルテ）を導入する。特にオーダー管理機能の活用を促進させ、業務効率化を図る。
- (ウ)新型コロナウイルス等の感染症拡大の予防及び発生時マニュアルの整備、定期的な研修会等の実施に加えて訓練（シミュレーション）を行い、発生時に備える。
- (エ)職員が利用者のためにやりたいことが実現できる自発的な活動を推進させる。
- (オ)職員が働きやすい労働環境管理に努める。
- (カ)レクリエーション機会を通じて、職員同士の交流を活性化させる。

4. 介護人材の確保と育成の取り組み

- (ア)各専門職ラダー、コンピテンシー評価を活用し、職員の人材育成を図る。
- (イ)人事企画部と連携し、EPA 介護福祉士候補生の学習支援の強化を図る。
- (ウ)聖隷クリストファー大学・介護専門学校等と連携し、実習及びインターンシップの受け入れを積極的に行い、養成校とともに将来の介護人材の育成に貢献する。
- (エ)聖隷厚生園ナルド工房・聖隷ワース工房浜松学園と連携し、障がいをもつ方がやりがいをもって介護の仕事をしてもらえるように、障がい者雇用や就労継続支援の受け入れを積極的に行う。

5. 災害時対策・地域における公益的な取り組み

(ア)大規模災害時や感染拡大時にも事業が継続できるように、BCPを作成する。

(イ)地域の要請に応じて、災害等発生時には応援職員を派遣する。

【数値指標】

■障害者入所・通所事業

	聖隷厚生園信生寮		聖隷厚生園まじわりの家	
	入所	短期	生活介護	機能訓練
利用者定員	60名	10名	14名	6名
利用者延べ人数	22,326名	3,806名	4,104名	1,328名
一日平均利用者数	61.0名	10.4名	16.0名	5.2名
稼働率	101.7%	104.3%	114.5%	86.5%
稼働日数(延べ)	366日	366日	256日	256日
単価(一人一日当り)	9,775円	9,640円	16,492円	10,560円
サービス活動収益(千円)	390,049千円	36,703千円	68,811千円	14,035千円
職員数(常勤換算)	58.2名		13.2名	

■訪問・居宅介護支援事業

訪問看護 ステーション細江	月平均 利用者数	月間 訪問件数		年間 訪問件数		単価		サービス活 動収益	常勤換算 職員数
	208名	1,008件		12,100件		10,049円			
聖隷ヘルパー センター浜松北	介護給付		予防給付		単価		サービス活 動収益	常勤換算 職員数	
	平均利 用者数	訪問件数		利用者数		介護 (時間)			予防 (月)
		月間	年間	月間	年間				
47名	377 件	4,520 件	28 名	336 名	4,400 円	22,000 円	36,782 千円	4.7名	
聖隷ケアプラン センター細江	年間請求件数		平均単価		サライト(三方原)		サービス活 動収益	常勤換算 職員数	
	介護	予防	介護	予防	月件数	月額			
									2,058件

聖隷厚生園讃栄

救護施設聖隷厚生園讃栄寮
生活訓練事業所ナルド
地域活動支援センターナルド
障害者相談支援事業所ナルド
福祉共同住宅ファーストステップ

2023年度、聖隷厚生園讃栄では、障がいの多様化に伴い、幅広い利用者やその家族へサービスが提供できる体制を整え、一人でも多くの方に支援が行くことが求められている。

利用者に失敗させない支援ではなく、その失敗体験を次に活かせる支援を利用者と一緒に考え、自信を取り戻し、生活と向き合える働きかけを行っていく。また、個別性に視点をあつたアセスメントと専門職との連携により、利用者の生活を第一に考える。

聖隷厚生園讃栄寮においては「浜松市生活自立相談支援センターつながり」と協働し、コロナ禍において増加している生活困窮者など、制度の狭間で困っている方へのアプローチを模索する。

【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 救護施設聖隷厚生園讃栄寮と「浜松市生活自立相談支援センターつながり」が連携し、制度の狭間で困っている方を支援する
2. 失敗を恐れず、その体験を活かせるよう一緒に考え、利用者の自信を再獲得する
3. 専門職と連携し、個別性に着目した生活プログラムの実践を図る
4. 幅広い利用者ニーズに対応できるよう多機関と協働し、人材育成に取り組む
5. 記録ソフトやインカムなど ICT 機器を活用し、利用者に向き合う更なる時間を生み出す
6. 地域における公益的な取組み

【事業・運営計画】

1. 救護施設聖隷厚生園讃栄寮と「浜松市生活自立相談支援センターつながり」が連携し、制度の狭間で困っている方を支援する
 - (ア) 生活保護受給者含む生活困窮者に対して、生活保護法に基づく日常生活支援住居施設(無料低額宿泊所)開設の準備に取り組む。
 - (イ) 生活困窮者支援において、救護施設の機能強化として救護一時入所など緊急受入れに対応し、ニーズに応じて救護施設への正式入所や他サービスとの連携を図る。
 - (ウ) 「浜松市生活自立相談支援センターつながり」と連携し、ケース会議に参加するなど、生活再建支援に参画する。

2. 失敗を恐れず、その体験を活かせるよう一緒に考え、利用者の自信を再獲得する
 - (ア) 利用者がチャレンジできる機会として、地域移行訓練や調理実習などの実践的な支援を実施する。
 - (イ) 利用者が主体的に開催できるような行事・企画を目指し、目的の明確化、能動的な運営方法に取り組む。
 - (ウ) 感染対策を標準化したサークルやクラブ活動の再開、讃栄寮を退所された方への調理実習の機会提供など、利用者同士の自助作用に働きかけを行い、孤独・孤立を感じさせないような環境を整える。
3. 専門職と連携し、個性に着目した個別支援プログラムの実践を図る
 - (ア) 専門職の見立てと個別支援計画に基づいた運動機能評価、嚥下評価を行い、PDCA サイクルを実践する。
 - (イ) 定期的な嚥下体操や口腔ケアの実践、適切な歯科受診や食形態の提供により、嚥下機能低下予防と窒息防止に取り組む。
 - (ウ) 生活訓練事業所ナルドでは、多様化する地域ニーズに応える為、他サービス提供事業所と連携し、利用者の生活イメージを構築できるよう障がい特性に合わせた個別又は集団支援を行う。
4. 幅広い利用者ニーズに対応できるよう多機関との連携と人材育成に取り組む
 - (ア) 障害者相談支援事業所ナルドでは、幅広い地域ニーズに対応できる強みを活かし、利用者の将来的なニーズを受け止め、利用者及びサービス提供事業所と共に考え、協働する。
 - (イ) 生活訓練事業所ナルドでは、多様化する障がい利用者を受け入れ、訪問支援も活用しながら在宅生活との結びつきを感じてもらえるよう、自身でできることを増やす支援を行う。
 - (ウ) 福祉共同住宅ファーストステップでは、利用者の思いを確認しながら、他機関と連携した支援を展開し、利用者の一人暮らしを実現する。
5. 記録ソフトやインカムなど ICT 機器を活用し、利用者向き合う更なる時間を生み出す
 - (ア) 効果的な個別支援計画に基づいた支援をする為、新たな支援記録ソフトを活用する。
 - (イ) インカムや顔認証カメラなどを活用し、迅速な利用者対応と職員が安心して働ける環境を構築する。
6. 地域における公益的な取組み
 - (ア) 新型コロナウイルス感染症拡大時や大規模災害発生時などに、地域の要請に応じて職員派遣や福祉避難所の提供を行う。

【数値指標】

	聖隷厚生園讃栄寮		
	救護入所	救護通所	短期入所(総合支援法)
利用者定員	60名	10名	4名
利用者延べ人数	23,790名	2,928名	1,256名
一日平均利用者数	65.0名	8.0名	3.4名
稼働率	108.3%	80.0%	85.8%
稼働日数(延べ)	366日	366日	366日
単価(一人一日当り)	10,339円	4,982円	8,264円
サービス活動収益	265,535千円		10,379千円
職員数(常勤換算)	30.2名		

	生活訓練事業所ナルド		ナルド	ファーストステップ
	生活訓練	生活介護	指定相談支援	共同生活援助
利用者定員	10名	10名	-名	13名
利用者延べ人数	2,140名	2,504名	-名	4,570名
一日平均利用者数	8.4名	9.8名	-名	12.5名
稼働率	83.9%	98.2%	-%	96.0%
稼働日数(延べ)	255日	255日	-日	366日
単価(一人一日当り)	9,761円	6,990円	-円	3,607円
サービス活動収益	21,515千円	18,490千円	52,988千円	20,459千円
職員数(常勤換算)	4.6名		5.9名	3.1名

聖隷厚生園ナルド工房

2022年度、聖隷厚生園ナルド工房では、地域ニーズの高い就労継続支援B型の定員を10名増員し、新たな利用者に就労を通じて地域の中で活躍できる機会を提供することができた。その反面、職業準備性に課題のある利用者が増えたことで、働く環境や作業意欲に対する課題が表面化してきている。

2023年度は、利用者が次のステップをイメージすることができるように、働くことへの安心感やモチベーションが高まる取り組みを行う。また、引き続き多くの利用者に働く機会を提供していくため、就労継続支援B型の定員をさらに5名増員するとともに新たな作業を開始する。

【施設理念】

働くことが『生きる喜び』となるように共に歩みます

【経営方針】

1. 利用者の働くことへの安心感やモチベーションが高まる取り組み
2. 利用者のステップアップを支える多職種・関連機関と協働した取り組み
3. 次世代を担う人材育成への取り組み
4. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者の働くことへの安心感やモチベーションが高まる取り組み
 - (ア) 新たな作業として床ワックスがけ作業を開始し、利用者が施設外に出て仕事ができる機会を拡大する。
 - (イ) 利用者の働くモチベーション向上のため、作業検定による能力評価に加え、利用者の“日々のがんばり”を評価できる仕組み作りを行う。
 - (ウ) 利用者の目標設定の場において、仕事の成果をわかりやすく伝えるため、障がい特性に合わせた視覚的確認ができる取り組みを行う。
 - (エ) 利用者個々に合わせた仕事の環境への配慮、使いやすい治具等の工夫により、利用者が安心感をもって働くことができる環境整備に取り組む。
 - (オ) 就職へのイメージが持てる目標設定支援を行うため、就労支援のグループワークでは、早期に企業見学や実習を行う。
 - (カ) 虐待防止セルフチェックを年2回実施し、利用者への関わりを定期的に振り返り、利用者が安心して働くことができる環境作りに役立てる。
2. 利用者のステップアップを支える多職種・関連機関と協働した取り組み
 - (ア) 利用者が仕事をする際の身体の姿勢等による働き難さの軽減を図るため、厚生園内の作業療法士と協働し、専門職の意見を交えた就労支援を展開する。
 - (イ) 生活訓練事業所ナルドと協働し、利用者のステップアップや再チャレンジの仕組みを共有

した目標設定を行う。

- (ウ) 「就労パスポート」(厚生労働省推進ツール)を活用し、利用者が働く上で、自分の特徴や希望する配慮を自ら整理ができるように支援する。また、企業担当者との情報共有の場で更新し、必要な支援を受けられる体制作りを行う。
- (エ) 特別支援学校の進路担当者との情報交換し、生徒・保護者が進路の見通しが立つようなアセスメントが行えるように、計画的かつ効果的な実習を行う。

3. 次世代を担う人材育成への取り組み

- (ア) e-ラーニングや外部研修、スキルラダーを活用し、利用者の障がい特性の理解や職業指導スキル向上を図る。
- (イ) 法律や制度に則ったサービス提供を遵守するため、定期的に勉強会を開催する。
- (ウ) 根拠に基づいた感染対策ができるように、実践を想定したロールプレイング訓練を実施する。
- (エ) 新たに導入されるケア記録システムの機能を活用し、業務の効率化を図るとともに捻出した時間を利用者支援に活かしていく。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 近隣の福祉施設に喫茶スペースを開放し、外出や交流の機会を提供する。

【数値指標】

	聖隷厚生園ナルド工房		
	就労移行支援	就労継続支援B型	就労定着支援
利用者定員	10名	30名	20名(利用者数)
利用者延べ人数	2,131名	5,940名	10名(登録者)
一日平均利用者数	8.7名	24.2名	-名
稼働率	87.0%	80.8%	-%
稼働日数(延べ)	245日	245日	-日
単価(一人一日当り)	10,195円	7,175円	29,769円
サービス活動収益	25,442千円	52,869千円	4,412千円
職員数(常勤換算)	11.3名		

浜松学園

障害者支援施設 聖隷チャレンジ工房浜松学園
就労継続支援 A 型事業所 聖隷ワース工房浜松学園
生活介護事業所 聖隷ステップサポート

2022 年度は多様なニーズに応えることができるよう、それぞれの事業が地域で求められていることを捉え、できることを着実に実行する 1 年とした。その結果、入園選考会では例年より多くの方にご応募いただき、2023 年 4 月には 50 名以上の新しい利用者を迎える準備が整った。

就労移行支援では 2022 年 12 月現在で 20 名の企業就職が実現し、過去 3 年間の就労定着率 100% 維持できている。またリネン作業や菓子製造販売、事務作業などの新作業をスタートさせ、就労継続支援 B 型では目標平均工賃を上回る作業工賃支給を達成することができた。

2023 年度は就労支援の質をさらに向上させ、地域社会と連携し、多様なニーズを抱えた利用者一人ひとりの未来をともに描く支援ができる浜松学園を目指す。

【施設理念】

『働く』・『暮らす』 — その人らしい未来を描けるようともに歩む —

【経営方針】

1. 「働く」平均工賃 25,000 円/月、6 か月就労定着者 15 名を目指す
2. 「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者の地域社会の中で生きる力を養う
3. 「学ぶ」「わかる」「できる」ことの喜びを利用者の自信につなげる
4. 顕在化された各事業の課題解決への取り組み
5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化
6. 地域における公益的な取り組みを行う

【事業・運営計画】

1. 「働く」6 か月就労定着者 15 名以上、平均工賃 25,000 円/月を目指す
 - (ア) 仕事に取り組む姿勢や意欲に着目した作業評価を作業工賃支給額に反映させる
 - (イ) 職場見学や体験実習先を開拓し、利用者が就労する上での課題を見出せる機会を提供する
 - (ウ) 就労パスポートをケース担当者が中心に利用者、作業担当、就労支援員で共同して作成し相手先企業へわかりやすく利用者の能力や特性を説明できるようにする
 - (エ) 施設作業⇒実習⇒就職⇒定着支援の時期をサービス担当者会議で決定し、計画的に支援する
 - (オ) 就職先企業担当者と意見交換するための協議会を開催し、障がい者雇用に対する企業側からみえている課題を共有し、次なる就労定着支援の取り組みにつなげる
2. 「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者の地域社会の中で生きる力を養う
 - (ア) 特別支援学校等の教育支援計画の内容を引き継ぎ、ケース担当者が利用者の障がい特性に

- 基づくアセスメントを行い、PDCA サイクルによる“チーム”で課題解決できる支援をする
- (イ) 利用者の日誌や生活環境 check シートを基に、ケース担当者が定期面接を行い、自己理解を引き出す支援を行う
 - (ウ) 体験利用者の心に残る浜松学園のオリジナル食事メニューを開発し、提供する
 - (エ) 利用者による自治会運営では、利用者自身が生活の仕方やルールをグループで考え、自ら決めて生活できることを支援し、自立を促進する
 - (オ) 利用者と職員がともに計画し楽しめる行事企画を行い、個別支援に必要な関係性を築く

3. 「学ぶ」「わかる」「できる」ことの喜びを利用者の自信につなげる

- (ア) 生活支援講座（携帯電話の使い方、性教育、食生活、感染対策）を行い、講座ごとに利用者同士でグループワークを行い、考えを深める支援を行う
- (イ) 就労している先輩の体験談や職場見学、職場実習の経験を基にグループワークを行い、利用者個々に“仕事する上で大切なことは何か？”を考える機会を提供する
- (ウ) 職場でのコミュニケーションの課題解決をするための社会生活技能訓練を行う
- (エ) パソコン検定に基づく、ワード、エクセルの基本操作を学ぶ機会を提供する

4. 顕在化された各事業の課題解決への取り組み

(聖隷ワース工房浜松学園)

- (ア) 生産活動、支援力の向上、地域連携活動を強化し、スコア値「130点」以上を目指す
- (イ) 他就労支援事業などの関係機関と連携し、広く体験実習を受け入れる体制を作る
- (ウ) filo 事業、事務、介護周辺業務、厨房業務などの業務委託で15名分の仕事を創出する。
- (エ) 下半期に1名以上の就職6カ月定着者を輩出する。

(聖隷ステップサポート)

- (ア) 五感を刺激するレクリエーションやリハビリテーションを取り入れ、重度の肢体不自由者が楽しめる活動を充実させる
- (イ) 作業療法士が西部特別支援学校の自立活動への支援を行い、連携を深める
- (ウ) 医療的ケアが安全に行える体制を整える
- (エ) 訪問リハビリテーションと連携し、在宅生活とのつながりのある支援を提供する

(短期入所)

- (ア) 土日祝日の開所を行い、多くのニーズに応えることのできる体制を整える
- (イ) 今後施設入所を検討している中学・高校生に対して、短期入所を定期的に利用できるような体制を整え、入園後の生活イメージができるような支援を行う
- (ウ) 近隣の通所の就労支援事業所や特別支援学校等に通う方に利用を勧め、親元から離れて生活する経験から自立の気持ちが芽生えるように支援する

(全事業)

- (ア) オープンキャンパスを行い、新規利用につなげるように広く浜松学園の情報を公開する取り組みを行う
- (イ) 利用を検討している生徒やその保護者に学校教員が浜松学園を分かりやすく案内していただけるように“浜松学園紹介動画”を作成し、配布する

5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化

- (ア) BCP（事業継続計画）の作成を行い、非常災害時に備える
- (イ) 新型コロナウイルス感染拡大を防止するための利用者・職員研修を定期的に行う
- (ウ) e-ラーニングを活用し、障がい者就労支援の知識を全職員で共有し、実際の支援に生かす
- (エ) 研究論文発表で必要な知識を習得するためのグループディスカッションを定期開催する

6. 地域における公益的な取り組みを行う

- (ア) 施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる
- (イ) 地域の要請に応じて、災害等発生時には応援職員を派遣する

【数値指標】

	聖隷チャレンジ工房浜松学園				
	入所	短期	就労移行	就労継続B	就労定着
利用者定員	60名	10名	30名	30名	1名
利用者延べ人数	14,717名	1,661名	8,354名	8,795名	200名
一日平均利用者数	42.0名	6.0名	33.8名	35.6名	1名
稼働率	70.1%	60.2%	111.4%	118.7%	1%
稼働日数(延べ)	350日	276日	247日	247日	1日
単価(一人一日当り)	3,819円	7,333円	8,119円	7,156円	36,360円
サービス活動収益	50,768千円	13,468千円	114,883千円	97,556千円	7,272千円
常勤換算職員数	28.6名				

	ステップサポート	ワース工房
	生活介護	就労継続A
利用者定員	20名	15名
利用者延べ人数	5,177名	3,193名
一日平均利用者数	20.3名	13.1名
稼働率	101.1%	87.6%
稼働日数(延べ)	256日	243日
単価(一人一日当り)	12,243円	8,352円
サービス活動収益	65,383千円	147,825千円
常勤換算職員数	13.2名	4.6名

軽費老人ホーム もくせいの里

2023年度もくせいの里は、入居者の「もくせいの里で安心して長く暮らしたい」との思いに応えていくため、「身体」「こころ」「社会性」のフレイル予防に取り組む。居室から外に出る機会を増やすため、法人内事業所の協力を得ながら多職種協働で日中活動プログラムの充実を図る。更に、これまでの行事や外出企画等の催し物の見直しや新企画を行うことで、入居者の生活意欲を高めることにより自立生活の継続を支援していく。また、要介護（支援）認定の入居者については、介護保険サービスを活用しながら重度化予防に取り組む。

新型コロナウイルス感染症や国際的な紛争等により、施設運営に大きな影響が及ぶ中、光熱費や食材費について目標値を設けて取り組んでいく。特に食材費については、日常の食事や配食サービスの質を落とすことなく、フードロス削減の観点からも重点的に取り組んでいく。

最後に、1978年に軽費老人ホームA型として設立された当施設は建築後45年が経過する。施設の老朽化が進む中、今後も地域住民からの社会的・経済的ニーズに応じていけるよう、事業形態の在り方を踏まえた建て替え方法について具体的議論を推進していく。

【施設理念】

入居者の自由と尊厳ある生活を支援し、穏やかで明るい生活作りをめざす。

【経営方針】

1. 職員間、職場間、また法人内の他事業所との連携を強化し、入居者がもくせいの里で安心した生活が過ごせる支援を行う。
2. 入居者・利用者に満足していただける質の高い食事提供を行う。
3. 老朽化している施設の設備更新をはかり、安心して利用できる施設を目指す。
4. 入居者と職員が協力して地域との交流を図り、地域貢献を積極的に行う。

【事業・運営計画】

1. 質の高い「暮らしサポート」の提供
 - (ア) フレイル予防のため、2022年度より開始した「ロコモ教室もくもく」を継続開催し、事業対象者に対してデイサービスの利用などの在宅介護サービスにつなげていく。
 - (イ) 入居継続可能な基準（ADL・IADL）を設定し、もくせいの里で継続して暮らせるよう、予防的支援を提供する。
 - (ウ) 入居者の咀嚼・嚥下能力について、個々人の能力に応じた食形態の工夫や能力維持のための支援を行う。また、その知識を得るための外部研修参加や勉強会を開催する。
 - (エ) 新規入居時に、日常生活動作等を把握するため、基本チェックリストを活用して、状態確認を行い、必要に応じて地域包括支援センター細江に繋げていく。
 - (オ) 配食サービス利用者の安否確認時（配食時）の状況について、家族や地域包括支援センター等と情報共有していく。

2. 健全運営の推進

- (ア) 光熱費や食材料費等の物価高騰に対し、2022年度比、電気料は126%以下、ガス代は130%以下、食材料費は103%以下を目指す。
- (イ) 待機者確保のため、民生委員への施設紹介や、近隣のビレッジハウス（旧雇用促進住宅）への情報提供を行っていく。
- (ウ) 感染症の施設内蔓延に備え、検査キット・衛生用品等の備蓄を進めるとともに、感染症拡大防止のため、入居者の協力が得られる取り組みを行う。
- (エ) 配食サービス数増加のため、通所介護利用者へ夕食の配食について営業活動を行う。
- (オ) 設備点検等での不具合は早期に対応し、少しでも長く建物・設備を維持する。

3. 職員の資質の向上

- (ア) 目標参画システムを推進するにあたり、専門職ラダーやeラーニングを連動させ、個々の目標に応じた人材育成を図る。また、外部研修に適宜参加し、職員のスキルアップと入居者のサービス向上を図る。
- (イ) 新たな行事・催し物等の企画を創出し、職員自身の働きがいやワクワク感が持てる仕事に結びつくよう取り組む。
- (ウ) 他の軽費老人ホームとの交流を密にし、支援の幅が広がる取り組みを行うと共に、今後の施設運営の在り方を検討する。

4. 地域社会への貢献

- (ア) ひとり暮らし高齢者・重度身体障害者等配食サービスを継続して受託する。
- (イ) 近隣幼稚園との定期的な交流を行う。新型コロナの状況により、交流が困難な場合は、草取りや園庭清掃など、入居者とともに協力できることを検討する。
- (ウ) 地域住民と入居者の交流を目的に、毎月開催される「湖東公民館サロン」の企画・運営に協力する。

【数値指標】

	軽費老人ホーム	配食サービス	計
利用者定員	50名	—	
利用者延べ数	18,300名	16,485名	
1日平均利用者数	50.0名	53.5名	
稼働率（％）	100.0%	—	
稼働日数（延べ）	366日	308日	
単価（一人一日当り）	6,175円	700円	
サービス活動収益（千円）	112,996千円	11,540千円	124,536千円
職員数	12.7名	2.4名	15.1名

いなさ愛光園

特別養護老人ホームいなさ愛光園
いなさ愛光園デイサービスセンター(通常規模型・認知症対応型)
聖隷ケアプランセンターいなさ
いなさ愛光園在宅介護支援センター
いなさ愛光園ヘルパーステーション(訪問介護/居宅介護)
ほのぼのケアガーデン(認知症対応型共同生活介護)
ひとり暮らし高齢者等配食サービス

2022年度は新型コロナウイルス感染症オミクロン株の急激な感染拡大で、施設においても右往左往することになった。サービスごとに利用制限があり、利用者・家族だけでなく他事業所にも迷惑をかけた。

また、2022年度は「利用者に寄り添うことで質の高いサービスを提供していきたい」を念頭に実践してきたが、2023年度は「質の高いサービス提供をするため、一人ひとりの基本的な介護力を高める」を中心に実践したい。北区唯一の中山間地域に所在する福祉施設であるので、引佐地区を中心にサービスを提供してきたが、地域包括支援センター細江と連携しながら、旧引佐郡全域を意識した活動を行う。

【施設理念】

利用者の尊厳保持を援助の基本に捉え、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する

【経営方針】

1. 充実した個別援助を提供するため、いなさ愛光園全体が濃密な連携を図る
2. 地域において信頼されるサービスを提供するため、職員資質の向上に努める

【年度事業目標・年度重点施策】

1. ICT機器を効果的に活用した新しい介護業務の構築をする
 - (ア) 2022年度に購入した見守りシステムの実践と検証を継続する
 - (イ) インカムを活用し職員の連携を拡大する
 - (ウ) ご利用者の状態を可視化し、職員間での情報共有を図る
 - (エ) 「HIMVIT」「AI ケアプラン」「データ連携システム」を導入して業務負担の軽減に繋げる
 - (オ) 個人情報の取り扱いを十分に徹底する
2. 利用者の意向やこれまでの生活を尊重した支援をする
 - (ア) 利用者の個別ケア、認知症ケアの推進をする
 - (イ) 口腔ケア、褥瘡予防ケアの理解を深めた実践をする
 - (ウ) 看取り介護情報検討シート等を活用し、実践を通してスキルアップを図る

- (エ) 清潔で明るく安全な環境で過ごして頂く
- (オ) 新規入所者がいる場合は、入所系職員と在宅系職員が集まり情報共有をする

3. 人材育成と働きやすい職場環境の整備をする

- (ア) 介護ラダー・介護のe-ラーニング等を活用し基本的な介護力を高める
- (イ) 医療的ケアに対応するために喀痰吸引等修了者を計画的に増やす
- (ウ) 職員のメンタルヘルスケアの充実や腰痛等の対象者を減少させる
- (エ) 次世代を担うリーダー職員をつくる

4. 安定した施設運営をする

- (ア) 2024年度の診療報酬・介護報酬同時改定に向けた準備をする
- (イ) 認知症専門ケア加算等の新たな加算取得を見据えた検討をする
- (ウ) 自然災害発生時における業務継続や防災計画の定期的な見直しと周知をする
- (エ) 経営状況を踏まえて修繕計画及び設備・備品の更新をする
- (オ) 感染症発生時の訓練実施と必要物品の管理をする

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 家族介護者教室の企画運営やサロン活動等を運営支援する
- (イ) 地区社協主催のふれあい祭りや祭典等の地域行事に参加をする
- (ウ) 自治会の県総合防災訓練に参加し、理解を深める
- (エ) 福祉避難所として必要時に開設できるよう準備する
- (オ) 社会福祉法人利用者負担軽減事業の継続をする

【数値指標】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護・居宅介護支援・委託事業

	特養入所		短期入所	通常規模型通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	介護	予防
利用者定員	30名	40名	20名	35名	
利用者延べ人数	10,760名	14,603名	6,220名	7,839名	1,007名
一日平均利用者数	29.4名	39.9名	17.0名	25.3名	3.3名
稼働率	98.0%	99.8%	85.0%	81.5%	
稼働日数(延べ)	366日	366日	366日	310日	
単価(一人一日当り)	13,575円	14,974円	13,607円	9,891円	
サービス活動収益	146,183千円	218,705千円	84,634千円	87,498千円	
職員数(常勤換算)	49.7名		15.2名	15.0名	
	認知症対応型 共同生活介護	居宅介護支援		認知症対応型通所介護	
		介護	予防	介護	予防
利用者定員	9名			12名	
利用者延べ人数	3,257名	1,680名	600名	3,090名	0名
一日平均利用者数	8.9名			10.0名	0名
稼働率	98.9%			83.0%	
稼働日数(延べ)	366日	366日	366日	310日	
単価(一人一日当り)	14,063円	17,657円	3,820円	12,792円	
サービス活動収益	45,802千円	32,856千円		39,528千円	
職員数(常勤換算)	7.7名	4.3名		6.7名	
	訪問介護		居宅介護 (障害)	配食サービス	在宅介護支 援センター
	介護	予防			
利用者定員					
利用者延べ人数	2,009名	991名	362名	1,699名	
一日平均利用者数	5.6名	2.7名	1.0名	5.8名	
稼働率				—	
稼働日数(延べ)	362日	362日	362日	293日	366日
単価(一人一日当り)	4,581円		3,365円	678円	
サービス活動収益	13,915千円		1,218千円	1,152千円	
職員数(常勤換算)			4.1名		
	合計				
利用者定員					
利用者延べ人数					
一日平均利用者数					
稼働率					
稼働日数(延べ)					
単価(一人一日当り)					
サービス活動収益	671,491千円				
職員数(常勤換算)	102.6名				

聖隷ケアセンターいなさ

地域包括支援センター細江

聖隷リハビリプラザいなさ

2023年度北区旧引佐三町地域は、高齢者が増加する一方で支援の担い手の減少、地域のクリニックの閉鎖など高齢者が住み慣れた地域で生活することがますます困難になることが予想される。社会資源が乏しい当該地域において本人の住み慣れた地域で本人が望む生活の継続実現の為、地域のニーズに合致した事業をケアセンター内のみならず、法人内の他事業所と連携・協働し展開していく。

【拠点理念】

隣人愛の精神のもと、地域とつながり、共に生きる

【経営方針】

旧引佐三町において、住民が住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現をめざし地域で支援を必要とする要援護者及びその家族等の人権、自立心、価値観等を尊重し柔軟で包括的な支援を実施する

【事業・運営計画】

1. 住み慣れた地域での生活継続の支援体制づくり

(ア) 各事業所の地域への支援

① 聖隷リハビリプラザいなさ

機能訓練と健康管理、各機関との連携による重度化予防の充実を図る

② 地域包括支援センター細江

幅広い世代への周知や他分野機関との連携による早期発見・対応機能の充実を図る

(イ) 認知症の周知

① 地域の小学校、中学校、高等学校、大学等の教育機関を中心に認知症サポーター養成講座及び認知症ひとり歩き模擬訓練を開催

(ウ) 意思決定支援の推進

2. 運営の安定化

(ア) 新規利用者の積極的な受け入れと適正な加算の算定を行う

(イ) サテライト三ヶ日提供時間の延長

(ウ) 職員が働きやすく、やりがいを感じられる職場づくりの取組み

3. 拠点機能の強化

(ア) いなさ愛光園との連携の強化

① いなさ愛光園在宅サービスによる設備の活用と地域向け広報活動の実施

(イ) 地域の支援者との連携の強化

①ケアマネジャーをはじめとした地域の支援者の事例検討会、支援者会議、地域ケア会議
開催支援

②地域の社会資源の情報集約と発信

(ウ) 高齢者分野以外の要援護者、多問題世帯への支援

①法人内障がいサービス事業所との連携

聖隷ステップサポート利用者、送迎の乗り換え中継点として支援

②北障がい者相談支援センター、生活自立相談支援センターつながり、医療機関、行政等
との連携による支援困難世帯、虐待高リスク世帯への対応力強化

4. 地域における公益的な取組

(ア) 自主運営のノルディックウォーク愛好会の継続的な活動の支援

(イ) 学習支援教室継続へ会場提供を通じた支援

(ウ) 訪問看護ステーション三ヶ日・聖隷ケアプランセンター三ヶ日・いなさ愛光園と連携し、
地域に向けた定期的なイベントと相談会の実施

(エ) 地域交流スペースを地域のつながりの場として活用

【数値指標】

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント単価	総収入	職員数 (常勤換算)
52,740 千円	予防支援 3,785 件	3,035 件	4,471 円	83,429 千円	9.6 人
	マネA 2,395 件	1,715 件	4,471 円		
	マネB 890 件	— 件	3,246 円		

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価(円)		総収入 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
28.0 名	677 名	8,129 名	106 名	1,279 名	7,767 円	26,001 円	93,908 千円	17.2 名

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

2022年度も新型コロナウイルス感染症は終息することなく、ご利用者、職員の生活に大きな影響を及ぼし続けている。それでも感染対策を講じ、できる限り感染拡大前の状況に近づけられるよう努力をした1年だった。一方でICTを活用し、業務の効率化やケアにおいて新たな取り組みができたと考えている。2023年度は3事業所の強みを活かし、住み慣れた自宅で生きがいを持って生活するための支援を継続する。予防から終末期まで、様々なご利用者への理解を深め個々の利用者に寄り添うケアを提供していく。

【拠点理念】

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【事業・運営計画】

1. 浜松市北部エリアにおいて「地域に求められる」ケアセンターになる
 - (ア) 3事業所の強みを活かし、利用者が「その人らしく」生きる支援をする
 - (イ) 手狭になった事務所を効率よく使うための工夫をするとともに、センターの移転・分割・合併も含めて検討を進める
2. 利用者の思いに沿ったケアを提供するための質の向上を目指す
 - (ア) 利用者の思いを形にするためのケアの質の向上を図る
 - ① デイサービスセンター三方原
口腔・栄養・運動の視点を通じた評価とプログラムを立案、実施する
認知症予防に効果のあるプログラムを取り入れ、評価をすると共にご家族への支援をする
ICTの活用、タスクシフティングを進め、生産性の向上を図る
2024年度の介護保険制度改定に向けて準備をする
 - ② ケアプランセンター三方原
ケアセンター内での連携を強化し、ご利用者が地域で暮らし続けられる支援をする
利用者・家族の「これからの暮らし方」について思いや意向を聴き、支援する
近隣の医療機関、福祉・介護施設など、地域資源との連携を強化する
 - ③ 訪問看護ステーション三方原
地域で暮らしたい方々を支援するために、医療依存度の高い利用者支援体制の充実を図る
医療ケアを必要とするお子様への支援と、ご家族が安心して子育てができる支援をする
精神疾患を持つ方々の多様性を受け止めるため、精神科医療、看護の知識を習得する
3. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) ロコモーショントレーニングサロン活動の内容を継続する
 - (イ) 地域活動（清掃活動・防災訓練等）へ積極的に参加する

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
194 人	957 件	11,483 件	9,807 円	112,627 千円	14.9 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
2,204 件	608 件	16,000 円	3,422 円	24 件	4,400 円	37,004 千円	5.4 名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
平均 利用者	月間 利用者	年間 利用者	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
32.8 人	846 人	10,160 人	75 人	900 人	6,472 円	29,879 円	86,849 千円	18.7 名

通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

平均利用者数	月利用者数	年利用者数	単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
1.5 人	38 件	463.5 件	7,896 円	3,863 千円	18.7 名

三ヶ日地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日

聖隷ケアプランセンター三ヶ日

2023年4月に訪問看護ステーション単独事業所から、聖隷ケアプランセンター三ヶ日（聖隷ケアプランセンターいなさ南部が移転・名称変更）が加わり、三ヶ日地区在宅複合事業としての運営を開始する。2事業所が迅速な連携が図れる利点を活かし、地域ニーズに対して、更なる貢献ができる体制を構築する。

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日では、三ヶ日町において「早期にサービスが繋がり、望む療養ができる地域作り」を目指し、湖西地区においては「関係機関との顔の見える関係づくり」を強化し、聖隷訪問看護の浸透を図る。

聖隷ケアプランセンター三ヶ日では、介護や医療が必要な状態になっても、地域で住み続けられることが出来る支援体制の強化を図る。

【施設理念】

利用者と家族に寄り添い、住み慣れた地域で「自分らしく安心して暮らせること」を支え続ける

【経営方針】

（聖隷訪問看護ステーション三ヶ日）

1. 医療機関やサービス事業所と連携し、早期にサービスが繋がる基盤をつくる
2. 意思決定支援の推進
3. 職員が元気に、やりがいを実感できる

（聖隷ケアプランセンター三ヶ日）

1. 地域で暮らし続けていくために必要な支援体制づくりの推進
2. 運営の安定化
3. 働きやすく、やりがいを持って仕事ができる環境づくり
4. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

（聖隷訪問看護ステーション三ヶ日）

1. 医療機関やサービス事業所と連携し、早期にサービスが繋がる基盤をつくる
 - （ア）地域の医療機関との顔の見える関係づくり
 - （イ）聖隷ケアプランセンター三ヶ日との連携強化
 - ①定期的な事例検討会開催
 - （ウ）障害支援事業所との連携強化
 - ①相談支援事業所ナルド、浜松市北障がい者相談支援センターへバックアップ依頼
 - ②三ヶ日町内の相談支援事業所主催のイベントへの参加
2. 意思決定支援の推進

- (ア) なおとらシート、人生会議手帳の利用推進
 - 3. 職員が元気に、やりがいを実感できる
 - (ア) 内・外部研修への計画的参加と伝達講習にて、職場全体の知識・技術の向上に努める
 - (イ) ナーシングスキル（e-ラーニング）の活用の推進
 - (ウ) 超過勤務削減のため、直帰の推奨
 - 4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域包括支援センター細江と連携し、地域に向けた定期的なイベント開催
- (聖隷ケアプランセンター三ヶ日)
1. 地域で暮らし続けていくために必要な支援体制作りの推進
 - (ア) 聖隷訪問看護ステーション三ヶ日との連携で地域の在宅療養体制の発信・強化
 - ① 定期事例検討会の開催
 - ② 聖隷三方原病院への病棟ラウンド、退院支援看護師会議への参加継続
 - (イ) いなさ愛光園、聖隷リハビリプラザいなさとの連携で、地域の介護体制の強化
 - (ウ) 各サービス事業所・医療機関と顔の見える関係性の維持
 - ① 包括主催の研修への参加
 - (エ) 意思決定支援の推進
 2. 運営の安定化
 - (ア) 継続的な新規利用者の受け入れを行う。特にターミナル期利用者に対しては聖隷訪問看護ステーション三ヶ日と連携し積極的に受入れる
 - (イ) 超過勤務時間削減のため、直行直帰の活用
 - (ウ) 新たな担い手の確保
 - ① 法人内のケアマネジャー試験対策講座への協力
 3. 働きやすく、やりがいを持って仕事が出来る環境づくり
 - (ア) 研修計画に基づいた研修への参加と伝達、勉強会の実施で得た知識を利用者に還元する
 - (イ) AI ケアプラン、ケアプラン連携データシステムの導入による業務効率化
 4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域包括支援センター細江と連携し、地域に向けた定期的なイベントの開催

【数値指標】

(聖隷訪問看護ステーション三ヶ日)

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
117 人	532 件	6,385 件	9,782 円	61,367 千円	8.5 名

(聖隷ケアプランセンター三ヶ日)

年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
2,046 件	388 件	15,900 円	3,900 円	24 件	4,400 円	34,841 千円	5.6 名

浜北愛光園

特別養護老人ホーム浜北愛光園 浜北愛光園デイサービスセンター
障害者相談支援事業所浜松東 聖隷ケアプランセンター浜北
地域包括支援センター北浜 訪問看護ステーション貴布祢
聖隷チャレンジ工房浜北

2022年度は、新型コロナウイルスの感染対策を継続しつつ今まで休止をしてきたイベントや企画を新しい形で開催し、福祉施設における With コロナを実践してきた。更に2020年度から導入してきたICT機器について、当初予定の大部分が導入され効果の検証や業務改善を行った。機器を複合的に活用することで大胆な業務改善が実施できた。これらは、利用者職員のやりたかった事を実践する基盤を構築できたと考える。また、複合施設としての強みを生かす為に、在宅利用開始から施設での看取り期までを全体でサポートする為の仕組みや、部門を超えた事例勉強会など事業種別にとらわれない垣根を超えた利用者連携が構築できた。

2023年度は、「私達は何の為に、誰の為に働くのか」に立ち返る。機器導入によって単に「便利になった」「仕事の負担が軽減した」ととどまってはならない。私達は組織や個人における福祉職としてのあるべき姿や大切にしてきたことを実践するために現場改革に取り組んできた。まずは、目の前にいる利用者に質の高いサービスを提供するために、更なる業務改善と職員教育を推進する。さらに、サービスの狭間にいる方や地域で困っている方が誰ひとり漏れることなく支えることができるように施設内連携を発展させ実践する。そして、それらの精神を次世代を担う職員へ継承していく年度とする。

【施設理念】

わたしたちは利用者と職員の「その人らしい自立（自律）」を大切にしたい施設づくりを追求します

【経営方針】

1. 誰一人もれることが無いよう複合施設としての利点を活かした、サービスを追求・実践する
2. 地域や利用される方のニーズや想いを大切にできる職員を育成する
3. 個人やチームの創造力や専門性を高め、質の高いサービスを継承、発展させる
4. クリーンで健全な運営を行い、安定と発展ができる経営をおこなう
5. 地域貢献と地域の公益的な取り組みをおこなう

【年度事業目標・年度事業計画】

1. 複合施設の強みを生かした、制度の枠にとらわれない支援体制の構築
 - (ア) 事業所種別を超えたカンファレンスや人事交流を活発化させ、サービスの枠を超えた協力体制の構築を図り、サービスを一貫して行うワンストップ支援体制を推進する
 - (イ) 【地域課題解決会議】を通じて、地域課題の発掘と困っている方が漏れなく支援が受けられる体制の立案・実施をおこなう
 - (ウ) 高齢・障がい、施設・在宅にとらわれない職員の育成と参画できる環境を整備する

2. 利用される方々のニーズや想いが実現できる支援を行う
 - (ア) サービス開始時に聴取したニーズや意向等を「人生会議手帳」に落とし込み、在宅から施設へ移行しても、ニーズや想いが継承できるよう仕組化する
 - (イ) 利用者の自己実現の為に、意欲（健康や就労等）向上を図る取り組みを行う
 - (ウ) 認知症による介護や医療ケアを必要とする方が、安心してサービスを利用できるように在宅・施設の対応力の強化と連携を深める
 - (エ) ICT 導入や業務改善を行った結果、うまれた時間やゆとりを利用者に還元し、利用者の尊厳を尊重するケアを追求する
 - (オ) リスクマネジメントを徹底し、介護者が原因となる事故の防止を図るとともに、事故発生時に利用者・家族へ不安のない再発防止にむけた対応をおこなう

3. 新しい働き方への創造力と質の高い専門性を備えた職員育成を行う
 - (ア) 新人職員からリーダー職員、役職者までの教育体制を再構築し次世代職員の育成を行う
 - (イ) 職員個々のキャリアデザインから、必要な資格取得や研修参加を促し、将来を見据えたスキル獲得を支援する
 - (ウ) 入所施設における ICT 機器導入と活用後によってうまれた時間を活用するために、介護職員としてのやりたかった事を実現する
 - (エ) ICT 機器等を複合的に活用し、看護・栄養・相談・事務職員の業務を見直し、根本的な業務改善を実施する
 - (オ) 福祉職としての喜びを分かち合える機会を設け、職員同士研鑽しあえる環境をつくる

4. 運営安定化の推進
 - (ア) 新規利用者獲得の為に、SNS（ヒトメクコネクト・LINE 等）を活用した、広報活動の充実を図る
 - (イ) 浜北内の相談支援事業所からサービス事業所にスムーズに紹介できる仕組みをつくる
 - (ウ) 新たに購入した物品が効果的に使用できているかを精査し、適正な在庫管理をおこなう
 - (エ) 拠点施設としてエリア内の連携を高め、有事の際の協力体制を築く

5. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 【地域課題解決会議】で抽出されたニーズをもとに、専門職による出前講座等、地域の中の施設として広報と地域貢献活動にとりくむ
 - (イ) 大規模災害に備え、地域の集まりや訓練に参加し、災害発生時に協力できる関係づくりをする

【数値指標】

■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				デイサービス		障害者 相談支援 事業 (浜松東)
	特養入所		短期入所		通所介護		
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型	一般型	予防	
利用者定員	50名	100名	20名	20名	40名		
利用延数	18,209名	36,490名	5,696名	5,778名	6,499名	108名	
一日平均利用者数	49.8名	99.7名	15.6名	15.8名	21.0名	0.3名	
稼働率(%)	99.5%	99.7%	77.8%	78.9%	53.5%		
稼働延日数	366日	366日	366日	366日	309日		
平均介護度	3.8	3.7	2.9	3.0	2.4		
単価(一人一日)	12,732円	14,798円	11,482円	12,724円	11,190円		
サービス活動収益 (千円)	231,833 千円	539,983 千円	65,401 千円	73,519 千円	73,931 千円		12,582 千円
職員数(常勤換算)	41.7名	65.9名	9.1名	11.7名	15.9名		3.0名

■居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター浜北)

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,799件	360件	17,550円	3,800円	2件	4,400円	33,835千円	4.5名

■地域包括支援事業(地域包括支援センター北浜)

浜松市受託収入 (千円)	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
36,350千円	1,362件	804件	4,471円	55,562千円	7.3名

■訪問看護事業(訪問看護ステーション貴布祢)

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
197名	923件	11,078件	10,034円	111,157千円	15.1名

■障害福祉サービス事業(聖隷チャレンジ工房浜北)

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働 日数	単価	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
就労移行	10名	2,185名	70.5%	310日	10,388円	22,698千円	15.1名
就労継続	20名	6,119名	98.7%	310日	10,489円	64,181千円	
就労定着		106名			36,340円	3,852千円	
生活介護	10名	2,459名	101.2%	243日	7,154円	17,591千円	

森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園
森町愛光園天宮サテライト
森町愛光園デイサービスセンター
森町愛光園ホームヘルパーステーション
聖隷ケアプランセンター森町
聖隷放課後クラブはなえみ森町

2023年度森町愛光園は、開設30周年を迎えるにあたり、改めて、自分たちは、森町で「人の暮らしを護り助ける介護サービスを提供する事業所」であることを自覚し、実践する組織としてREBORN（リボーン）、RESTART（リスタート）する。そのために、職員一人一人が、自分たちが提供している介護サービスは、「自分が利用したい介護サービスか?」、「なくてはならない介護サービスか?」を問い直し、対人援助者として自分自身と、所属する組織の役割を自覚して実践できる組織となる一歩を踏み出したい。

それは、2024年度に来るべき制度改正のみならず、今後の利用者像の変化に備え、自分たちの提供する介護サービスが「科学的根拠を持った生活支援サービス」として提供できるよう、担い手として一人一人の職員が、スキルアップする仕組みづくりに取り組むことに他ならない。

そのために、人材不足や、利用者、待機者の減少の原因を外に求めるのではなく、施設全体で、法人の理念、施設の理念を実践できる人づくり、組織作り、環境整備に惜しみなく取り組むことが大切である。「人のために何かをしたい」という福祉の仕事への想いの原点を全職員が心に持ち、誇りを持って働ける施設として、中東遠で最も「人が集い、笑顔あふれる場所」となることを目指したい。

【施設理念】

わたしたちは、ご利用者・地域・職員の「幸せ」のために最善を尽くします

【経営方針】

1. わたしたちは、利用者の「尊厳」を守ることを第一とし、人生の最期まで望む生活が実現できるように、利用者に寄り添い続けます。
2. わたしたちは、福祉・介護サービスを通して、地域の人々が安心して住み続けられる社会づくりに貢献します
3. わたしたちは、質の高いサービス提供のために、当たり前のサービスマナーと倫理観を身に付け、ホスピタリティ精神を大切にす人材の育成に努めます。
4. わたしたちは、これらのことに継続的に取り組み、地域ナンバーワンの施設としてあり続ける組織づくりを目指します

【事業・運営計画】

1. 働きがいのある組織と人材の育成の推進

- (ア) 職場長やリーダー層が、自分の言葉で一つ一つのケアの根拠を後輩に語れ、実践できるようにする。
- (イ) 介護支援システムや見守りシステム等の導入は、それ自体が目的でなく、それがどのように「入居者の暮らしを護る介護」につながるのかを考え続け活用する。
- (ウ) 仕事はチームで行うものであることを意識し、そのパフォーマンスを最大限に発揮できるようにルールづくり、リーダーづくり、メンバーづくりに取り組む。
- (エ) 個々の職員の世代、経験、能力、資格、特性を活かした事業提案を促せる組織になる。

2. 質の高い介護サービスの提供

- (ア) 全ての職員が、「人の尊厳とは何か」を理解し、利用者一人一人が最期まで「楽しみのある暮らし」を営めるように介護の知識・技術を高め実践し続ける。
- (イ) 各事業において、自分たちが支援すべき人々、そのために実践すべき事業を見定め、それを徹底的に実践し継続できるように、内外の連携を深める。
- (ウ) 「自立支援ケア」「重度化防止」は、利用者の尊厳の保持を根拠とした、楽しみのある幸せな生活を実現するための支援であることを自覚し、ブラさず、「利用者本位」を貫く。
- (エ) 修繕及び設備更新を惜しまずに行い、職場の環境整備の改善に徹底的に取り組む。

3. いつ何時も途切れることなく安心して事業継続できる仕組みづくり

- (ア) 感染症の蔓延を防ぎ、安全、安心な生活を継続できるように日常的なスタンダードプリコーションを徹底し、日頃から迅速な感染症対応ができるように仕組みを整える。
- (イ) 在宅利用者に対し、感染症の蔓延や大規模災害発生時においても、森町行政や周辺自治会と協力して安否確認や、必要なサービス提供について連携できる体制づくりを行う。
- (ウ) BCPを実践的に活用できるものにブラッシュアップし、対応できるよう訓練を重ねる。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の小学校・中学校からの福祉体験、職業体験の受入れや、特別支援学校の実習受入れ、高校や福祉系学校の介護実習、ボランティア体験の場として施設機能を提供する。
- (イ) 一宮町内会や天宮町内会で行われる、地域包括支援センター主催の地域ケア会議や地域防災訓練等に専門職を積極的に派遣する。
- (ウ) 静岡県災害派遣福祉チーム（静岡 DWAT）からの要請に基づき、職員派遣を行う。
- (エ) 静岡県社会福祉協議会、森町社会福祉協議会、一宮自治会と協力し、敷地内にある災害ボランティア用資材倉庫が迅速かつ的確に使用できるように積極的に共同運用する。

【数値指標】

	特養		天宮ヲラト	短期入所	通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防	
利用者定員	60名	20名	29名	12名	42名		
利用者延べ数	21,426名	7,078名	10,281名	2,807名	7,880名	1,312名	
1日平均利用者数	58.7名	19.4名	28.2名	7.7名	24.0名	4.3名	
稼働率	97.8%	97.0%	97.2%	64.2%	67.4%		
稼働日数（延べ）	365日		365日	365日	308日		
単価（一人一日当たり）	13,073円		14,058円	11,200円	9,688円		
サービス活動収益 （千円）	381,951千円		144,534千円	32,792千円	85,272千円		
職員数（常勤換算）	38.6名	16.7名	20.7名	5.7名	13.2名		
	在宅介護 支援センター	居宅介護支援		訪問介護			介護 合計
		介護	予防	介護	予防	障害	
利用者定員							
利用者延べ数		2,040名	345名	4,597名	797名	318名	
1日平均利用者数				12.6名	2.2名	0.8名	
稼働日数（延べ）				360日			
単価（一人一日当たり）		16,077円		4,268円	4,826円		
サービス活動収益 （千円）		34,139千円		23,333千円	4,676千円		695,280 千円
職員数（常勤換算）	0.1名	5.0名		6.0名			106.0名
	放課後等 デイサービス						
利用者定員	20名						
利用者延べ数	4,172名						
1日平均利用者数	17.2名						
稼働率	85.8%						
稼働日数（延べ）	4,860日						
単価（一人一日当たり）	8,380円						
サービス活動収益 （千円）	34,962千円						
職員数（常勤換算）	7.6名						

聖隷ぴゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ

聖隷放課後クラブはなえみ磐田

相談支援事業所磐田みなみ

聖隷チャレンジ工房磐田

磐田市発達支援センターはあと

磐田市子育て支援総合センターのびのび

磐田市南部地域包括支援センター

磐田市南部障害者相談支援センター

磐田市地域活動支援センター

2022年度は、新型コロナウイルス感染症等の影響はあるものの、“保護者同士・地域とのつながり”の再構築に向け歩みだした。また、地域の実情を踏まえ、設置を希望していた「磐田市地域活動支援センター」事業をプロポーザルの結果、新規受託することとなった。2023年度は、子ども家庭庁が設立され子どもを中心とした家庭まるごと支援の体制が一元化される。行政の体制変更に留意しつつ、利用者を中心とした事業所間・地域との有機的連携を行うこと、“つながり”を大切に各事業が家庭や地域から求められている変化（ニーズ）に柔軟に対応すること、ICT活用で見出した価値を利用者と職員に還元することを通して、地域に根差した施設運営につなげていきたい。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します

【経営方針】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する

(ア) 聖隷こども発達支援センターかるみあ

- ① 自尊心や安心感を育めるよう、一人ひとりの子どもの強みを活かした発達支援を提供する
- ② 家庭機能をアセスメントし、保護者を受け止め、よりよい意思決定をサポートする
- ③ 保育所等訪問支援を核とし、その子らしい就園・就学を連携支援で支える
- ④ 児童発達支援センターの中核機能に関して、制度の動向をふまえ準備を進める
- ⑤ 偏食対応・絵本給食を通して、「食」への関心・「食べる」楽しみにつなげる

(イ) 聖隷放課後クラブはなえみ磐田

- ① 「楽しい」「できた」「発見」を基にした自己肯定感の向上を図る体験活動や ICT を活用した自己理解・自己表現支援を提供する
- ② 子どもの成長発達過程で起こる様々な葛藤に寄り添いながら、保護者が子供の成長を実感できる場と保護者同士が交流できる場を提供する
- ③ 合理的配慮事項を共有し、その子らしさが発揮できるよう家庭・学校等と連携する

(ウ) 聖隷チャレンジ工房磐田

- ① 年間7名の就職者を輩出し、“6か月定着”が達成できる就労支援を行う
- ② SNS等を活用し、目標平均工賃25,000円/月を目指す
- ③ 利用者が“自身の働く姿”のイメージが持てるよう取り組みを行う
- ④ 安定した訓練参加・就労継続のため、病院と連携体制を整える

(エ) 磐田市発達支援センターはあと

- ① 家庭機能をアセスメントし、家庭に応じた子育てができるよう助言と連携を行う
- ② 子どもが感情を表出できるよう感情発達と対応方法を保護者と支援者に助言する
- ③ 保護者が「安心して子どもと関わること」ができるよう、健康診査や事後教室等母子保健事業における当センターの役割について市と協議し、体制を整える

(オ) 磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター・聖隷相談支援事業所磐田みなみ

- ① 認知症の方の意思決定支援を支える取り組みを行う
- ② 引きこもりの方の途切れない支援の仕組みを作る
- ③ 事業所モニタリングを実施し、関係機関と有機的連携体制を整える

(カ) 磐田市子育て支援総合センターのびのび

- ① 心地よく過ごせる遊び場を配置し、職員が親子と関係を築けるよう機動的に動く
- ② 保健師や育児サポーターと連携し、低月齢親子を継続的にフォローする
- ③ 地域の子育て支援団体と有機的連携体制を整え、子育て親子の孤立化を防ぐ
- ④ ファミリーサポート事業の援助会員が配慮の必要な児の対応や送迎に対応できるよう、フォローアップ講習を実施する

(キ) 磐田市地域活動支援センター

- ① イベント企画・関係団体との意見交換を通してニーズに応じた運営の基盤を作る
- ② 生産活動や地域団体による活動等、利用者主体で実施する活動を提供する
- ③ 機関連携にて、利用者がステップアップできる仕組みを作る

2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化

- (ア) 地域（磐田市南部地区）の防災体制の動向を把握し、防災計画・業務継続計画を見直す
- (イ) 非常放送設備整備にて防犯対策を強化するとともに、蘇生法等緊急時対応法を学び危機対応力向上に努める
- (ウ) 虐待防止の取り組みとして、不適切な関わり・困難な関わり等気軽に相談しあえる場の確保と、事例検討会やラダーの活用にて支援力向上に向けた取り組みを行う
- (エ) 新しい記録システムとタブレットの導入により業務効率化を図るとともに、利用者に向き合える時間を増やし、職員の働きやすさ・満足度の向上につなげる
- (オ) ホームページを活用し事業所の情報を発信するとともに、見学者や待機者対応を計画的

に行い、安定利用につながる取り組みを行う

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 研修講師・施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる
- (イ) イベントへの参加やホームページを活用し、情報を発信する
- (ウ) 市外・県外出身の保護者同士の交流の場を提供し、「子育ての孤立感軽減」を図る
- (エ) “乳幼児一時預かり保育”にて、「緊急な理由」の当日予約や時間延長の要望に応じる
- (オ) ひきこもりの状態にある方等福祉制度利用が難しい方を対象としたイベントを企画し、一歩を踏み出す機会を提供する
- (カ) 聖隷チャレンジ工房磐田の就労定着支援利用終了後と就労定着支援未利用者を対象としたフォローの仕組みを作る

【数値指標】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	磐田みなみ (特定)	磐田みなみ (障害児)	チャレンジ 就労移行	チャレンジ 就労継続	チャレンジ 生活訓練
利用者定員	30名	—	—	—	14名	15名	6名
利用者延べ人数	7,610名	465名	—	—	3,076名	3,960名	734名
一日平均 利用者数	30.9名	—	—	—	12.6名	14.2名	3.0名
稼働率	103.1%	—	—	—	76.8%	95.0%	50.3%
稼働日数(延べ)	246日	246日	—	—	286日	278日	243日
単価 (一人一日当り)	17,701円	18,617円	—	—	11,959円	7,721円	8,302円
サービス 活動収益	134,705 千円	8,657 千円	4,915 千円	10,373 千円	36,787 千円	30,577 千円	6,094 千円
常勤換算職員数	24.0名	1.3名	2.6名		5.4名	5.4名	1.0名

	チャレンジ 定着支援	はなえみ 放課後デイ	はあと	のびのび	南部包括	南部相談	磐田市 地活
利用者定員		20名	—	—	—	—	
利用者延べ人数		5,301名	—	—	—	—	
一日平均 利用者数		21.3名	—	—	—	—	
稼働率		106.4%	—	—	—	—	
稼働日数(延べ)		249日	—	—	—	—	
単価 (一人一日当り)		11,738円	—	—	—	—	
サービス 活動収益	3,858 千円	62,225 千円	42,209 千円	25,024 千円	27,546 千円	12,550 千円	16,814 千円
常勤換算職員数	0.5名	11.0名	9.8名	7.1名	3.5名	2.0名	3.0名

浅田地区在宅複合事業

訪問看護ステーション浅田
 聖隷ケアプランセンター浅田

訪問看護ステーション浅田

【事業・運営計画】

1. カンファレンス、研修、勉強会、交流会などへの参加を通して、エリア内の関係機関に積極的に働きかけ連携していく。
2. 聖隷ケアプランセンター浅田と協働し、事例検討やケアの振り返りを実施することで質の高いサービスを提供する。
3. 地域の特徴を理解し、地域のニーズに沿ったケアを提供する。
4. 超過勤務の削減、防災・防犯・感染対策への取り組みを強化し、スタッフが働きやすい環境を作る。

【数値指標】

平均利用者	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
176名	969件	11,630件	医療 10,800円 介護 9,500円	123,100千円	12.3名

聖隷ケアプランセンター浅田

【事業・運営計画】

1. 障害、医療の知識を深め様々な利用者アドバンス・ケア・プランニングを意識した支援を行う。また、地域の特徴を理解し地域性に根付いた支援を行う。
2. 訪問看護ステーションとの協働により質の高いケアマネジメントを提供する。
訪問看護とセットの依頼は断らない。
3. アドバンス・ケア・プランニング、精神科疾患、困難事例などの研修会に参加
4. AIの導入による業務の効率化やワークライフバランスを意識し、超勤削減、有給取得率アップを図る。
5. 防災・防犯、感染症、虐待に関する取り組みを実践する。

【数値指標】

年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,570件	324件	17,770円	4,023円	24件	4,400円	28,908千円	4名

浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

2020年度から始まった新型コロナウイルス感染症への対応について、この3年間の経験の中で未だ不安なこともありながらも職員も組織としても対応能力が徐々に向上されてきたと感じている。この3年間での感染対応により、様々な取り組むべきことが足踏みをしていることもあり、2023年度は、感染対応と並行して、今一度利用者一人ひとりへの個別ケアのサービスの質の再確認やコロナ禍での地域や利用者から求められる介護サービスを再確認して実施する年度としたい。また、人材確保の課題は、地区全体で勤続3年未満の職員の「離職防止」に取り組み一定の成果は得たことで、2023年度は前向きな取り組みとして、ICT化や介護周辺等での業務効率化により得た勤務時間を「職員のやりがいの追及」として職員が主体となってサービスを検討・実践する人材確保から人材育成へと進めていきたい。

【施設理念】

“私たちは、地域（市民）とともに高齢者福祉に貢献する”

【運営方針】

1. 私たちは、一人ひとりを知りその人らしい生活が続けられるよう支援します
2. 私たちは、ご利用者・ご家族（関わりのある方々）の思いを理解し、実現に向けて共に支援します
3. 私たちは、その人らしい最期の時をご家族（関わりのある方々）と共に支援します
4. 私たちは、職員一人ひとりが専門性を高め、人として成長するために常に研鑽します
5. 私たちは、一人ひとりが地域の社会資源として自覚し役割を果たします

【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する
(ア) 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護
 - ① 個々の認知症状を分析、その人の人生の歩みを深く理解し、「その人らしく」を支援できるようケアプランを立案・実施・評価を行う
 - ② 施設ケアマネジャー、相談員、看護師が中心となり、「もしもの時の話し合い」を繰り返して行い、入居者・ご家族の望む最期が迎えられるようにする
 - ③ 嚥下プロジェクトを継続、定期的な嚥下評価を実践し、個々に合った食事形態、食事時間、姿勢等の支援を行う

(イ) ケアハウス

- ① 入居者の社会性維持・閉じこもりやフレイル予防のための、地域交流とプログラムを強化する
- ② 入居申込・退去要件に応じたパスを実施する
- ③ 入居者の状態に応じた機能維持を図るとともに、生活不便を低減する
- ④ 事故・感染予防に関する入居者への啓蒙・啓発と予防を強化する

(ウ) 通所介護

- ① 各地域利用者に対する個々のニーズに寄り添った生活支援サービスの提供と新たな支援体制の充実を図る
- ② 在宅生活での暮らしが不便なく続けられるよう、現状の身体・生活・認知機能の維持に繋がる個別性を重視したプログラムの提供と健康管理を強化する

2. 職員が専門職としてやりがいを持ち、魅力ある職場づくりを行う

- (ア) 各専門職のラダー評価、コンピテンシー評価、目標参画を適正に運用し、職員個々のやりたいこと、チャレンジしたいことが発揮できる職場環境をつくる
- (イ) 入居者個々のニーズに合ったケアプランを作成、実践、評価を行うことにより、個別ケアの充実を図り、職員のやりがいに繋げる
- (ウ) 人材育成プログラムの実践、評価を継続する
- (エ) 認知症介護基礎研修・実践者研修等の外部研修に積極的に参加し、職員のケアの質向上に努める
- (オ) ICT (HIMVIT) を導入することや、ケアサポーターを適正に配置することで、業務整理を進め、入居者・利用者に関わる時間を増やす

3. 経営の安定化

(ア) 特別養護老人ホーム

- ① 相談員の相談スキルの向上、役割の明確化・可視化を行うことで入所の機会損失を防ぐ
- ② 年間の退居者数を予測し、利用待機者に対し計画的に事前訪問を行えるよう利用者情報の更新管理を徹底する
- ③ 多職種が連携して日々の健康管理を継続実施することで、入院者数を軽減する

(イ) 短期入所生活介護

- ① 感染予防を継続しながら、個々のニーズに合ったサービスを提供し、定着化を図る
- ② 緊急、措置利用の受け入れの際は迅速な調整、支援を行う
- ③ HitomeQ コネクト登録者（待機者）に定期的に情報発信することにより、ショート利用へ繋げる

(ウ) ケアハウス

- ① 入居に至らない方、退去が必要な方への情報提供等適切な対応を強化する
- ② 入居者が安心できる生活継続や建物設備の有効活用に向けて、一部特定施設への転換を含め検討する

(エ) 通所介護

- ① 居宅支援事業所との連携を強化、各地域の特性に合わせた生活支援サービスの提供を図り、安定した稼働を維持する
- ② 地域で必要とされている朝食や服薬管理サービスの継続に加えて、夕食や栄養補助食品販売等による栄養改善効果を記載した案内ツールを定期的に周知し更なる浸透を目指す

4. 防災体制の確立

(ア) 新型コロナウイルス感染症予防策の周知徹底を継続する

(イ) BCP、感染マニュアル等の定期的な確認を行い、どの職員も緊急時に速やかに実践できるよう教育する

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 新型コロナ禍の中でも、実習・職場体験やボランティアの受入れを継続する

(イ) 地域の方との交流が図れるよう、清掃活動やイベント等の地域貢献活動に積極参画する

(ウ) 関係機関と密に連携を行い、障がい者雇用の法定雇用率を達成・維持する

(エ) うらやす健康・元気コンソーシアムに継続参加し、新たな取組みを地域に発信する

【数値指標】

	特 養	短 期	ケア ハウス	高 洲 デイ	猫 実 デイ	総合計
利用者定員	100 名	50 名	50 名	25 名	25 名	250 名
利用者延数	34,781 名	14,637 名	9,829 名	5,692 名	6,525 名	71,464 名
一日平均利用者数	95.0 名	40.0 名	26.9 名	18.6 名	21.3 名	201.8 名
稼働率 (%)	95%	80%	54%	74%	85%	
稼働日数 (延べ)	366 日	366 日	366 日	306 日	306 日	
単価 (一人一日当り)	—	—	—	—	—	
サービス活動収益 (千円)	619,967 千円	249,281 千円	108,558 千円	54,846 千円	62,263 千円	1,094,915 千円
職員数 (常勤換算)	73.7 名	35.6 名	8.7 名	9.9 名	12.5 名	140.4 名

介護老人福祉施設 浦安愛光園

2023年度は見守りシステムの導入と照明のLED化を進めていく。見守りシステムについては取得した様々なデータをどのように活用するか方向性等検討していくが、まずは必要な時に必要なケアが提供できる介護サービス内容の転換を図っていくことで入居者の安全性とサービスの質を向上する。職員にとっては単なる便利アイテムの導入に留まることなく、他のICTとの相互作用によって新しい働き方が自由に創造できる機会としていく。照明のLED化は環境保護と省エネの観点からCO2削減による地球温暖化防止に貢献し、物価高騰による水光熱費への対策とする。

質の高いサービスを提供し続けるには、人材教育が不可欠であり、ユニットの弱みであったOJTについてインカムを導入することで、リアルタイムでの職員同士のコミュニケーションが可能となり、新たなツールを活用したOJTや業務の効率化に挑戦する。導入済みのICTについては効果検証を行うとともに、ご家族とのコミュニケーションや連絡報告手段に新しいツールを活用する。

コロナ禍でなかなか再開できなかった地域活動やボランティアについては、感染対策を標準化することで今までの制限を緩和できないか検討し、ご利用者の非日常の楽しみも得られるよう再開を目指す。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 利用者一人ひとりに安全で質の高いサービスを提供する
 - (ア) ケアプランを中心としたサービスを提供し、その人らしい暮らしを支援する
 - (イ) 見守りシステムを導入し、ご利用者の安全性とサービスの質を向上する
 - ①センサーにより取得した様々なデータから身体状況や活動状況を見守り、必要時に必要なサービスを提供する
 - ②職員の夜勤中の定時巡視業務時間を削減することで、ご利用者と関る時間を増やす
 - ③導入後はデータを活用して新しいケアのあり方が可能か模索する
 - (ウ) 感染対策を標準化し、安全な日常生活のほか行事活動を少しずつ再開する
 - (エ) 高洲地区でACP(アドバンス・ケア・プランニング)の考え方を共有する

2. 多様な人材の確保・育成の継続

- (ア) シニア世代や障がい者雇用を継続し、一定数を維持する
- (イ) 認知症介護実践者研修の受講を継続し、職員の認知症対応力向上を図る
- (ウ) 新たな手段として、インカムでのOJTを実施する
- (エ) 高洲地区内のダイバーシティについて係長を中心に考え活動する
- (オ) ワークライフバランスを意識し、3連休以上の取得を継続する

3. 地域共生社会の実現

- (ア) 8050問題、介護保険移行を中心にワンストップで対応できるように地域の関係機関との連携・協働を強化し地域包括ケアシステムを遂行する。
- (イ) 効果的なアセスメント実践を学ぶ為、地域の事例検討会や研修会を通じて学びの場を作り、相談支援専門員としてのスキルを向上する。
- (ウ) 相談からサービス調整までの時間を短縮し、スムーズのサービスを利用することで地域生活を安定させる

4. 経営の安定と業務改善の継続

- (ア) HitmeQ コネクトの待機者管理システムを活用し、高洲地区内での調整機能を更に強化する
- (イ) 老朽化した機械浴1台をシャワー浴槽に入替え、安全性の向上と入浴時間短縮を図る
- (ウ) LED照明に切替え、環境保護と省エネを推進する
- (エ) HIMLIFEの効果検証と2024年介護報酬改定への準備

5. 地域における公益的な取組みと地域貢献

- (ア) 生活困窮者・生活保護受給者職場体験実習受け入れを再開する
- (イ) 高洲中学校特別支援学級との交流を再開する
- (ウ) BCP訓練の実施とマニュアルの更新
- (エ) 高洲地区の地域貢献プロジェクトを通して、施設外の地域貢献活動を継続する

【数値指標】

	特養（ユニット型）	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74名	-	-
利用者延べ人数	26,382名	420名	-
一日平均利用者数	72.1名	-	-
稼働率	97.4%	-	-
稼働日数（延べ）	366日	243日	-
単価（一人一日当たり）	15,454円	14,140円	-
サービス活動収益（千円）	407,716千円	5,939千円	413,655千円
職員数（常勤換算）	49.1名	1.0名	50.1名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を経営面でも受けながらも、コロナ禍における高齢者のADL低下、認知症の進行等に対する老人保健施設としての役割・意義を再認識することとなり、リハビリの提供含め、多職種が連携して支援を行うことができた1年であった。6月からは訪問リハビリテーションを開始、退所後の在宅生活が継続できるよう、通所リハビリテーションやショートステイと連携することで在宅療養支援施設としての機能強化が図れた。また年間を通して、施設の日常やイベント情報、利用者・職員情報をSNSで定期的に発信、施設プロモーションを目的としたPRを担った。

2023年度は、安心・安全なサービスを提供するために環境づくり、人づくりに注力する1年としたい。見守り支援システム等のICT機器を導入・活用することで、既存スキームの再編成を実施し利用者に安心・安全なケアを提供できる体制整備を行うとともに、職員の心身の負担軽減を実現する。そして、このような時代であるからこそ、施設理念の一つである“つながり”を職員全員が今一度意識しながら主体的に行動することで、利用者、家族、地域社会、職員、関係各所のウェルビーイング（幸福な状態）を高めていくことにやりがいを見いだすことができる、そのような人づくりに挑戦する。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. エビデンスに基づく、利用者本位のケアの追及
 - (ア) 在宅復帰支援の可視化を行い、チームケアとして在宅復帰・在宅療養支援に取り組む
 - (イ) 認知症ケアの理解を深めるため、専門講師派遣やDCM研修を通じてパーソン・センタードケアの取り組みを実践する
 - (ウ) 老人保健施設として求められるターミナルケア、医療的ケアについてブラッシュアップする
 - (エ) 障がい者本人、家族共に安心できる個別ケアを提供するために、対応力を高める
 - (オ) 利用者本位のケアを行うために、福祉用具（移乗機器、車椅子等）を計画的に整備する
2. 専門職としての自己実現の場と働きがい、働きやすさのある職場風土の醸成
 - (ア) ケアの質向上のために立ち上げた各プロジェクトを3ヵ年計画で取り組み、ケアや職員の役割基準見直し、全体の底上げのための職員教育を実施する
 - (イ) 施設ケアマネジャーの数・質ともに強化できる体制を構築、未来を担う中核職員を育成する
 - (ウ) 多職種による在宅復帰総合支援チームを立ち上げ、在宅復帰支援を継続できる取り組みを強化し、協力医療機関や居宅サービス事業所等在宅部門とも連携する仕組みを作る
 - (エ) フロア単位制を実現するための連携や勤務体制を検討・導入し、業務負荷の軽減を図る
 - (オ) Wi-Fi整備やインカム、見守りシステムを導入して、応援体制の充実や業務効率化を実現

する

(カ) 感染対策・看取り・認知症・夜間せん妄等への柔軟な対応を図ることを目的として、費用対効果を鑑みながら従来型居室に静養室を設置する検討に着手する

(キ) 直接処遇外業務を洗い出し、担い手となる主婦やアクティブシニア、障がい者の雇用を促進する

3. 地域の介護ニーズ・地域共生社会の実現を通じた経営安定化

(ア) 年間4名以上の医療型障がい短期入所対象利用者の定期的受け入れを実現する

(イ) リハビリ合宿入所や訪問リハビリテーションの拡充による、在宅復帰者のリピート率50%越えを目指す

(ウ) ユニット型居室の在宅超強化型算定継続、従来型居室の在宅超強化型年内算定を目指す

(エ) 浦安せいれいの里相談部門連携強化を継続し、効果的なベッドコントロールや在宅事業所・病院への定期的な情報発信等による安定的な利用者獲得を模索する

(オ) クリニック跡地利用による通所リハビリの拡張・改修を行い、利用者月平均38名超えを目指す

4. 防災・防犯体制の強化

(ア) 地域連携を含んだ研修や訓練等により、浦安地区BCPに沿った防災・防犯・風水害対策を作成、実践する

(イ) 介護保険法改正に基づく災害時等の地域連携、協力体制を構築する

(ウ) 感染対策委員会を主に、COVID-19、その他の感染症も含めた予防と発生時シミュレーションを綿密に行い、時勢に合わせた感染対応を実施する

5. 地域における公益的な取組と開かれた施設づくりの推進

(ア) 地域貢献委員会を軸に清掃活動等、地域が求めるボランティア活動へ参画する

(イ) 時勢に合わせ、適切な感染対応策の中で、施設内ボランティアの受け入れを実施する

(ウ) オンラインでの介護予防、リハビリ講座発信、学校での認知症講座等を実施する

(エ) SNSの積極的活用による施設運営等のプロモーションを展開する

6. 社会福祉施設の役割遂行

(ア) 生活保護受給者の受け入れ、無料又は低額老人保健施設事業の基準(10%)を満たした運営を行う

【数値指標】

	ベテホーム入所	ベテホーム短期	通所リハビリ	総計
利用定員		100名	45名	145名
利用者延べ数	31,661名	1,647名	11,704名	45,012名
一日平均利用者数	86.5名	4.5名	38.0名	129名
稼働率		91%	84.4%	—
稼働日数(延べ)		366日	308日	—
単価(1人1日当たり)	15,390円	19,239円	12,456円	—
サービス活動収益(千円)		518,951千円	145,794千円	664,745千円
職員数(常勤換算)		63.7名	22.6名	86.3名

聖隷ケアプランセンター浦安

【事業・運営計画】

1. 地域包括システムの実践

- (ア) 地域包括システムを効果的に進めて行く為に、浦安市在宅医療・介護連携システムを活用し、浦安市内の多職種連携および情報共有の強化により専門性の高い支援を実践する
- (イ) 利用者が安心して住み慣れた地域で生活できるように、地域内でワンストップでの対応が図れるよう、地域課題を法人内で共有して複合施設の強みを活用できる支援をする

2. ケアマネジメントの知識と質の向上

- (ア) 2024年度介護保険改正に向けて必要な準備を進める
- (イ) 目標参画と研修計画を年間通じて取り組み、個々のスキルアップを図る
- (ウ) 計画的に事例検討会を開催してケアマネジメント力を高める

3. 安定した経営と働きやすい職場づくり

- (ア) 市内の病院や包括支援センターと連携を強化し、新規利用者の獲得を目指す
- (イ) 介護支援専門員が相互で支え合う環境を整え、個人ではなく事業所全体で困難事例などの解決方法を導けるようにする

【数値指標】

一日平均利用者数	年間利用者数	稼働日数	単価（1人1日当り）	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
—	1,699名	243日	16,390円	27,848千円	3.2名

聖隷訪問看護ステーション浦安

【事業・運営計画】

1. 聖隷訪問看護ステーション浦安の特徴を生かし、地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護ステーションの継続
 - (ア) 利用者主体の自己決定支援を行い、ACPに沿った訪問看護ケアを充実させる
 - (イ) カンファレンスを通して実施した訪問看護の評価を繰り返し、ケアの質向上につなげる
 - (ウ) 東京海上日動ベターライフサービス株式会社との更なる協働をし、法人の枠を越えて地域を支援する体制を推進していく
2. 聖隷訪問看護ステーション浦安の運営と経営が改善できる
 - (ア) 浦安市の地域ニーズを知り、病院・クリニック・居宅支援事業所との連携を深めていく
 - (イ) 2024年度に松戸エリアへの訪問拡大することを目指し、安定した人員配置と運営と経営にしていく
 - (ウ) 新たな職員を受け入れ、教育プログラムに沿ってOJTを行い訪問看護の質を確保する
3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場を作る
 - (ア) 介護支援システムの活用や、記録などの省力化を図り、効率の良い業務改善を行い、働き続けられるワークライフバランスにつなげる
 - (イ) 目標参画システム・職種別ラダーを通して、各職員の得意分野の学びを深め、職場の勉強会で共有していく
 - (ウ) 職員間の情報共有の課題を検討し、タイムリーに情報共有できる方法を確立させ働きやすい環境を整える
4. 地域における公益的取組
 - (ア) 次世代を担う看護大学の実習生を受け入れ、地域で働く訪問看護師の役割を伝えていく
 - (イ) 地域で取り組む包括ケアシステムにつながる連携会議などには積極的に参加していき、浦安市の地域医療に貢献できるように参画していく

【数値指標】

	平均利用者数	訪問件数 (月間)	訪問件数 (年間)	単価	サービス活動収益	職員数 (換算)
訪問看護 ST 浦安	91名	578件	6,940件	10,060円	69,817千円	9.5人

浦安市高洲地域包括支援センター

【事業・運営計画】

1. 地域における機能と役割の強化

- (ア) 地域包括支援センターの普及啓発や情報発信、サロン活動や地域との会議により自立支援に資する取り組みを実践する。情報発信の方法はメール配信から幅広い世代に発信可能な方法へのシフトチェンジを検討する。
- (イ) 住み慣れた地域で安心して生活できるよう状況に応じた適切な支援に切れ目なく繋がるよう、地域の関係機関や事業所との連携をより一層強化する。
- (ウ) 地域住民や関係機関・事業所との連携から地域課題を発掘し発信する。
- (エ) 市民の要望により 2023 年度中に公共施設内へのセンター移転の計画がある。利便性も向上し、身近で気軽に立ち寄れる相談先として認知度を更に高められるよう周知を行う。

2. 職員の資質向上のための取り組み

- (ア) 相談支援スキルラダーの活用と職種ごとの研修への参加により、各職員の能力の向上を目指す。
- (イ) 各職種が学んだ知識や技術について伝達研修を実施し、センター全体のスキルアップにつなげる。

3. 職員のやりがいと働きやすい職場づくり

- (ア) 単独での支援とならないよう、センター内で共有しチームで支援を行う。
- (イ) 業務分掌を明確化し互いにサポートできるような体制をつくり、遅延なく業務遂行を行うとともに超過勤務を削減する。

【数値指標】

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント単価	総収入	職員数 (常勤換算)
40,400 千円	予防支援 1,092 件	168 件	4,800円	48,065 千円	6.5名
	マネA 505 件	48 件	4,800円		

介護老人福祉施設 松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園 松戸愛光園ショートステイ
松戸愛光園デイサービスセンター 松戸愛光園ケアプランセンター
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ松戸

2022年度の松戸愛光園は見守りシステムの本格稼働を実施することが出来た。ICT技術の活用により利用者のQOL向上に取り組むとともに、職員の働き方改革をすすめ介護職員の業務負担軽減に繋げることが出来た。

2023年度は、入所の空床を活用した短期入所を行うことにより、松戸愛光園全体で高齢者が地域で暮らし続けることが出来るように支援する。また、人材育成や安定した介護人材確保のための取り組みを進めて、質の高いサービス提供を継続できるようにする。

今後も地域に暮らす高齢者、障がい者のニーズに寄り添いながら、未来につながる地域共生社会実現にむけて取り組んでいく。

【施設理念】

『一人ひとりの生命と尊厳を守り、利用者主体の自立生活支援を追求する。』

【経営方針】

1. あなたらしい生活の継続
2. あなたと共に歩んできた方々と一緒に
3. あなたを思いやる気持ちを忘れない
4. あなたらしい最期の支援
5. 地域の皆さんと共に

【事業・運営計画】

1. 地域のニーズに寄り添い、施設全体で見取りケアや障がい者ケア等の充実を図る
 - (ア) 入所での空床を積極的に活用し、タイムリーな短期入所受け入れを実施する
 - (イ) 短期入所ではニーズの高い高齢者の中長期間利用や障がい者利用を積極的に受け入れていく
 - (ウ) 施設内で ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に基づく看取りをすすめ、利用者・家族への充実した見取りケアを実施する
 - (エ) 入所では多職種でのケアプランの共有と、プランに基づいたケアの実施を行う
 - (オ) 相談部門では入所・短期入所・通所など事業の垣根を超えた相談体制を構築する
 - (カ) 通所介護事業では、共生型生活介護における障がい者の積極的な受け入れを実施していく
 - (キ) 居宅介護支援事業と相談支援事業では、利用者が地域で暮らし続けることが出来る支援を他の事業と連携し進めていく
2. 職員がやりがいをもって働ける職場づくり
 - (ア) 職員がいきいきと働けるような取り組みを実施できるように、若手を中心としたプロジェクトを立ち上げて全職場で実施できるようにする

- (イ) 活気ある職場づくりを進められるように、次世代リーダー育成に取り組む
- (ウ) 業務の可視化を実施し、各職場・ユニット間での連携を深化させていく
- (エ) ICT・見守り機器などを活用し、職員の働き方改革を進めていく
- (オ) 新たな人材確保の仕組みを浦安地区と共同で取り組み、不足する介護人材の確保に繋げる
- (カ) 学生実習受け入れを継続するとともに、導入した ICT や見守りシステムを人材確保に繋げられるようにする

3. 経年劣化した設備等の更新による安全性向上と安定した事業運営

- (ア) インカムの導入により、タイムリーな情報共有と職員育成に繋げる
- (イ) 車両や空調設備の更新を行い、エネルギーの省力化を進める
- (ウ) 経年劣化した防災関係設備の更新を実施する

4. 社会貢献活動の実施

- (ア) 松戸ニッセイエデンの園と協働で、福祉学会、チャリティバザー、地域清掃活動については感染対策を図りながら実施していく
- (イ) 地域の二次福祉避難所として、松戸市と共同で防災訓練を実施する

【数値指標】

入所・短期入所・通所関係事業

	特養入居	短期入所		通所介護		
		介護保険	障害	介護	総合	障害
利用者定員	103名	21名		34名		
利用者延べ数	36,547名	6,480名	227名	5,928名	1,609名	420名
一日平均利用者数	100.1名	17.8名	0.6名	19.2名	5.2名	1.4名
稼働率(%)	97.2%	87.5%		76.0%		
稼働日数(延べ)	366日	366日		308日		
単価(一人一日当り)	15,111円	15,275円	11,683円	9,491円	30,607円/月	8,036円
サービス活動収益 (千円)	552,244千円	101,636千円		79,101千円		
職員数(常勤換算)	73.9名	14.2名		13.9名		

居宅介護支援事業

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,578件	378件	16,859円	5,077円	40件	4,400円	28,522千円	4.0人

障がい者(児)相談支援事業

年間サービス利用数	年間継続サービス利用数	サービス活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
3件	166件	3,324千円	1.0人

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園 横須賀愛光園デイサービスセンター
西第二地域包括支援センター 聖隷ヘルパーステーション横須賀
聖隷訪問看護ステーション横須賀 聖隷ケアプランセンター横須賀
聖隷看護小規模多機能横須賀

2022年度は老朽化した施設・設備のリニューアルを目的とした大規模修繕工事やICT機器をはじめとする設備投資、新規事業の開設準備について、コロナ禍や資材高騰など様々な影響を受けつつも全事業一丸となってすすめることができた。

2023年度、横須賀愛光園は、改修や設備投資の効果を意識した質の向上と、働き方の変革にこだわり取り組みを加速させていく。また、法人内で初となる看護小規模多機能型居宅介護の開設により、よりシームレスで柔軟なサービスの提供を目指していく。

そして、これら取り組みを通じて、利用される方々や働く職員にとっても魅力的な施設を目指し、人材の育成や確保にもつながるよう進めていく。

【施設理念】 『安心して、明るく楽しく生きる』

【経営方針】

1. 地域ニーズに合わせて連携し、切れ目のない障がい者も含めた地域福祉を展開する
2. 互いに補い合って、安全でやりがいのある職場風土の醸成
3. 職員一人一人の資質向上と多様な人材が活躍できる体制の整備
4. 決められた時間で良質なサービス提供

【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに合わせて、よりシームレスで柔軟なサービスの提供
 - (ア) 看護小規模多機能型居宅介護を開設（2023年4月開設予定）し、医療ニーズも含めた受け入れの促進と、運営面における拠点内での連携連動体制を構築する
 - (イ) 各事業においてICT機器の活用を前提とした効率性の高い業務への変革に取り組む
 - (ウ) 障がい者日中活動など特別支援学校の進路となる活動の試行と事業推進を行う
 - (エ) 在宅事業も含めた運営管理課の再編による、事務業務の効率化と分担化を可視化する
 - (オ) 全事業において接遇について根底から見直しを行い、気持ちの良い施設作りを行う
2. 人材の確保と育成を推進する
 - (ア) 職種別専門研修、リーダーや役職者研修の計画、実施
 - (イ) 実習受け入れや内覧、オンライン広報等を活用促進し、求人・魅力発信活動の充実を図る
 - (ウ) 介護補助や障がい者雇用促進等、業務の切り分けについて整理、再構築を図る
 - (エ) 感染予防策の徹底、事業継続計画（BCP）の作成と訓練の実施
 - (オ) 36協定の遵守、労働災害発生0件の達成、有給休暇取得率向上を目指す取り組みの実施

3. 利用者一人一人に合わせた質の高いサービスの提供と経営の安定化

(ア) 特別養護老人ホーム、短期入所

- ① 各種システムの活用を前提として各部署各勤務帯の業務を変革し、日常業務における超過勤務0に挑戦する
- ② リスクマネジメントの研修やマニュアル等の見直し、見守りシステムの有効活用をすすめる、転倒転落事故30%減を達成する
- ③ HitomeQ コネクトの導入活用をすすめる、家族や地域に向けた情報共有や満足度の向上を図るとともに、稼働率の向上や相談員業務の変革を図る

(イ) デイサービスセンター

- ① リニューアルオープンにより、機能訓練、余暇活動、入浴サービスなど個人日課でのサービス提供ができる仕組みへ転換し、稼働率の向上を図る
- ② ケアスキルの向上、言葉使い等接遇の改善を図る
- ③ 個別機能訓練等提供体制の整理と、システムを活用した加算の取得や計画書の整備効率化を図る

(ウ) 西第二地域包括支援センター

- ① 生活支援コーディネーターの専任化に伴い、地域づくりや介護予防、権利擁護啓発活動の更なる推進に向けた取り組みの継続
- ② センター内業務、個々の業務の整理・標準化を図り、時間内で対応できる業務へ変革する

(エ) 聖隷ヘルパーステーション横須賀

- ① けあピアノート等システム活用を促進し、各業務整理や訪問以外のスケジュールの見える化、勤怠管理の効率化に取り組む
- ② 登録ヘルパーのケア手順やサービス内容の見直しを行い、質の底上げと緊急対応や感染対応などに柔軟に対応できる体制を作る

(オ) 聖隷訪問看護ステーション横須賀

- ① 看護小規模多機能型居宅介護との協同、連携の体制を整備し、より柔軟で質の高いサービスの提供を図る
- ② 在宅看取り対応等強みを継続強化するとともに、医ケア児など新たなニーズの発掘、対応について検討していく

(カ) 聖隷ケアプランセンター横須賀

- ① 看護小規模多機能型居宅介護、地域包括支援センターとの連携会議を発足し、利用者状況やニーズに応じて柔軟かつ不安なく生活できる支援体制を構築する
- ② 研修等を計画的に実施し、疾患への理解と予後予測をふまえた計画書の作成に取り組む

(キ) 聖隷看護小規模多機能横須賀

- ① 訪問看護と特養との連携スキームを構築し、柔軟かつ効率的な運営体制を整備する
- ② 地域での周知や理解をすすめる、利用者確保と職員確保に注力する

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 在宅事業と連携し、地域に対し適切かつ有益な情報発信を行う

(イ) 地域ボランティアセンター運営への参加を継続する

【数値指標】

	横須賀愛光園		短期入所	デイサービス	地域包括 支援センター
	従来型	ユニット型			
利用者定員	65名	40名	15名	30名	—
利用延数	23,104名	14,238	4,643名	7,717名	—
一日平均利用者数	63.3名	39.0名	11.9名	24.2名	—
稼働率(%)	97.4%	97.5%	79.3%	80.6%	—
稼働延日数	366日	366日	366日	309日	—
平均介護度	3.98	3.98	3.0	1.9	—
単価(1人1日)	12,500円	15,300円	12,300円	10,000円	—
サービス活動収益	289,744千円	218,423千円	56,340千円	71,665千円	39,865千円
職員数(正・エA)	29.3人	19.4人	7.1人	2.2人	3.9人
職員数(パ・ア)	6.5人	7.5人	2人	7.8人	2.3人

	聖隷ヘルパーステーション横須賀				聖隷訪問看護ステーション横須賀	
	介護給付	総合事業	自立支援	有償等	介護給付	医療給付
月平均利用者数	68.7名	18.8名	24.6名	—	13.5名	43.2名
月平均訪問件数	860件	64件	199件	—	558件	275件
利用延時間数	7,650時間	626時間	3,696時間	120時間	—	—
稼働延日数	245日				245日	
単価	5,000円/時間	4,200円/時間	4,500円/時間	—	10,800円/件	11,390円/件
サービス活動収益	54,382千円				110,047千円	
職員数(正・エA)	4.0人				9.0人	
職員数(パ・ア)	0.9人				4.0人	

聖隷ケアプランセンター横須賀								
年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益	職員数	
介護	予防	介護	予防				正職員 エA	パ・ア
1,680件	120件	16,800	4,560	60件	4,500	29,076千円	3.0人	2人

聖隷看護小規模多機能横須賀							
登録定員	平均登録者 数/月	平均通い者 数/日	平均宿泊者 数/日	単価 (1人1月)	サービス 活動収益	職員数	
						正職員 エA	パ・ア
25名	18.3名	11.0名	4.2名	293,540円	62,231千円	9人	2.6人

宝塚せいれいの里

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園

宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター

聖隷ケアプランセンターすみれ

宝塚市高齢者・障害（がい）者権利擁護支援センター

法人の基本理念である「隣人愛」と共に、宝塚せいれいの里は施設理念として「一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ」を掲げている。その人らしい生活を実現させるには、選択できる機会が重要であり、利用者が自分の意思を表現し、我が家のように安心して生活できる施設として、取り組んで行く。そのために職員は、福祉に携わる者として成長し、法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。3年にわたる新型コロナウイルス感染症の対応により、入居者・家族・職員・地域の関係性が薄くなった事は否めないが、それを当たり前とせず、「結ぶ」役割は変わらず地域福祉の推進に取り組んでいく。

2023年度は、ICT機器や福祉機器の導入を更に推し進めることで業務の省力化や効率化を図り、職員が専門職として質の高いサービス提供に取り組む。また、介護保険サービスや障害福祉サービスといった制度の枠を超えた支援体制の構築に努めたい。そのために必要とされる多様なニーズへの対応力を高めるためにも人材育成とマネジメントに注力する年度としたい。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 「安心と穏やかに暮らせる」 質の高いサービスの提供
 - (ア) アセスメント力を高め専門的見地で根拠を持った支援を実践する
 - (イ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の考え方を共有し、看取りケアの有り方を考えるとともにプロセスをケアプランや日々のケアにも反映させる
 - (ウ) 歯科医師等と協働したケア共有による誤嚥性肺炎等の予防や体調変化の早期発見と迅速な対応により状態悪化の抑制に努める
 - (エ) 利用者の活動支援や季節を感じられるイベントの提供とパブリックスペース等の運用を見直すとともに環境整備を行う

2. 施設や事業機能を活かした繋がりあるサービスの提供

- (ア) 在宅サービスと施設サービスが支援体制を促進させるとともに地域への周知に努める
- (イ) デイサービスとショートステイが協働し、継続したリハビリやレクリエーションを提供
- (ウ) すみれ保育園跡地での障害者就労事業の実施に向けた計画と準備を行う

3. 専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり

- (ア) リーダや係長を中心としたマネジメント強化を図り、次世代の育成を行う
- (イ) 職種や階層に応じた育成スキームと体制を再構築する
- (ウ) 専門研修の受講や資格取得を促進し、効果的な職場配置を行う
- (エ) 介護支援システムや福祉機器の導入と活用を進め、業務の負担軽減や効率化を図る

4. 運営安定化の推進

- (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
- (イ) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する
- (ウ) 4S活動の推進と感染対策及び災害対策を見直し、BCP(事業継続計画)の作成を行う
- (エ) ケアサポーター等の業務を整備し、外部委託業者の契約状況の評価と見直しを行う

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域コミュニティ等に参画し、防災・防犯活動等を継続的に行う
- (イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修等に開放する
- (ウ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護	合計
	ユニット	ユニット	一般	
利用者定員	100名	20名	30名	
利用者・請求延べ数	35,040名	6,899名	6,169名	
一日平均利用者数	96名	19名	20名	
稼働率	96.0%	94.5%	66.5%	
稼働日数(延べ)	366日	366日	306日	
単価(一人一日)	16,042円	16,746円	11,821円	
サービス活動収益(千円)	596,323千円	115,524千円	72,925千円	784,772千円
職員数(常勤換算)	76.3名	13.7名	14.7名	104.7名
	居宅介護支援		権利擁護支援センター	
	介護	予防		
年間請求件数	2,490件	216件		
平均単価(円)	17,800円	4,403円		
サービス活動収益(千円)	49,486千円		22,599千円	
職員数(常勤換算)	8.6名		3.6名	

宝塚せいのりの里

介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

法人の基本理念である「隣人愛」と共に、宝塚せいのりの里は施設理念として「一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ」を掲げている。特養に比べ自立度の高いケアハウス宝塚では、入居者の個々の希望、ニーズを受け止め、その人らしい生活を営むことができる施設づくりに取り組んでいる。その人らしい生活を実現するためには、「一人ひとりの想い」を実現させる機会、選択できる機会が重要である。入居者が満足するサービスのためにも、職員は福祉に携わる者として成長し、法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。

2023年度は、パブリックスペースでのリハビリを充実させ、入居者の心身機能の維持、向上を図る。また、休止している倶楽部活動等についても適切な感染対策を講じながら再開に向けた準備を進めたい。3年に及ぶ新型コロナウイルス感染症による制限が、入居者の生活だけでなく待機登録者にも影響し顕著な減少となっているため、様々な情報発信ツールを活用した待機登録者の確保に努めていく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 入居者がより「自分らしさ」を実現できる支援の提供
 - (ア) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の考え方を共有し、看取りケアの有り方を考えるとともにプロセスをケアプランや日々のケアにも反映させる
 - (イ) パブリックスペースの環境整備を行い、リハビリの充実を図る
 - (ウ) 入居者の社会参加や季節を感じられるイベントの提供
 - (エ) 入居者の状態とケアの差異による介護事故の防止を図るとともに体調変化の早期発見と迅速な対応により、状態悪化の防止に努める
2. 専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり
 - (ア) リーダーや係長を中心としたマネジメント強化を図り、次世代の育成を行う
 - (イ) 職種や階層に応じた育成スキームと体制を再構築する
 - (ウ) 専門研修の受講や資格取得を促進し、効果的な職場配置を行う

(エ) 更なる介護支援システムや福祉機器の導入と活用を進め、業務の負担軽減や効率化を図る

3. 運営安定化の推進

(ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める

(イ) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する

(ウ) 4S活動の推進と感染対策及び災害対策を見直し、BCP(事業継続計画)の作成を行う

(エ) ケアサポーター等の業務を整備し、外部委託業者の契約状況の評価と見直しを行う

4. 地域における公益的な取組

(ア) 地域コミュニティなどに参画し、防災・防犯活動などを継続的に行う

(イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修などに開放する

(ウ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	介護付きケアハウス
利用者定員	70名
利用者延べ数	24,820名
一日平均利用者数	68名
稼働率	97.0%
稼働日数(延べ)	365日
単価(一人一日当り)	14,374円
サービス活動収益(千円)	358,361千円
職員数(常勤換算)	42.3名

宝塚せいのりの里

介護付有料老人ホーム 結いホーム宝塚

2023年11月1日で結いホーム宝塚は10周年を迎える。入居者からは、宝塚の地で聖隷福祉事業団として積み上げてきた実績への信頼と、結いホーム宝塚職員一人ひとりの真心を込めたケアへの評価の言葉をいただいております、それが安定した事業運営に繋がっている。しかし、この10年で、宝塚市内においても施設サービスの競争は激化、特別養護老人ホームでさえ待機者を確保することが困難になっている。加えて、長期化する新型コロナウイルス感染症対応、物価・人件費の高騰や職員採用難も踏まえ、安定した運営が容易ではない状況が予測される。そのような状況でも利用者・地域から選ばれる施設であり、かつ職員にとってもやりがいを感じ働き続けたいと思える魅力的な施設であり続けられるよう、この10年の実績を振り返りつつ、もう一段施設としての高みを目指し、新しいスタートを切る一年としたい。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもってお一人おひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

【事業・運営計画】

1. 入居者・家族の期待に応えるサービスの提供
 - (ア) 入居者と家族の時間を大切にし、感染症の状況に応じて柔軟に対応する
 - (イ) 入浴サービスの転換に着手する
 - (ウ) 食事の満足度を上げる
 - (エ) 快適性と安全性を兼ね備えた居室環境整備を行う
 - (オ) エントランス環境を魅力的にする
2. 職員一人ひとりを大切にできる職場環境・職員教育の推進
 - (ア) 職員がワークエンゲージメントの向上を実感できる
 - (イ) 眠り SCAN データの分析力を養い、客観的に状態観察する力を付ける
 - (ウ) 入居者にも職員にも安全かつ安楽な移乗方法・環境を追求する
 - (エ) ICT 機器導入で生んだ時間を可視化し意図的に活用する
 - (オ) 介護職が専門性を発揮できるサポーターとの協働体制構築

3. 安定した施設運営

- (ア) 有益な情報を発信し、待機者を確保する
- (イ) 有償利用を活用した新入居調整と稼働率の維持
- (ウ) 経年劣化を見越した計画的な修繕の実施

4. 地域における公益的な取組

- (ア) まちづくり協議会活動やサロン活動において協働・側面的支援を行う
- (イ) 第4地区地域生活支援会議にて具体的セーフティネットを形成する

5. 環境活動への取り組み

- (ア) 水光熱の効率的運用を図り、使用量の前年比減に取り組む
- (イ) 施設周辺の環境活動に地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	介護付き有料老人ホーム
利用者定員	100名
利用者延べ人数	35,040名
一日平均利用者数	96.0名
稼働率	96.0%
稼働日数（延べ）	365日
単価（一人一日当り）	17,155円
サービス活動収益（千円）	601,096千円
職員数（常勤換算）	65.8名

介護老人福祉施設 宝塚栄光園

特別養護老人ホーム宝塚栄光園 短期入所生活介護

2023年度は宝塚市内で最も歴史のある特別養護老人ホームとして開設44年目を迎える。特別養護老人ホームは、地域の方にとって『最後のとき』を安心してむかえたい』という希望を叶えるための「介護における『最後の砦』」である。宝塚栄光園はそのために存在し、職員は利用者にサービスを提供している。2023年度も新しい生活様式の継続が想定されるなか、利用者の想いに寄り添い、QOLの維持・向上、利用者へのサービスの質を確保していく。また職員もこの施設で働くことの意義を再認識する年としたい。そのためにもICTや介護ロボットを更に活用し、業務の効率化を確実なものとし、地域へ赴き、多様なニーズへの対応を行える人材育成を行っていく。また、これからも地域で必要とされる福祉施設であるため、関わりを工夫しながら大規模災害等、非常時に継続できる事業体制の構築を目指す。

【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。』

【経営方針】

宝塚栄光園の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい、疾患、要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく。

【事業・運営計画】

1. 利用者のために

- (ア) 導入したICT機器を最大限活用し、利用者へ安心・安楽・安全なケアの提供を行う
- (イ) 新型コロナウイルス感染症対策で希薄になっていた利用者同士や家族、地域とのコミュニケーション、心身機能の維持向上、QOLの向上のためのレクリエーションの充実を図る
- (ウ) 利用者の自己決定支援や、心身ともに健康であり続けられるように、職員それぞれの専門性を生かし連携すること、また新たな連携先の開拓を行う

2. 職員のために

- (ア) ICT機器を活用した客観的データ収集や福祉用具を積極的に取り入れて、業務改善により職員を守る
- (イ) 職員間の多様性をお互いに認め、自らやりたいことを発信し、それを実現できる職場風土作りを継続する
- (ウ) 宝塚地区での宝塚栄光園の存在価値、職員の役割を理解しモチベーションへと繋げる

3. 施設を守る

- (ア) 入居・短期入所のベッドコントロールを図り、稼働率を維持することで経営を安定させる
- (イ) 利用者・職員が心地よい環境で過ごせるよう施設内の改修を行う

4. 地域における公益的な取組み

- (ア) 地域の方々が安心して住み慣れた地域で過ごせるように、地域包括ケアシステムの中での施設の役割を地域の方々に伝える場を地域包括支援センターと協力して設定する
- (イ) 自治会活動に積極的に出向き、地域との関わりを深める

【数値指標】※特養・短期とも従来型のみ。(個室 21 室、2 人室 3 室、4 人室 15 室)

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70 人	17 人	87 人
利用者延べ人数	24,637 人	5,840 人	30,477 人
一日平均利用者数	67.5 人	16.5 人	84 人
稼働率	96.4%	97.1%	96.6%
稼働日数(延べ)	366 日	366 日	366 日
単価(一人一日当り)	13,389 円	12,703 円	13,257 円
サービス活動収益(千円)	330,495 円	76,502 円	406,997 円
職員数(常勤換算)	45.5 人	9.1 人	54.6 人

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区中州在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター

【事業・運営計画】

1. 「年を重ねても住み慣れた街に住み続けたい」その人の想いをかなえるために
 - (ア) 重度利用者、障害がある利用者、喀痰吸引が必要な利用者、看取りケアが必要な利用者など、様々な利用者の想いに寄り添ったケアを実践していく。
 - (イ) いつでも新型コロナウイルス感染症利用者のケアを実践できるように感染症対策能力の向上を目指す。
 - (ウ) 要支援者への新たなサービスを見出していく。
 - (エ) 再体験（外出、調理、買い物等）や、利用者同士の繋がりに目を向けたプログラムの実施に取り組む。
 - (オ) 宝塚第二地区のデイサービス相談員の連携を強化し、他事業所とも連携を図りながら地区全体で利用者を支えていく。
2. これからも「この地域」でサービス継続可能な体制づくり
 - (ア) けあピアノート給与計算アプリを使って登録ヘルパー労務関連業務を効率化する。
 - (イ) 事業継続計画の早期確立とケアセンター宝塚の総合力でどんな災害でも地域を守っていく。
3. 多職種連携をより進め、利用者がこの地域で安心できるよう、職員の育成を行う
 - (ア) 職員の「状況分析をより高めることができる」アセスメント能力の向上。職員それぞれが質問を通して情報を「言語化」できるよう、カンファレンスなどを通じてコミュニケーションを高める。
 - (イ) 役職を担える職員を地区で共有し、育成を目的とした人事交流を行う。
4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 2022年度に実施した地域サロン「あい会いサロン」を、2023年度も定期的にも実施して行くことで「困りごとがすぐに相談できる」関係ができるよう、地域に根差したつながりをより深めていく。
 - (イ) 専門職と地域住民のネットワークづくりを行い、地域での包括的な支援体制の構築を目指す。

【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	予防(月)		
122人	1,426件	14,985件	169人	2,027人	4,800円	14,500円	97,580千円	15.9名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	総合(月)		
28.3人	731.6人	8,779人	72.5人	870.2人	10,03円	39,700円	94,125千円	17.3名

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区中州在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション宝塚 聖隷ケアプランセンター宝塚 逆瀬川地域包括支援センター

【事業・運営計画】

1. その人が望む「在宅で最期まで過ごせる」が実現できる地域を地域包括システムの構築
 - (ア) 施設を含め、地区内の看護職・医療技術職・介護職・相談職が連携し、医療ニーズの高い利用者・看取り期の利用者を支援できる体制を強化する。
 - (イ) 地域包括支援センターを中心に地域住民とのつながりの中で、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に関する啓発を行っていく。
2. 職員同士で成長し合える環境作りと次世代の管理者候補の育成
 - (ア) 法人内事業所の連携強化を行い、職員同士がフィードバックし合える関係性を構築する
 - (イ) 役職を担える職員を地区で共有し、育成を目的とした人事交流を行う
3. 資源の効率的活用と生産性の向上
 - (ア) ICT 技術を活用して、サービス提供表実績のやり取りの効率を上げる。また事業所間の記録の電子化を行う。
 - (イ) ケアプランセンター宝塚において支援経過記録の標準化を行い効率化することで、より利用者支援に重点を置いた活動ができるようにする。
4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 2022 年度に実施した地域サロン「あい会いサロン」を、2023 年度も定期的の実施して行くことで「困りごとがすぐに相談できる」関係ができるよう、地域に根差したつながりをより深めていく。
 - (イ) 専門職と地域住民のネットワークづくりを行い、地域での包括的な支援体制の構築を目指す。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
医療	68 人	698 件	8,380 件	10,000 円	16,839 円	21.6 名
介護	116 人	648 件	7,775 件	9,300 円		
予防	17 人	44 件	524 件	7,700 円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
3,732 件	384 件	19,300 円	4,200 円	1,564 件	6,572 円	85,503 円	15.9 名

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価(円)		サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
予防	予防(委託)	予防	委託(委託)		
2,400 件	133 件	4,839 円	619 円	75,179 円	13.4 名

宝塚第二地区在宅複合事業

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

聖隷デイサービスセンターあゆむ

【事業・運営計画】

1. 質の高い介護サービスを提供し、利用者が在宅生活を継続できるように支援する
 - (ア) 利用者・家族が安心できる、安全な介護サービスを提供する
 - ①要介護3以上の中重度介護が必要な利用者を中心に受け入れる
 - ②ケアの安全性を高める介護機器を検討し、導入する
 - ③職員への介護技術のOJT・OFF-JT機会を創出し、人材育成に努める
 - (イ) 関係機関とのシームレスな情報共有で医療ニーズへ対応する
 - ①ICTを活用し、在宅医を含む関係機関との連携から、タイムリーな情報共有を図る
 - ②看護職との連携を深め、医療依存度の高い利用者の受け入れを増やす

2. 認知症利用者が介護者と共に、自宅で穏やかに生活が続けられるように支援する
 - (ア) 利用者それぞれが穏やかな時間を過ごせる個別ケアを提供する
 - ①利用者個々の周辺症状に対応するために、生活歴を紐解いた個別の関わりを深める
 - ②作業療法士と協同し、行動変化や日常生活における認知症の影響を評価する
 - ③認知症に対する専門性向上にむけ、他機関との医療介護連携を推進する
 - (イ) 介護者が自宅介護のモチベーションを保てるように関わる
 - ①介護負担尺度評価により、介護者自身の身体的・精神的健康を可視化する
 - ②事業所と利用者家族が関係構築できる場「運営推進会議」を定期的に設ける

3. 地域における公益な取り組み
 - (ア) 逆瀬台地域の高齢単身者・高齢世帯への見守り活動に協力する
 - (イ) 施設の地域開放を進め、地域活動の活性化を図る

【数値目標】通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者	月間利用者	年間利用者	月間利用者	年間利用者	介護(月)	予防(月)		
21.2人	546.9人	6,562人	3.4人	240.2人	14,300円	39,500円	106,378千円	22.1名

【数値目標】地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業（聖隷デイサービスセンターあゆむ）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者	月間利用者	年間利用者	月間利用者	年間利用者	介護(月)	予防(月)		
6.8人	175.8人	2,109人	0人	0人	17,300円	0円	36,403千円	6.2名

聖隷デイサービスセンター結い

【事業・運営計画】

1. 自立支援につながる質の高い機能訓練の提供

(ア) 利用者が、住み慣れた町、自宅で生活を続けられる「自分でやりたい！」を支援する

(イ) 「活動」「参加」の促進や継続ができる機能訓練の提供

①国際生活機能分類に基づくアセスメントで、生活課題の目標を設定と効果測定をすすめる

②セラピストを中心に、他職種が連携して機能訓練を実施する

③法人内のセラピスト連携体制を活用しスキルアップを図る

④宝塚地区にある4つのデイサービスと連携し、利用者の心身の状態に合わせて宝塚地区全体で利用者を支える。

(ウ) 他機関と連携・協同し、医療から継続性のある機能訓練の提供

①他機関のセラピストとの連携体制を継続する

②生活機能向上連携加算の算定を継続する

③福祉用具事業所と連携し、福祉用具を展示、状態に合う用具を提案する

2. 地域における公益的取り組み

(ア) 施設設備を開放し、地域住民が機能訓練を体験できる場をつくる(4回/年)

(イ) 地域活動に参加し場所・人員の提供等に協力する

【数値指標】

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
平均利用者	月間 利用件数	年間 利用者	月間 利用者	年間 利用者	介護 (日)	予防 (月)		
17.0 人	436 件	5,236 件	75.0 人	4,181 人	6,000 円	32,000 円	62,717 円	11.6 名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

福祉用具貸与単価上限見直しが行われる度の貸与単価引き下げによる収益減、介護保険の自己負担割合が2割、3割となる利用者による利用控えが定着しつつある状況下で、介護保険給付外の自費貸与の価格、取り扱い品目の多さが居宅支援事業所からの依頼のポイントになっている。確実に貸与の実績を積み上げられるよう自費貸与を充実させる事が必須となっている。宝塚地区の障がい者事業の取り組みと共に、自費貸与の対応範囲を広げられるようにする。

【事業・運営計画】

1. 障がい者事業へ向けた取り組み

- (ア) 宝塚地区での障がい者事業の開設に向け、現在宝塚栄光園で行っている施設車椅子貸与のメンテナンス業務を始め新事業の下地を作る。
- (イ) 既存の業務で新事業開設後に移行できる物を精査すると共に作業方法等見直しを行う。

2. 貸与サービスの拡充

- (ア) 障がい者事業の開設により貸与商品の自社保有が可能になる。自費での対応範囲を広くすることで、利便性を高め地域包括支援センター、居宅支援事業所からの依頼を増やす。
- (イ) 限られた人員でコンパクトな運営がきるよう、既存の営業担当者の業務を改善し全員で依頼を受けられる仕組みを作る。タイムリーに対応できる体制を整える。

3. 地域における公益的取り組み

- (ア) 宝塚地区の聖隷デイサービスセンターの空スペースを利用し、デイサービス職員や地域包括支援センターの協力を得ながら利用者や地域へ向けた福祉用具の相談、PRを行う。

【数値指標】

年間 貸与件数	年間 貸与収益	年間 販売収益	年間 住宅改修収益	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
9,360件	103,427千円	61,500千円	12,000千円	176,927千円	11人

花屋敷せいのりの里

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園 花屋敷栄光園デイサービスセンター
花屋敷地域包括支援センター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
聖隷訪問看護ステーション山本 聖隷ケアプランセンター花屋敷
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷

2022年度も、新型コロナウイルス感染症対策による制限が必要な日々が続いており、利用者、職員ともに心身への影響は大きく辛い年であった。しかし、そのような状況下であっても訪問看護とデイサービス・ショートステイが協働し、リハビリテーションや医療ニーズの高い利用者の受入れに取り組むことができた。このように安定した事業運営を継続できたことは、利用者や関わりのある方々の協力だけでなく、職員一人一人の努力の結果である。

2023年度は、2022年度未実施となっている入浴機器導入評価の実施、及び見守りシステム等の導入を検討し、利用者にとって安心・安全な環境を確保すると共に、職員にとってもやりがいと魅力ある職場につながる1年としたい。

【施設理念】

互いに愛し合いなさい

利用者、家族、職員、ボランティア、地域住民が、共にその人らしいいきいきとした暮らしの創造のために、互いを尊重し合い、地域全体の福祉の向上に寄与する

【経営方針】

1. サービス機能を活かした繋がりある支援体制の構築と充実
2. 「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
3. 専門職としての成長と活躍できる環境づくり
4. 運営安定化の推進
5. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 「安心して暮らせる」サービス機能を活かした繋がりある支援と定着
 - (ア) 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・相談支援事業所が協働し、未だ表出されていない地域ニーズの把握に努めることを継続し、必要なサービスを創造する
 - (イ) 通所介護では、リハビリテーションやアクティビティを中心とした短時間利用や中重度利用者の積極的な受入れを継続していく
 - (ウ) 訪問看護と協働し緊急での短期入所生活介護を希望する利用者や医療ニーズの高い利用者の受入れを行う
 - (エ) 地域の会議やサロン等に参加し、在宅サービスと施設サービスが種別を問わず協働した支援体制について周知に努める
2. 利用者満足度の高いサービスの提供
 - (ア) 在宅サービスと施設サービスが種別を問わず、アドバンス・ケア・プランニングの考え方を共有し看取りケアの有り方を考えるとともに、そのプロセスをケアプランや日々のケアにも反映させる
 - (イ) セラピストによる機能評価や歯科医師等と連携したケア共有による誤嚥性肺炎等の予防に加え、体調変化の早期発見と迅速な対応により状態悪化の抑制に努める
 - (ウ) 利用者の活動支援や季節を感じられるイベントを実施し、利用者満足度の向上を図る
 - (エ) 導入した新たな入浴機器を活用し、現状よりも安心・安全・安楽・プラスアルファの

ケアの定着を図る

3. 職員が専門職としての成長を感じられ、自己実現の追求支援が行える職場づくり

- (ア) 各階層に応じた OFF-JT 研修を行い、ビジョン共有やチーム力等の向上を図る
- (イ) 専門研修の受講や資格取得を促進し、効果的な職場配置を行う
- (ウ) 目標参画や各種ラダーに基づいたキャリア支援を行い、モチベーションの向上を図る
- (エ) 施設環境を踏まえ、新たな働き方を意識した福祉機器等の購入や整備を行う

4. 運営安定化の推進

- (ア) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する
- (イ) 4S 活動の推進と感染対策及び災害対策を見直し、BCP(事業継続計画)の作成を行う

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努める
- (イ) 継続した地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組む

【数値指標】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

	特養入所 ユニット型		短期入所 ユニット型空床型		通所介護					
					通常	予防				
利用者定員	108名		12名		35名					
利用延数	38,435名		3,942名		6,427名	1,403名				
一日平均利用者数	105.3名		10.8名		20.6名	5名				
稼働率(%)	97.5%		90%		72%					
稼働延日数	365日		365日		312日					
平均介護度	4.10		3.12		2.5					
単価(一人一日)	15,505円		17,235円		9,811円					
サービス活動収益(千円)	595,948千円		67,942千円		76,818千円					
職員数(常勤換算)	73.9名		7.4名		14.6名					
	地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)		障害者相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)		障害児相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)		宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)			
宝塚市受託収入(千円)	37,786千円		—		—		13,559千円			
年間請求件数	予防プラン 請求件数	3,660件	779件		180件		—			
	予防プラン 委託件数	840件								
平均単価	予防プラン 単価(円)	4,760円	151,00円		172,00円		—			
サービス活動収益(千円)	55,731千円		11,763千円		3,096千円		13,559千円			
職員数(常勤換算)	11.1名						5名			
	聖隷訪問看護ステーション						聖隷ケアプランセンター			
	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益(千円)	職員数(常勤換算)	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
医療	50.3人	302.5件	3,630件	10625円	119,077千円	17.2名	—	—	—	—
介護	123人	615件	7,380件	9,301円			3,708件	19,000円	72,241千円	10.8名
予防	30.3人	91件	1090件	8,979円			480件	4,100円		

ケアハウス花屋敷

新型コロナウイルスの感染拡大が始まって4年目に入るが、私たちはこれからも新たに出てくるであろうウイルスや菌とうまく付き合い、生きていかなければならないと痛感した1年であった。治療薬等も開発が進み、去年とはまた違った形で施設運営ができることを期待している。変わらないのは、これからも基本的な感染対策が必要ということで、ある意味良い機会にもなったと前向きにとらえ、本来すべき対策をさらに徹底できるよう感染教育は進めていくべきである。そのうえで、日常に戻していくこと、特に制限の大きかった「娯楽」「楽しむこと」を大切に考えていきたい。また、入居者がどのように生活していきたいか、身体機能の低下等起こった場合にどこでどのように過ごしたいか、入居者の考え・思いをしっかりと受け止め、その方が最良の選択をできるように、関わる多職種職員とともに支援する形をさらに進めていきたい。

【施設理念】

高齢者や障害者を含むすべての人々が、自立し、尊厳をもって暮らせる地域社会の実現を目指します。

【経営方針】

1. いのちと尊厳を守ります。
2. よりよいサービスを提供します。
3. 地域社会と共に歩みます。

【事業・運営計画】

1. 自立した生活が困難となった時に希望される方が最期まで花屋敷せいの里内で過ごせるよう、ケアハウス花屋敷での対応強化と花屋敷栄光園、在宅事業との連携強化を図る。
 - (ア) 変化していく入居者への対応力の強化と職員の意識の変容を促すため、これからのケアハウス花屋敷の担うべき役割について、職員と共有する。全体の動きなども情報共有する。
 - (イ) ①年2回開催される宝塚地区内の研修にパート職員全員が参加する
②人形を使っての心肺蘇生、殴打法など、急変時の対応について年1回研修実施
 - (ウ) 入居者の状態が変化し回復が望めない場合は、支援について速やかにチームで検討会を開催、具体的な支援を決定。ケアハウス花屋敷の対応できる支援の幅を広げる。支援に必要な時間の確保のため、清掃業務などを担う人員0.4人サポーターを増員する。
 - (エ) アドバンス・ケア・プランニングについて入居者が必要なことだと認識できるよう関わる。
入居者自身の考えや思いを定期的に確認するとともに、日常の様子や言動から入居者個々の考え方・希望を把握し、記録しておく。担当者会議などでご家族も含めて皆がご本人の思いを共有できる場を持つなど、具体的に活動していく。

2. 生活の中で楽しむこと、心地よく過ごせる環境を入居者のアイデアや入居者との協働により創っていく。

(ア) 施設内の設えに心配りする

①日本古来の行事や季節の移ろいを感じてもらえる、設えの工夫

職員のアイデア、入居者のアイデアを取り入れ、より楽しめる空間をつくる

②入居者の作品の展示を含め、ロビーなどを楽しめる空間にする

(イ) 新型コロナウイルス感染状況に応じた行事の開催

①感染状況により、オンラインでの演奏会、落語会、講演会等の企画の継続

②敬老会、クリスマス会、新年祝賀会を本来の形に戻していく

③外出等も含め、新しい発想で新たな行事を企画

(ウ) 喫茶コーナーの運営を入居者にも一部担ってもらい、定期的を開催する

園芸や農園の運営も入居者に参加してもらいすすめていく

3. 宝塚市内、周辺市町村在住の高齢者や介護者世代、地域包括支援センター、病院の地域連携室をターゲットにケアハウス花屋敷を知ってもらう活動を強化する。

(ア) 地域包括支援センターの職員にケアハウス花屋敷や花屋敷せいの里全体の動き＝利用者を最期まで支援する仕組みについて知ってもらうため、説明の場を設ける

(イ) 地域包括支援センターのサロン活動に参加し、地域の方々との顔の見える関係をつくる

(ウ) 地域の方を対象にした施設説明会・見学会の実施

4. 運営安定化の推進

(ア) 老朽化した設備の修繕と更新を計画的に実施する

(イ) 二人部屋が空いた時点で、二人部屋2室を個室に変更し、機会損失を減らす

5. 地域における公益的な取組み

(ア) 近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努める

(イ) 継続した地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組む

【数値指標】

利用者定員	100人
利用者延べ数	35,770人
稼働率(%)	98%
単価(一人一日)	4,329円
サービス活動収益(千円)	154,847円
職員数(介護:常勤換算)	7.0人
(相談員:常勤換算)	1.0人
(管理栄養士:常勤換算)	1.0人
(宿直員:人数)	3人
(運転手:人数)	1人

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸 聖隷ケアプランセンター北神戸

【事業・運営計画】

1. 専門性を強化し利用者のニーズに応じたサービスを提供する。
 - (ア) 対応できる人材を育成し利用者が望む在宅生活を支援する。
 - ① 小児病棟、小児訪問看護研修に参加し医療依存度の高い小児看護の対応力向上を図る。
 - ② 心不全療養者の再発・重症化予防、血液悪性疾患の病態、看護理解を深める研修に参加し、適切な全身管理、精神的支援の知識を深めケアの質向上を目指す。
 - (イ) 生活の質向上の視点を重視して多職種と連携、情報共有していく。
 - ① アドバンス・ケア・プランニング（ACP）に取り組み、意思決定を支援し暮らしたい場所で生き抜くことを支援する。
 - ② 退院時や発症直後の早期介入、密な多職種連携で要介護状態の改善や悪化予防に取り組む。
 - ③ 聖隷ケアプランセンター北神戸、聖隷訪問看護ステーション北神戸の合同研修、合同カンファレンスを実施し質の強化と支援体制の強化を図る。
2. 資源の効率的活用と生産性を向上する。
 - (ア) ICTを活用し在宅医を含む関係機関と連携しタイムリーな情報共有を図り適切な対応ができる。
 - (イ) スケジュール作成ソフトを活用し効率化、長く働き続けられるよう業務改善に取り組み、超過勤務を削減し有給休暇消化率を上げる。
3. 地域における公益的な取組。
 - (ア) 神戸市北区地域小児在宅医療推進事業へ参加し地域の関係機関と情報交換し協働する。
 - (イ) 神戸市委託事業介護予防講座の講師として派遣し地域住民の運動、社会参加へ協働する。
 - (ウ) 神戸市北区ケアマネジャー連絡会の企画運営へ参画し地域課題を共有する。

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション北神戸）

年間件数		平均単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
医療	介護・予防	医療	介護・予防		
5,787件	4,904件	10,033円	9,000円	109,768千円	15.2人

居宅介護支援事業（ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防		
1,524件	510件	16,300円	3,553円	25,727千円	5.3人

聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム
聖隷カーネーションホームデイサービスセンター
聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっこ
聖隷在宅介護支援センター淡路

2023年度の聖隷カーネーションホームは、これまで取り組んできたICT技術を活用した福祉現場改革を継続し、付加価値の高いサービスを提供できる体制づくり・環境づくりに取り組み、利用者満足・職員満足・経営満足を高めていく。また、福祉における生産性の向上を促進する一方で、理念に基づくケアの提供が実践できる組織作り・人材育成にも取り組み、利用者も職員も「ここに来てよかった」と感じられる施設風土を育んでいきたい。

これらの取り組みを通じ、淡路地域北部における総合福祉拠点として、利用者に「安心と楽しみのある暮らし」を、職員に「働きやすい職場環境とやりがいのある仕事」を提供し、利用者と職員の双方の幸福を実現できる、魅力ある福祉施設を目指していく。

【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる

～『ともに咲き続ける』ために私たちは、～

1. ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2. 現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3. 私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

【経営方針】

1. 利用者満足の向上のために、より安心・安全で質の高いサービスを追求する
2. 職員の働き甲斐や資質の向上のために、多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりを促進する
3. 安定経営を継続していくために、サービス品質の改善と生産性向上の両立を推進する
4. 安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓に取り組む

【事業・運営計画】

1. より安心・安全で質の高いサービスの追求
 - (ア) 利用者個々のスタイルに合った楽しみのある生活を提供するために、情報共有のシステム化を進め、タイムリーな情報を基にケアを提供する体制を構築する。
 - (イ) 利用者の重度化・寝たきり化の防止とQOL向上のため、ICT機器の活用促進と介護・看護・リハビリの職種間連携の強化を図る。
 - (ウ) 安全・安心・安楽な生活環境を構築するために、見守りシステムの導入を実施するとともに、入浴機器など設備・機器更新を計画的に進めていく。

2. 多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進
- (ア) 理念や事業計画に連動した目標管理を促進し、各職場や職員個々の目標達成を支援するとともに、次世代リーダー候補者の発掘・抜擢・育成を行う。
 - (イ) 職員の身体的負荷の軽減と安全性向上のために、ノーリフトケアの推進や介助機器の計画的な導入・更新に取り組み、働きやすい介護環境を整備する。
 - (ウ) EPA 介護福祉士候補生及び無資格者への資格取得支援や、階層別研修に紐づく OJT 機会を通して、専門性の高い人材の育成と確保につなげる。
3. サービス品質向上と生産性向上の両立による経営改善
- (ア) 見守りシステムの導入など ICT 化を含む介護現場改革を引き続き促進し、職員負荷の低減と合理化、仕事の自動化、職員のモチベーション UP を図る。
 - (イ) 適切な加算管理・稼働率管理と合理的な人員配置を随時行い、より多くの方々に対して付加価値の高いサービスを提供し、経営の安定化を図る。
 - (ウ) 災害・感染症・事故の影響を最小限に抑え安心して生活できるよう、BCP を完成させるとともに机上訓練を計画・実施し、リスク管理体制の強化を継続する。
4. 地域における公益的な取組と新たなニーズの開拓
- (ア) 在宅介護支援センター淡路を中心に「淡路市高齢者住宅安心確保事業」の実施を継続し、地域における潜在的な福祉ニーズを発掘する。
 - (イ) 東浦地区における福祉避難所としての役割を意識し、防災・防犯を含む地域活動・交流を通して、近隣との繋がりを強めていく。
 - (ウ) 地域全体の福祉の向上のため、施設間での相互支援、聖隷淡路病院との医療・福祉間連携、行政機関・他法人施設との連絡・連携を強化する。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54 名	18 名	25 名		12 名
利用者延べ人数	19,230 名	6,410 名	5,933 名	803 名	2,855 名
一日平均利用者数	52.5 名	17.5 名	19.2 名	2.6 名	9.1 名
稼働率 (%)	97.3%	97.3%	87.3%		76.0%
稼働日数 (延べ)	366 日	366 日	309 日		311 日
平均介護度	3.90	3.16	2.45	—	3.16
単価 (1 人 1 日当り)	12,203 円	11,944 円	10,215 円	5,150 円	12,285 円
サービス活動収益 (千円)	234,664 千円	75,513 千円	64,963 千円		35,075 千円
職員数 (常勤換算)	33.3 名	8.2 名	10.0 名		5.4 名
聖隷在宅介護支援センター淡路					
サービス活動収益 (千円)	7,440 千円				
職員数 (常勤換算)	1.2 名				

淡路栄光園

2023年度、淡路栄光園は「利用者ケアの質向上」として、食を中心に日常生活動作や排泄状態の改善につながるケア体制の強化に注力したい。これらケアの質向上に向けた実践には、利用者の楽しみとなるイベントや運動レクリエーションを連動させ、「岩屋地域ならではの食のイベント」や「楽しみながら体を動かすリハビリ」などの企画も実施していきたい。また「利用者の見守りや通信、情報に関するシステムや機器」をより積極的に活用することで、職員の働きやすさの向上に加え、利用者や家族にとって当園がより身近で、利用しやすい施設となる仕組み作りを推進する。新型コロナウイルスへの対策を継続しつつも、ここ数年で失われた利用者と家族、利用者と地域のつながりの再生を目指し、家族や地域「交流を目的とした園内の空きスペースの活用」、「こども園や地元商店への外出」、「新たなボランティアの組織化」などを実行する。これらの行動を計画・実践するにあたり、一人一人の職員が新しい発想や行動を積極的に発揮していくことで、淡路栄光園とその職員、そして淡路地域全体の未来に向けた成長や創造につながることを念頭に、本計画の達成に向け邁進していきたい。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1. 淡路栄光園の利用者がより快適に、楽しみがもてる施設になる。
2. 淡路栄光園の職員全員が、働きやすく、生き生きと仕事ができる施設になる。
3. 淡路栄光園が今後も安定、継続して利用者サービスができる施設になる。
4. 地域包括ケアシステムの推進とともに、地域の方々に貢献できる施設になる。

【事業・運営計画】

1. 淡路栄光園の利用者が安心して、より快適に暮らせる施設になる。
 - (ア) 利用者一人一人に寄り添った食の安全と充実を目的に、「食事・栄養ケアマネジメントプロセスの強化」と「岩屋地域で昔なじみの食イベントの定期開催」を実行する。
 - (イ) 利用者の自立支援とQOL向上を目的に、ケアシステム（HIMBIT）の活用や外部専門職との連携を推進し、「リハビリテーション（ADL向上）」と「排泄ケア・口腔ケア」を強化実行する。
 - (ウ) 利用者同士だけでなく、家族や地域ボランティアともつながり、憩える場作りを目的に、「なぎさ・あおいフロア空スペースの整備と活用」を実行する。
2. 淡路栄光園の職員全員が、働きやすく、生き生きと仕事ができる施設になる。
 - (ア) 職員負担の軽減と利用者の安全安心を目的に、「見守りセンサー、インカム機器の導入」「ミスト浴等の機械浴槽導入及び浴室環境の整備案の検討」を実行する。

- (イ) 職員の事務負担軽減と園内情報の発信力強化を目的に、HitomeQ システムによる「利用者情報の双方向配信」や「広報誌やケアプランの書面交付・同意の電子化」を実行する。
- (ウ) 職員のキャリアアップを目的に、「認知症実践者・リーダー研修」「利用者や家族への説明、接遇能力の強化研修」「ケアマネジャー等の資格取得支援」を実行する。

3. 淡路栄光園が今後も選ばれ続け、安定、継続して利用者サービスできる施設になる。

- (ア) HitomeQ システムやホームページを活用し、当園サービスの利用に関する情報や手続きへのアクセスの容易性を向上させる。
- (イ) 利用者へのケアやリハビリテーション、食の充実にともなう新たな加算の算定を計画的に実行する。
- (ウ) 施設の安定したサービス提供と利用者の快適環境維持を目的に、老朽化した厨房機器の交換、利用者用の浴室や居住フロアの扉や廊下、壁の修繕を実施する。

4. 地域包括ケアシステムの推進とともに、地域の方々に貢献できる施設になる。

- (ア) 「地域とのつながり再生」を目的とした、学生や地域住民による新たなボランティアを組織化し、活動を開始する。
- (イ) 岩屋地域の「商店や保育園との交流」「行事イベントへの参加」を目的とした外出や創作活動などのレクリエーションを実行する。
- (イ) 兵庫県認定地域サポート型施設の活動として、「岩屋地域の高齢者見守り活動」や「福祉避難所機能の強化」を実行する。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	地域密着型通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60名	19名	18名	
利用者延べ数	21,440人	6,796人	3,810人	620人
一日平均利用者数	58.7人	18.6人	12.3人	2.0人
稼働率	97.9%	98.0%	79.4%	
稼働日数(延べ)	365日	365日	310日	
単価(一人一日当り)	11,963円	11,801円	10,032円	3,665円
サービス活動収益	256,490千円	80,202千円	40,493千円	
職員数(常勤換算)	42.7人	5.5人	7.2人	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路

聖隷ケアプランセンター淡路

聖隷ヘルパーステーション淡路

聖隷ライフサポート津名

地域において当センターが担うべき役割は、医療ニーズの高い方の退院支援・看取り支援・リハビリテーションと協働した重度化支援である。その為、医療機関や関係機関との連携を更に充実させていく必要がある。又、人材確保が困難な現状にあることから2023年は「共に喜び会える支援」を实践する為の人材育成を強化し、職員や地域から「働きたい・働きたい施設」として選ばれる事を目標に事業所間の協働体制を充実させていく。

【事業・運営計画】

1. 人材育成を強化する

- (ア) 職員の意向を反映した研修受講や勉強会の実施。
- (イ) 個別性に合った支援ができる職員を育成する。
- (ウ) 自由な意見や提案ができる環境を整え、業務改善に参画できる職員を増加させる。
- (エ) リスク・苦情等、具体的な問題解決を職場全体で行いサービス向上に活かす。
- (オ) 職員の状態に応じた面接等のサポート体制を強化する。

2. 協働体制の充実

- (ア) 共通の利用者支援に関する多職種事例検討会を定期実施する。
- (イ) WINCARE 掲示板・連携ノート等の活用で事業所間の情報共有を充実させる。
- (ウ) 利用者満足度を向上させる為に評価訪問を実施する。
- (エ) 医療ニーズの高い利用者等にも対応できるよう他職種との同行訪問を積極的に行う。
- (オ) 協働支援の定期評価を実施し、サービス向上の実践や効果を検証する。

3. 「聖隷」を選んでいただくためのエリア内連携を強化する。

- (ア) 聖隷淡路病院との「居宅・医療連絡会」「看護連絡会」等、会議の充実を図る。
- (イ) 訪問看護等のサテライトを聖隷淡路病院内に移転し、看々連携等を強化する。
- (ウ) 居宅介護支援事業所を統合し「医療と連携した安心の支援」を特色に活動を行う。
- (エ) 利用者や関係者の意見を受け、サービス向上や改善が図れる仕組みを構築する。
- (オ) 地域が求めるサービスを検討する為に、人事交流を継続的に行っていく。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 多職種や地域住民を対象としたイベントを検討し実施する。
- (イ) 在宅介護支援センター等が行う地域活動へ積極的に参画していく。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

医療事業		介護給付		予防給付	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
246 件	11,000 円	800 件	8,900 円	90 件	8,200 円
サービス活動収益		127,478 千円	職員数（常勤換算）		21.1 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路）

月間請求件数		平均単価		訪問調査 月件数	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
262 件	50 件	17,200 円	4,700 円	6 件	51,905 千円	9.3 名

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション淡路）

介護給付		予防給付		障害（自立支援）		障害（移動支援）	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
875 件	4,950 円	131 件	2,900 円	292 件	4,600 円	5 件	3,200 円
サービス活動収益		65,944 千円		職員数（常勤換算）		6.7 名	

通所介護事業（聖隷ライフサポート津名）

利用定員	介護給付		予防給付	
	延べ利用者数	4,608 名	延べ利用者数	2,775 名
25 名	1 日平均数	17.9 名	1 日平均数	10.8 名
営業日数	単価（1 人 1 日）	7,486 円	単価（1 人 1 日）	5,365 円
257 日	サービス活動収益	49,708 千円	職員数（常勤換算）	8.8 名

聖隷こども園夢舞台

淡路島内における出生率低下に伴い、子どもの数が減少することが予想される。

「選ばれる園になるためには」という視点で、園の特色や保育形態について職員と共に考えてみたい。

また、2021年度に発足した「民間社会福祉法人連携会議」では、民間の保育園・こども園における事業運営が健全かつ継続的に行えるような制度と運用の見直し等について、淡路市と協議を継続していく。

保育場面においては、子どもへの対応の仕方や、支援の手立て、計画性のある見通しを持った保育をより意識し実践していけるように、具体的な投げかけを行い、主体性をもった職員集団を目指したい。

【施設理念】

「隣人を自分のように愛しなさい」（マタイによる福音書 22:39）

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活をする。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスを提供する。
 - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた保育計画を立案し、実行する。

また、個々の子どもの興味や関心に寄り添いながら、遊びを通して主体性をひきだし、そこから行事へと繋げていけるように、計画性のある見通しを持った保育実践を行う。
 - (イ) 年間研修計画に従い、施設内外の研修に参加し、知識や技術の向上を図る。また、各自の学びを職員会議の中で伝え合い、職場全体のスキルアップへと繋げる。
 - (ウ) 園児の成長発達にあった玩具や環境を整え、園児一人ひとりが安心して自己発揮できるような関わりに努める。
 - (エ) 保育職ラダーを活用し、個々の役割や目標を明確にして個々の資質向上を目指す。

また、園内での役割が意識していけるような動機づけを丁寧に行っていく。
 - (オ) 聖隷訪問看護ステーション淡路と連携した病後児保育を行う。
2. 信頼され、選ばれ続けるこども園となるため、園の保育方針や子どもの姿、発達過程などを保護者へ発信することを大切にしていく。

- (ア) 危機管理委員会と主任が中心となり、ヒヤリハットの分析や事故報告の書式の改善を行い、リスクや事故に対する意識向上を目指す。
- (イ) 聖隷淡路病院と連携を図り、子育て支援プログラムの実施や内科検診時の検尿など、同法人内で行えることを実践していく。
- (ウ) 小学校や各種団体等と情報共有を図り、地域の安心できる居場所となれるように相談等にも応えていく。
- (エ) 病後児保育事業を進めるに当たり、地域の子育て家庭の支援に努める。

3. 地域における公益的な取組を継続実施する。

- (ア) 中学生・高校生の職場体験やボランティアを積極的に受け入れ、次世代育成に貢献する。
- (イ) 小学校との連携を図り、個々の子どもの引継ぎを詳細に行い、就学へと繋げていく。
- (ウ) 相談・見学等で来園される親子への理解を深め、職員が専門職として積極的に関わることで支援に努める。
- (エ) 実習生の受け入れを積極的に行い、雇用へ結び付けられるようにしていく。

4. 安定した運営に努める。

- (ア) 適切かつ効率的な職員配置が行えるように、職員雇用やクラス編成を検討する。
- (イ) 消耗備品の購入状況、及び外部委託業者の契約状況を評価し、適正化を図る。
- (ウ) 行政機関との円滑な調整、情報開示の徹底、計画的な人員の確保等を図る。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	5名	5名	15名	21名	22名	22名	90名
利用定員(1号)	-	-	-	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	5名	5名	15名	26名	27名	27名	105名
一日平均入所者数	3.6名	10.6名	23.3名	20.2名	35名	34.6名	127.3名
年間入所延人数	43名	127名	280名	242名	420名	416名	1,528名
入所率	72.0%	212.0%	155.3%	77.6%	129.6%	128.3%	121.2%
開所日数(延べ)	290日(教育週数 49週)						
サービス活動収益	152,779千円						
職員数(常勤換算)	26.1名						

【実施事業】

延長保育、障がい児保育、一時預かり保育、病後児保育

奄美佳南園

奄美佳南園特別養護老人ホーム デイサービスセンター
奄美佳南園在宅介護支援センター 奄美佳南園ホームヘルプ事業所
奄美佳南園訪問入浴事業所 奄美佳南園春日デイサービスセンター
聖隷チャレンジ工房カナン

2022年度は奄美本島内施設の殆どが集団感染する中において地域の高齢者や障がい者へのサービス提供の継続、地域共生社会の実現に向け事業継続ができたことは、職員一人ひとりの努力の賜物である。

また、安全な移動介助の徹底、排泄支援方法の統一に向けた定期的な勉強会を開催、記録方法電子化の推進、オンライン研修の参加推進等において人材確保が厳しい状況の中、介護職員の負担軽減等サービスの質の向上に努めた。

2023年度はICT機器等の導入・運用を実施し、業務効率化、サービスの改革を通じ職員のやりがいの向上に努めるとともに新規加算の取得、既存する福祉事業の強化を図り、地域にとって欠かすことのできない福祉拠点としての更なる価値を高めていく。

【施設理念】

「夕暮れになっても光がある」

～私たちを必要として下さる方々を支え、

このことを通じて私たち自身も共に幸せになれる奄美佳南園になる～

【経営方針】

1. 利用者満足向上のために、高齢者・障害者複合サービス拠点としての機能を高める
2. 職員満足向上のために、福祉人材の育成と働き甲斐のある施設づくりを迫及する
3. 健全経営推進のために、既存事業の質・生産性の向上、需要の発掘・事業化に取り組む
4. 地域社会貢献のために、公益的な事業活動に積極的に尽力する

【事業・運営計画】

1. 利用者満足向上のための取組

- (ア) 利用者の尊厳を大切に、職員の知識・技術向上のためにオンライン研修等を活用し、サービスの質の向上へと取り組む
- (イ) 利用者の安全な生活環境を高めるために、ICT機器・介護機器を活用し、事故予防や身体機能維持に努める。また、嚥下調整食の提供や口腔機能の管理に努め、誤嚥性肺炎等による入院予防、最後までその人らしく生活できるよう看取りケアの促進に取り組む
- (ウ) 利用者の個性・ニーズに合わせた個別支援計画を作成し、利用者の生きがいに沿った支援に取り組む

2. 職員満足向上のための取組

- (ア) 2022年度から導入したシャワー浴槽・ICT介護機器を活用し、入浴業務の負担軽減や記録業務の効率化等により、職員の介護技術の統一化や自立に向けた育成に取り組む
- (イ) 職員の資質と意欲の向上を図るために、専門職ラダーの運用及びOJTを推進する
- (ウ) 聖隷チャレンジ工房カナン独自の保護者等見学会を実施し、利用定着を図る
- (エ) 聖隷奄美エリア独自の福祉・介護の職業ガイダンスを実施し、福祉系就職希望者の相談、職員採用に取り組む

3. 事業の成長と安定した経営基盤の構築

- (ア) 利用者のサービス向上・生活機能維持に向けた関連加算（褥瘡マネジメント加算・排泄支援加算取得100%、栄養マネジメント強化加算取得60%）に向け、進捗管理を徹底する
- (イ) 入所待機者の早期入所及び入院者へのフォローによる長期入院の削減（平均入院期間14日以内）へ取り組む
- (ウ) 利用者が在宅生活を維持することができるよう、身体介護を中心とした訪問系サービス（身体介護中心のサービス70%）を提供する
- (エ) 就職者2名を就労移行支援・就労継続支援の目標とし、就職活動や実習先受入れに取り組む

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 福祉拠点施設の経験や機能を活かし、福祉の出前講座や介護者教室・福祉フォーラム等を開催する
- (イ) 地域の社会福祉法人と連携し、地域における災害時支援・感染症対策支援・生活困窮に関する課題の解決に向け実践する
- (ウ) 生活困窮・社会と交流ができない青年期・高齢等自信を無くした方々へのアプローチや職場体験を実施し、就労意欲の向上・自信回復等に向けた機会を提供する

【数値指標】

	特養入所		短期入所		生活困窮 一時生活支援	
	従来型	ユニット型	従来型	障害		
利用者定員	50名	30名	10名			
利用者延べ人数	17,751名	10,651名	3,140名	81名	110名	
一日平均利用者数	48.5名	29.1名	8.58名	0.22名	0.30名	
稼働率	97.0%	97.0%	85.8%	0.22%		
稼働日数（延べ）	366日	366日	366日	366日	366日	
単価 （一人一日当り）	12,470円	14,940円	12,000円	12,000円	6,000円	
サービス活動収益	221,367千円	159,120千円	44,979千円	967千円	660千円	
職員数（常勤換算）	32.6名	29.1名	4.9名			
	奄美佳南園デイサービス			春日デイサービス		
	地域密着	介護予防	生活介護	地域密着	介護予防	
利用者定員	18名			18名		
利用者延べ人数	3,526名	304名	414名	2,956名	1,658名	
一日平均利用者数	11.41名	0.98名	1.34名	9.57名	5.36名	
稼働率	63.4%	5.4%	7.4%	53.2%	29.8%	
稼働日数（延べ）	309日	309日	309日	309日	309日	
単価 （一人一日当り）	11,255円	6,697円	8,128円	10,501円	5,000円	
サービス活動収益	39,685千円	2,036千円	3,365千円	31,042千円	8,289千円	
職員数（常勤換算）	7.1名			4.9名		
	訪問入浴介護		ホームヘルプ		就労支援	
	介護	障害	介護	障害	移行支援	継続B
利用者定員					6名	14名
利用者延べ人数	698名	154名	5,685名	739名	1,415名	4,035名
一日平均利用者数	2.64名	0.58名	15.53名	2.02名	5.36名	15.28名
稼働率					89.32%	109.17%
稼働日数（延べ）	264日	264日	366日	366日	264日	264日
単価 （一人一日当り）	16,404円	12,603円	3,932円	4,219円	8,176円	10,111円
サービス活動収益	11,445千円	1,937千円	22,359千円	3,118千円	11,568千円	40,796千円
職員数（常勤換算）	2.6名		5.5名		8.0名	
	年間利用数	稼働日数	単価	サービス活動収益	職員数 （常勤換算）	
在宅介護支援センター	1,200名	249日			6,000千円	1.5名
居宅介護支援	介護	840名	264日	13,136円	11,034千円	2.0名
	予防	168名	264日	7,679円	1,290千円	

春日保育園

2022年度は2021年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた一年となった。感染拡大を防止するための対応に職員一同奔走しながら、子どもたちの育ちを保障し、一人ひとりを大切に丁寧な保育に努めた。

2023年度は、子どもたちが安心安全に過ごせるよう、年齢別の発達を再確認し、個々に合わせた対応、丁寧な保育を継続する。保育以外でも支援を必要とする児、保護者に対しては親子全体に対し寄り添う支援に努める。更に保護者や地域を巻き込んだ行事等を再度検討し、情報発信や園運営の理解に繋げていく。

また、職員一人ひとりの保育の専門性を高める為、園内外での研修を通して、こども理解に繋がる学びを進め自己発揮できる環境を整える。そして、未来を担う子どもたちの健全な育成に向けた支援に邁進する。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝をもって生きる」

～子どもたちの心身の成長を私たちが幸せと受けとめ共に育つ春日保育園でありたい～

【経営方針】

1. 保育の質と専門性の向上
2. 統合保育の実施と専門機関との連携
3. 地域交流と地域貢献を積極的に行う

【事業・運営計画】

1. 保育の質と専門性の向上
 - (ア) 保育理念、保育所保育指針をもとに、子ども一人ひとりの目標を掲げ、成長発達に応じた丁寧な保育を行う
 - (イ) 3・4・5歳児を対象に「ランニング・バイク」を活用した身体作り、遊びながら体幹を鍛える活動を取り入れ、チャレンジ精神、集中力の育成に繋げる
 - (ウ) 職員同士のコミュニケーションの場を設け、互いを認め、支え合う関係を構築しながら、主体的に保育を展開する
 - (エ) キャリアアップ研修や専門分野研修の参加（2科目）を促し、保育実践に結びつけていく
 - (オ) 職員会議等の在り方を検討し、聞く姿勢ではなく、個々の思いや考えを積極的に伝えあえるよう改善する
 - (カ) のぞみ園、聖隷かがやきと共に専門的な保育・療育に関する職員研修を行う
 - (キ) 保育参観や行事参加・個人面談等、園での様子を保護者へ発信し相互理解を図ると共に子育てに関する悩みなど保護者に寄り添った支援を行う

2. 統合保育の実施と専門機関との連携

- (ア) 支援の必要な児の受け入れを積極的に行う
- (イ) 園独自の親子教室の開催を継続的に行い、親子支援をすると共に保護者同士のコミュニケーションの場を設ける
- (ウ) 児童発達支援センター、他事業所と併行通園児の情報共有を密に行い、子どもたちに寄り添った支援を行う
- (エ) 奄美市の保健師や各関係機関と乳幼児健診等の情報を共有し、早期支援につなげる

3. 地域との連携を根ざした公益的な取組

- (ア) 園庭開放を行い、地域の子どもたちに安全な遊び場を提供すると共に子育て相談の機会を作る
- (イ) 中学・高校生の職場体験や施設見学を積極的に受け入れ次世代育成に貢献する

【数値指標】

定員 120 名	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
入所数 4/1 現在	4 名	19 名	20 名	25 名	17 名	30 名	115 名
一日平均入所者数	8 名	20 名	20 名	25 名	17 名	30 名	120 名
年間入所延人数	98 名	243 名	240 名	300 名	204 名	360 名	1445 名
入所率	68.1%	81.0%	83.4%	125%	85.0%	150%	99.7%
開所日数（延べ）	291 日						
サービス活動収益	128,532 千円						
職員数（常勤換算）	27.2 名						

【提供事業】

延長保育事業 一時預かり事業

のぞみ園

児童発達支援センター
放課後等デイサービス
相談支援

2022年度は世界情勢や感染症対応に大きく影響を受けた1年であったが、その中でも「親子に必要なサービスを持続的に提供する」という信念のもと職員一丸となって「親子支援」「地域支援」に取り組んだ1年でもあった。

2023年度は、これまでの取り組みを踏襲しつつ、子どもたちの地域の中での「育ち」に対する支援とライフステージに応じた切れ目のない支援、「気づき」の段階からの積極的な関与など多様な支援を必要とする親子が地域社会の中で安心して支援を受けることができるように、地域のインクルージョンを推進していく取り組みに力を入れる。この取り組みを通して、地域の子育て支援と障害児支援の中核を担う福祉施設としての事業価値を更に高めていく。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～子どもたち一人ひとりの育ちと保護者の願いに寄り添う支援～

【経営方針】

1. ライフステージに応じた継続性のある支援体制の構築と経営の安定化
2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み
3. 地域共生社会の実現に向けた取り組みと公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. ライフステージに応じた継続性のある支援体制の構築と経営の安定化

(ア) 子どもの発達支援

- ① 愛着関係を基本とした子どもの発達支援と保護者と子どもの愛着形成支援を柱とした療育を行う
- ② 子どもの気持ちへの共感と個別性と主体性を尊重することで、その子らしさが実現できる支援を行う
- ③ 保育所等訪問支援事業と丁寧な相談支援により地域支援をバックアップし、インクルージョンの推進とライフステージに応じた切れ目のない支援を実施する

(イ) 保護者支援

- ① 親子通園や保護者会活動、保護者向け勉強会等を通して、親子支援やきょうだい児支援にも取り組む
- ② 日頃の保護者支援に加え、外部支援者と連携して保護者の精神面へのケアを実施する

(ウ) 地域支援

- ① 市町村の親子教室や発育・発達クリニックに職員を派遣し、地域の保健師と連携して

- 保護者の「気づき」へのアプローチや乳幼児期の早期支援へのつなぎに関与する
- ② 自立支援協議会、各事業所と連携して地域の支援者育成研修の企画、運営を行う
 - ③ 施設見学、職場体験、福祉・保育実習の受入れや療育等支援事業の施設支援などを通して、次世代の福祉・保育人材の育成と地域の支援者支援に寄与する
- (エ) 経営の安定化
- 取得可能な加算（連携加算・相談支援加算・移行支援加算等）の積極的算定と待機者対応などを通して経営の安定化に取り組む
2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み
- (ア) 専門職としてのキャリアアップ支援へ取り組む
- ① 職種別ラダー、コンピテンシー評価の活用と、新人オリエンテーションの見直しなどを通して、職員個々のレベルに応じた人材育成に取り組む
 - ② 外部講師や法人内事業所と連携した事例検討会を年4回開催する
- (イ) 導入する障害福祉サービス請求記録システムを活用と、職員の働き方改革を進めていく
- ① 障害福祉サービス請求記録システムの導入とWi-Fi環境、タブレット端末の整備により、施設内外どこにいても効率的に記録が行える環境整備に取り組む
 - ② 行事、会議、研修の在り方を見直し、職員のワークライフバランスの推進に取り組む
- (ウ) 職員間のコミュニケーション向上と定着を支援する（日々の振り返り・職員交流の促進）
3. 地域共生社会の実現に向けた取り組みと公益的な取り組み
- (ア) 地域向け親子教室、ペアレントプログラムを開催し、子育て支援、保護者の交流促進、療育施設を知ってもらう取り組みを行う（公益的な取り組み）
- (イ) 災害や感染症対応における協力体制の構築（奄美エリア各施設・家族会・自治会）と災害用備品の整備、災害や感染症発生時においても事業を継続できるBCP対応を強化する
- (ウ) SDGs委員会を中心に身近でできることの啓発や事業所、保護者会と一緒にできる企画を計画し、みんなで未来を考える取り組みを実施する

【数値目標】

	児童 発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援	障害児 相談支援
利用者定員	25名		20名		
利用者延べ人数	6,220名	36名	4,540名	17名	533名
一日平均利用者	26.13名	0.15名	19.08名	0.07名	2.24名
稼働率	104.54%		95.38%		
稼働日数（延べ）	238日		238日		
単価 （一人1日当り）	14,921円	18,167円	7,399円	19,353円	21,373円
サービス活動収益	93,025千円	664千円	34,815千円	329千円	11,392千円
職員数	19.3名	0.7名	8.1名	3.2名	

聖隷かがやき

児童発達支援センター
放課後等デイサービス
相談支援

2022年度は感染症対策の中、施設としての取り組みとして公開療育、施設見学を行ない、早期療育の必要性や適切な関わり、環境の大切さを教育、福祉施設等と共有できた。

2023年度はコロナ禍で希薄になった人とのつながりや家族の孤立感の解消など、基本的な子どもを取り巻く環境の再構築を目指すと共に、これまで積み重ねてきた支援の更なる充実と関係機関との連携を強化する。また、地域の子育て力の向上に向けて「気づき」の支援として保護者支援、地域支援を行ない地域で安心して暮らしていける共生社会の実現に向けて必要とされる施設として取り組んでいく。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～障害や成長の発達につまずきのある子どもの支援～

【経営方針】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化
2. 職員の働きやすい職場環境作りとリーダー人材育成への取り組み
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化

(ア) 子ども支援

- ① 未就学児の親子通園、学童期の活動参観など「親子のつながり、人とのつながり」を基本に親子参加型の活動や行事を計画、実施を通じ親子のかかわり方の支援を行う
- ② 子どもの年齢や特性に即した個別支援計画を作成し、丁寧な個別、集団支援を行う
- ③ 児童発達支援、放課後等デイサービスとの連携を強化し、未就学から学童期への移行時のアセスメントを丁寧に行い環境の変化に対する利用定着に努める

(イ) 家族支援

- ① 保護者同士の仲間作りと子育て支援として、年1回のペアレントプログラムを行う
- ② 保護者会活動での勉強会、交流の場の提供により、将来の子どもの見通しを持ち、保護者が安心できる子育てができるよう支援する

(ウ) 地域支援

- ① 保育所、幼稚園向けの公開療育、学校関係向けの施設見学を継続して行い関係機関との連携の強化を図る
- ② 困り感のある、子ども、保護者の為の早期気づき、早期支援につなげる地域の保健師、

福祉関係との勉強会、研修を実施する

(エ) 経営の安定化

①併行通園先との連携を図り利用の安定につなげる

②健診後のフォロー体制を構築する

2. 働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み

(ア) 新しい記録システム導入により、業務の効率化、負担軽減を図る

(イ) 専門職としての質の向上のため資格取得の講習受講、勉強会、研修参加を促進する

(ウ) 職員一人ひとりが主体性を持った業務への取り組みができるよう支援し、モチベーションの向上を図る

3. 地域における公益的な取り組み

(ア) 施設開放による子育て相談や見学、親子あそびの場の提供を行い療育施設の理解を広げる

(イ) 地域における感染症情報共有ネットワークと災害時、非常時における相互支援体制を整え、実践する

(ウ) ボランティアや専門学校、短大の実習生を受け入れ、将来の福祉人材として次世代の育成に寄与する

【数値目標】

	児童発達 支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	障害児 相談支援	特定 相談支援
利用者定員	20名		10名		
利用者延べ人数	3,786名	46名	2,509名	159名	144名
一日平均利用者数	15.78名	0.19名	10.45名		
稼働率	78.88%		104.54%		
稼働日数(延べ)	240日	240日	240日		
単価 (一人一日当たり)	14,732円	13,239円	10,114円	16,209円	14,613円
サービス活動収益 (千円)	55,775千円	609千円	25,377千円	2,577千円	2,104千円
職員数(常勤換算)	9.7名	0.2名	5.4名	0.9名	0.3名

聖隷こども園わかば

2022年度は乳児の利用希望が少なく、地域における少子化の現状を実感することになった。2023年度は今後確実に進む少子化に対し、地域の枠にとらわれず利用者を確認していく必要がある。その為に、自園の強みを分かりやすく発信していくと共に、乳幼児の質の高い教育・保育の提供が子どもの生きる力の基礎となる重要な時期であることを理解し、その大事な時期に関わることの意味を引き続き考えていく。また、多様化する保護者のニーズを理解し、地域に信頼され、選ばれる園となる為に今まで以上に保育の質の向上に力を入れ、乳児の入園数を増やして経営の安定を図る。

保育の質の向上と職員の働きやすい環境を構築することを目的とし、2023年2月より新たな保育支援システム（コドモン）を導入している。システムが本稼働する中で、保育ドキュメンテーション等を通して子どもの姿を保護者と共有し、職員自身が保育の面白さを実感して更なる質の向上につなげていく。

そして、引き続き地域の子育ての拠点施設として園を開放する。子育て中の親子に寄り添い、個々に必要な支援を提供できるよう、こども園併設型の支援ひろばのメリットを活かしていく。

【施設理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の教育・保育を目指す

『子ども自身に生きさせよ～自分で考え、判断し、行動する子ども～』

キリスト教の精神を基本理念におき、集団生活をとおして人への思いやりや優しさを、また恵まれた環境の中での様々な経験をとおして逞しい心身の成長を育む

【経営方針】

1. 地域の枠にとらわれずに広報活動を行い、入所人数を増やし安定した運営を図る。
2. 職員一人ひとりが施設理念・園目標をもとに、子ども一人ひとりの育ちを支える教育・保育を提供する。
3. 子育て世代に求められる幅広い子育て支援を知り、積極的に取り組むことにより、地域での存在の意義を深める。
4. 限りある資源を無駄にせず有効に活用し、物価高騰に対応する。

【事業・運営計画】

1. より質の高い教育・保育を実践する
 - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して全体的な計画を作成し、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していく
 - (イ) ピアジェの構成論に基づいた保育実践の学びを深めながら、子どもたち一人ひとりをよく理解し、保育者同士が語り合いながら保育の楽しさや、面白さが実感できる機会を増やし、

保育の質の向上を図る

2. 保育職としての専門性を高める

- (ア) 園内研修の充実をはかり、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、教育・保育の実践を行う
- (イ) 保育職ラダー・目標参画・自己評価を用いて、自己の課題を明確にした上で教育・保育を実践し、評価を行い、改善点を更なる向上につなげる
- (ウ) 職員一人ひとりが専門性の向上のため研修等に積極的に参加できるよう支援する
- (エ) PDCA サイクルの体制を整え、コドモンでの記録や保育ドキュメンテーションの作成等を通して職員一人ひとりが保育の面白さを実感し、保育の充実を図る

3. 様々な視点から保育環境の充実を図る

(ア) 食育の推進

管理栄養士・調理師と連携を図り、野菜栽培やクッキングなどの体験や、日常の保育の中に食育を意識した活動を多く取り入れる

(イ) 子育て、親育て支援

園だより・クラスだより・ドキュメンテーション・フォトラーニング・ホームページ・掲示板・懇談会等を通して教育・保育の内容や、子どもの姿を保護者に分かりやすく発信し、子どもの成長を共有する

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 園庭開放、育児相談、子育て支援ひろばの充実をはかり、子育てに悩みを抱える家庭の相談に応じ、安心して過ごせる場の提供を行う。子育てや子どもの成長に喜びを感じ、親としての成長を実感することでより良い親子関係を築けるよう支援する。また、地域に出向く出張ひろばを通し、地域の子育て力向上に寄与する
- (イ) 中高生の職場体験の受け入れや近隣施設の高齢者との世代間交流を積極的に図り次世代を担う若者の支援や高齢者の生きがい作りに貢献する

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	24名	30名	34名	34名	34名	34名	190名
利用定員(1号)	-	-	-	2名	2名	2名	6名
利用定員合計	24名	30名	34名	36名	36名	36名	196名
一日平均入所者数	15.3名	30.0名	34.0名	34.0名	35名	32名	182.4名
年間入所延人数	184名	360名	384名	384名	408名	384名	2,104名
入所率	63.75%	100%	100%	94.4%	97.2%	88.8%	93.1%
開所日数(延べ)	保育日数 293日 / 教育週数 44週						
サービス活動収益	234,002千円						
職員数(常勤換算)	44.1名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業(一般型・幼稚園型)

地域子育て支援拠点事業

病児保育事業(病後児型)

聖隷こども園桜ヶ丘

2022年度はコロナ禍の保育が続く中で、これまで実践していた保育を見直し、子どもたちが安心安全に主体的に園生活を送れるよう、発達段階に応じて保育室の使い方を変える等保育環境の整備に取り組んだ。また、園と保護者のスムーズな連絡ツールとしての活用及び職員の業務効率化を期待し、2023年2月より新たな保育支援システム（コドモン）を導入した。

2023年度はコドモンの各種機能を活用し、職員の記録業務の軽減に取り組みながら、コドモン保護者アプリを通じて子どもの姿を保護者と共有し、園と家庭とのコミュニケーションを深めていく。施設設備の修繕についてはSDGsを意識しながら計画的に行う。保育室のLED照明への切替工事を順次実施し、使用電力減少を目指す。また、職員にSDGsについて学ぶ機会を与え、保育実践につなげる方法を提言させ、保育の質向上につなげていく。

【施設理念】

「わたしはまことのぶどうの木、あなたがたはその枝である」ヨハネによる福音書 15：1-5

1. 子どもたち一人ひとりが愛され、受け入れられて、愛することを知る
2. あそびや体験を通して心身を育て、子どもたち一人ひとりの個性を伸ばしていく

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いに大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質の向上

- (ア) 子どもの最善の利益を考え、施設理念や保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする教育・保育」を実践する
- (イ) 「全体的な計画」「教育課程」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「キリスト教保育指針」に基づき、「子ども主体の保育」を実践する
- (ウ) 統合保育の実践
 - ①浜松市の「子どもの発達支援巡回事業」を積極的に利用して、専門知識や個別配慮の必要な子の関わり方を共有する。
 - ②障がいがある園児の並行通園施設や医療機関と連携を図り、きめ細やかな保育を行う。
- (エ) 乳児クラスにおいて「ゆるやかな育児担当制保育」を取り入れ、子ども一人ひとりが主体的に生活を送れるようにする。
- (オ) 個々の発達段階に見合った運動遊びや体操を継続して行い、体幹を鍛え運動の楽しさや意欲を育てる。

2. 保育職としての専門性の向上

- (ア) 年間研修計画に沿ってキャリアアップ研修や外部研修への参加を支援し、職員の資質向上を図る。
 - (イ) 職員一人ひとりがSDGsを意識した保育を実践するため、少人数グループでの検討会や相互評価を実施し理解を深める。
 - (ウ) 子どもの主体的な遊びを豊かに展開させるため、職員が保育環境と人的環境等について学び、日課の中に遊びの時間を確保させ、発達段階に見合った玩具の整備を実施する。
 - (エ) キリスト教保育のテキストや保育の専門誌を活用して、定期的に小人数で保育について語り合う時間を作り、職員間のコミュニケーションを取りながら学びを深める。
3. 職員の働きやすい環境づくり・保育支援システムの活用
- (ア) 主幹保育教諭と副主幹保育教諭が中心となり働き方改革を進め職員の働きやすさや健康維持等、エンゲージメントを高める施策を実行する。
 - (イ) 「保育について語り合う風土」を生かし、お互い意見が言い合える環境を整える。
 - (ウ) コドモンの機能を活用し記録業務の軽減を図り、併せて会議の持ち方や各種書類の見直しを実施する。また、コドモン保護者アプリを用いて子どもの姿を保護者に分かりやすく発信し、子どもの成長を共有する。
4. 子育て支援と地域における公益的な取り組み
- (ア) 親子ひろばの広報活動や育児情報の発信を強化し、地域の子育て家庭の相談事業や遊びの提供をして子育て支援をする。
 - (イ) 地域の自治会や近隣施設(都田南小学校・都田図書館・浜松学園等)と交流を図り、相互理解や連携、信頼関係や共助関係を構築する。
 - (ウ) 実習生や中高生のボランティアを積極的に受け入れ、次世代育成に貢献する。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	21名	30名	30名	33名	33名	33名	180名
一日平均入所者数	13名	27名	28名	33名	28名	30名	159名
年間入所延人数	156名	324名	336名	396名	336名	360名	1,908名
入所率	61.9%	90.0%	93.3%	100%	84.8%	90.0%	88.3%
開所日数(延べ)	293日						
サービス活動収益	194,649千円						
職員数(常勤換算)	33.1名						

【提供事業】

- 延長保育事業
- 一時預かり事業(一般型)
- 親子ひろば

聖隷こども園ひかりの子

2022年度はこれまで2年間にわたる新型コロナウイルス感染症との共存を踏まえ、施設としての役割を再考した。私たちが専門職として何を重要視すべきか、利用者のニーズはどこにあるか、感染症対策を継続する中で、方法を見出し変化させてきたことで利用者の反応に手ごたえが得られた部分もある。

2023年4月にこども家庭庁が創設され、子ども・親・家庭への育成・支援が一元化される。また、他園で起こった虐待問題や送迎バスの園児死亡事故の報道もあり、今社会的に教育・保育業界に注目が集まっている。これまで実践していた保育や園の安全対策等を見直し、子どもの安心安全な園生活を確保する。また、子どもの成長や園生活の可視化に取り組み、保護者や地域社会を巻き込み、未来を担う子どもたちの育成に向けた支援を行う。職員一人ひとりの保育の専門性を高めるため、園内外での研修会や勉強会への参加を促すとともに、職員同士が互いに認め合い、自己発揮できる環境を整える。

【施設理念】

『ひかりの子らしく歩みなさい』～エフェソ信徒への手紙5:8～

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質の向上
 - (ア) 教育・保育理念に基づき、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を指標として事例検討会等で具体的な学びを深め、保育実践に繋げる。
 - (イ) 子どもの非認知能力を培うため、異年齢保育や少人数保育等必要に応じて保育の形態を工夫し、日々の生活や遊びの中で他者との交流が図れる環境（空間・時間・物等）を整える。
 - (ウ) 子どもが自分でやりたいことを見つけ、方法を考えて達成していく「子ども主体の保育」を実現し、一人ひとりの成長発達に合わせた保育実践に結び付けていく。
 - (エ) 子どもの発達や学び、園の教育・保育の意図やねらいを保護者に丁寧に伝え、可視化することで相互理解を図る。（保育参加の再開、保育 ICT システムの活用等）
 - (オ) 定期的に教育・保育を見直す視点を持つ。各種自己評価チェックリストを基に子どもの最善の利益を最優先に考えて、職員が互いに質を高め合うことができる職場環境を実現する。

2. 教育・保育の専門性の向上及び働きやすい職場環境の整備

- (ア) 保育職ラダーや自己評価を通じて、それぞれの段階で求められる資質を明らかにし、キャリアステージに応じた内外の研修に参加する。
- (イ) 職階・職務内容・役割に応じて業務の棲み分けを明確にし、組織的に役割を担えるようにする。具体的な業務の改善や見直しを図ることで、問題解決に取り組む。
- (ウ) 保育支援システム（コドモン）の各種機能を活用し、職員の専門性の向上と業務負担の軽減を目指す。

3. 地域・他機関との連携

- (ア) 小学校への接続をふまえ、与進小学校との交流を深める。（授業体験・プール交流等）
- (イ) 松溪会の市野与進こども園との連携・交流を深める。
- (ウ) 行政・民生児童委員・発達医療センター等の職員との情報交換・共有を図る。
- (エ) 地域の美化活動・子育て会議・老人会との交流に参加し、地域の実態を把握すると共に、園の教育・保育内容の発信を行う。

4. 安全・危機管理に対する取り組み

- (ア) 怪我やヒヤリハットの報告・共有手段について、職員一人ひとりの安全・危機管理に対する意識を高める方法を見出すことで、予防と、リスク発生時の対応の周知を図る。
- (イ) 感染症に関する正しい知識や情報を共有すると共に、有事には関係機関とスムーズに連携できるよう体制の整備、研修の充実を図る。
- (ウ) 防災委員会を中心に災害・不審者対策の見直しを行い防災力の強化を図る。

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の子育て家庭に、集い・交流の場所を提供する。（親子ひろば・園庭解放）
- (イ) 中高生の職場体験学習やボランティアを受け入れ、次世代育成に貢献する。

【数値目標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	27名	36名	36名	40名	40名	41名	220名
利用定員（1号）	—	—	1名	1名	2名	2名	6名
利用定員合計	27名	36名	37名	41名	42名	43名	226名
一日平均入所者数	17名	35名	36名	40名	43名	41名	210名
年間入所延人数	192名	420名	432名	468名	516名	480名	2,508名
入所率	58.6%	97.2%	97.2%	97.5%	102.3%	95.3%	93.8%
開所日数（延べ）	293日（教育週数 44週）						
サービス活動収益	256,309千円						
職員数（常勤換算）	43.8名						

【提供保育事業】

延長保育事業	障がい児保育事業
一時預かり事業（一般・幼稚園型）	外国人児童保育事業
親子ひろば	類似型学童保育事業

聖隷こども園めぐみ

2023年4月よりこども家庭庁が創設され、子どもの最善の利益を第一に考え、子どもの権利を保障するため社会全体で支えるという体制が始まる。こうした背景には少子化の加速、子どもの貧困、いじめ、虐待問題などがあり、社会の中で子どもを取り巻く環境への注目度がより一層高まる中、未来を担うこどもたちの健全な育成に向けた支援を、聖隷のこども園として責任感をもって推し進めていく。地域のニーズに応え必要とされる園児の受け入れを積極的に行い、地域への貢献を果たすとともに、経営の安定に繋げる。特に障がい児、医療ケア児等の保育ニーズに応えるためには地域の資源との連携が不可欠となる。2023年度秋に隣接して開設される児童発達支援センターかすみあ和合との連携体制作りに取り組み、「保育の質の向上」を目指す。乳幼児期の質の高い教育・保育の提供が子どもの将来にわたる生きる力を育むことに繋がっていることを職員間で意識化し発達に即した教育・保育内容の充実を図る。園内外の研修へ積極的に参加し聖隷保育学会への取り組みを通して職員一人ひとりの専門性の向上を目指す。

また、職員がモチベーションを高く持って働くことが出来るようサポート体制を整える。人材確保・人材育成に重点的に取り組むとともに、業務の省力化を推進し、有休取得率の向上等仕事と家庭の両立支援につなげる。新しく導入する保育支援システム(コドモン)は職員の業務省力、職員個人の保育のスキルアップ、利用者とのコミュニケーションツールとしての活用を目指す。

確実に進む少子高齢化、大きく変動する社会情勢、With/After コロナへと変化する中、こども園として、引き続き園児の安心安全を確保するとともに、地域社会を支える役割を果たすべく子育て支援、働く保護者をサポートする病後児保育事業、統合保育の推進への取り組みなどを強化する。

【施設理念】

キリスト教の精神に基づく「隣人愛」

「隣人を自分のように愛しなさい」 マタイによる福音書 22 章 39 節

「わたしがあなた方を愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」

ヨハネによる福音書 13 節 34 節

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質の向上

(ア)「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」を基に園として目指す保育観を職員間で共有し、発達の連続性を持った保育を展開していく。実践報告を重ね保育の質の向上に努める。

- (イ) コドモンの各種機能を活用し、保育ドキュメンテーション等を通して子どもの育ち、保育の可視化を行い、保護者へ発信する。
 - (ウ) 自園の課題について取り組みを進め学会につなげる。聖隷保育学会はリモートからハイブリット型に変化させ、より多くの学びの機会とする。
 - (エ) 保育職ラダーや自己評価を通して、自身を客観的に評価できるようにする。苦手とする項目を意識し、改善し、レベルアップを目指す。
2. 新設される児童発達支援センターからみあ和合との連携準備をすすめる
- (ア) 児童発達支援センターからみあ和合の2023年9月開園に向け、職員間の連携体制作りに取り組む。互いの施設を知るため合同研修や、日常的な交流の計画を進める。
 - (イ) 発達に課題のある子どもや医療ケアの必要な子ども等のニーズに対し、連携を強化し並行通園を含め両施設で支えられるよう職員間の連携を密に行なう。
3. 子育て支援と地域における公益的な取り組み
- (ア) 在園家庭、及び地域の子育て家庭への育児に関する発信を強化する。
 - (イ) 中高生の職場体験やボランティアの受け入れを継続し、次世代育成に貢献する。
4. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり
- (ア) コドモンの使い方に慣れるとともに、業務省力につなげる。
 - (イ) 浜松エリア主任・副主任会を継続し職場内の問題解決に向けて具体的に取り組みをすすめる。現場の声が生かされる風土づくり、働きやすい職場の環境づくりを目指す。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	18名	36名	36名	40名	40名	40名	210名
利用定員（1号）	-	-	-	2名	2名	2名	6名
利用定員合計	18名	36名	36名	42名	42名	42名	216名
一日平均入所者数	15名	34名	36名	37名	36名	38名	198名
年間入所延人数	184名	405名	432名	444名	432名	456名	2,377名
入所率	85.2%	93.6%	100%	88.1%	85.7%	90.5%	90.5%
開所日数（延べ）	保育日数 293日・教育週数 44週						
サービス活動収益	249,592千円						
職員数（常勤換算）	36.8名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業（一般型・幼稚園型）

外国人児童保育事業

親子ひろば

病児保育事業（病後児型）

聖隷浜松病院ひばり保育園

キリスト教保育を基盤とし、ピアジェの構成論を取り入れ子どもの主体的な生活と遊びを支える連続的な保育実践をすすめる中で、徐々に保護者の理解を得られ、課題であった2歳児から3歳児以降の利用継続が増加傾向にある。2023年度も園内勉強会や職員同士の保育の振り返りを通し、子どもを見る視点と子どもの育ちを支える保育者の在り方を学び保育の質向上に取り組んでいく。自園の魅力である保育理論を基にした保育実践を可視化し、保護者や地域へ発信することで保育理解と参画につなげていく。

2023年2月に導入した保育支援システム(コドモン)を本稼働していく中で、保育浜松エリア、磐田エリアの各園と連携を図りながら各種機能を活用し、業務省力、効率向上を図ると共に、保育ドキュメンテーションによる保育の言語化、可視化を図る。

園児数の増加により、延長保育や土曜、休日保育の利用希望者の増加が見込まれるため、利用者のニーズに対応できる人員の確保にも尽力し、職員が安心して働ける環境を整える。

【施設理念】

キリスト教精神を基本理念として関係法令を遵守し、新保育所保育指針やキリスト教保育指針にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指す。

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1. 質の高い保育の実践

- (ア) 0・1歳児クラスでは、ゆるやかな育児担当制保育を継続し、個々の子どもの情緒の安定を図り、子ども自身が生活に見通しを持ち主体的に生活を進められる保育を展開していく。2歳以上児クラスではコーナー遊び中心の保育、幼児クラスではサークルタイム、子ども会議を実践し、ひとり一人が主体的に遊び、考え、行動していく力を育む保育を進めていく。
- (イ) 子どもの興味関心を捉え、全体的な計画をもとに発達の連続性をもった保育を展開していく。
- (ウ) コドモンの機能を活用し、保育ドキュメンテーションによる子どもの育ち、保育の可視化を継続し、保護者の保育理解へとつなげる。
- (エ) 聖隷の他のこども園・保育園と連携を図り、他園への保育見学、保育学会での学び合いを深め、自園の保育に生かす。

2. 専門性の向上を図る。

- (ア) 研修計画に沿ってWeb研修を含めた園外研修への参加を支援し、学びの機会を増やす。
- (イ) 保育職ラダーや目標参画システムを活用し、個々の課題を明確にして目標達成に向けて取り組むことを通しスキルアップを図る。
- (ウ) 継続的な園内研修を実施し、構成論の保育根拠に基づく保育や子どもの育ちを支える保育者の在り方を学ぶと共に、職員同士が互いの保育を共有し語り合える関係性を育む。

3. 職員の働きやすい環境づくり

- (ア) 浜松エリア共同でコドモンの有効的な使用方法を検討し、保育記録業務の省力化を図る。
- (イ) 浜松エリアの主任・副主任会へ参加し、職場の課題改善に向けて取り組みを進める。園全体で業務改善の意識を持ち、対話を生み出す会議体の見直しを図る。
- (ウ) 園内で保育士交換を実施し、互いの保育を共有し活発な意見交換ができるような環境を作る。互いの保育を知ることで、クラスを越えた職員間の連携を図る風土を作っていく。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) ボランティアや学生の実習の受け入れを実施し、次世代の育成に貢献する。近隣の特別支援学校の職場実習の要望に対しても受け入れを実施する。
住吉地区の文化展に参加、地域との連携を深めて相互理解、自助共助につなげる

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（従業員枠）	30名	30名	30名	30名	30名	30名	180名
利用定員（地域枠）	6名	7名	7名	-	-	-	20名
利用定員合計	36名	37名	37名	30名	30名	30名	200名
一日平均入所者数	12.1名	30.2名	33名	29名	19名	24名	147.3名
年間入所延人数	145名	362名	396名	348名	228名	288名	1,767名
入所率	33.6%	81.5%	89.2%	96.7%	63.3%	80.0%	73.6%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	237,430千円						
職員数（常勤換算）	36.9名						

【提供事業】

延長保育事業
乳児保育事業
学童保育事業

聖隷のあ保育園

開設4年目を迎えた2022年度4月当初は予定外の転園があり、スタートの人数予測の難しさを実感した。0歳児の途中入園に関しても、近年育児休業を1年以上取得する家庭が増加傾向にあり把握が難しい状況にある。しかし、地域性や小規模園の利点を活かし、年度途中の入退園に臨機応変に対応していくことで、2022年9月以降定員を上回る入所児童を確保できた。

2023年度は引き続きコロナ禍における保育内容の見直しや行事の在り方について法人内の園と情報共有し、安心、安全な保育の提供を継続していく。連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」とは土曜保育や特別保育期間の共同保育等において連携の継続を図る。保育と並行して保育研究を深め、子どもの成長発達に合わせた援助の在り方を探り、小規模園の利点を活かした保育が提供できるよう職員のスキルアップを目指す。また、新事業として余裕活用型一時預かり事業を開始し、地域の子育ての支援に努め、安定した運営をしていく。

【施設理念】

1. 子どもたち一人ひとりが愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるよう支援する。

【経営方針】

1. キリスト教保育を基盤に、子ども一人ひとりが心身共に豊かな成長発達ができるよう丁寧な保育を行う。
2. 定員19名という少人数の園の特性を活かし、乳児期の心身の発達に必要な十分に養護の行き届いた環境を整え保育を行う。
3. 在園、地域の子育て家庭が豊かな環境で子育てできるように、保護者の就労、子育て状況を把握し、子どもの成長発達と併せて保護者支援を行っていく。

【事業・運営計画】

1. 保育の質を向上し、質の高い保育と保護者支援を行う。
 - (ア) キリスト教保育を基盤に、聖隷の保育を形づけていく。
 - (イ) 園内勉強会で自園の研究を深め、職員のスキルアップを目指す。
 - (ウ) 養護と教育が一体となった保育を行うために、子どもを観る視点、子ども理解に努め、子どもの成長発達を促していく。
 - (エ) 少人数の乳児保育の利点を活かした保育（個々に合わせた丁寧な関り、保護者支援）を意識する。
 - (オ) 保育環境を子どもの成長発達と併せて考え、保育環境と保育内容を常に見直し改善していく。

2. 働きやすい職場環境づくり、業務省力化を目指す。

- (ア) レイバー表を用いて職員の動きを可視化し意識することで、業務省力につなげる。
- (イ) 職員間のコミュニケーションを活発にし、報告、連絡、相談を徹底する。
- (ウ) 職員が働きやすい環境を整備し、心身の健康維持に努める。
- (エ) 連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」との協力体制を整える。

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 市との連携の中で、地域の子育て家庭の相談に応じ育児支援、保護者理解に努める。
- (イ) 隔月の老人会（常和会）、近隣学校との交流を通して地域とのつながりを深める。
- (ウ) 洪水等の防災区域であることを発信し、地域との連携を深め、万一の時に備える。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
利用定員（3号）	6名	6名	7名	19名
一日平均入所者数	4.7名	8.3名	5.3名	18.5名
年間入所延人数	59名	100名	63名	222名
入所率	78.3%	116.7%	85.7%	97.3%
開所日数（延べ）	293日			
サービス活動収益	48,879千円			
職員数（常勤換算）	8.8名			

【提供事業】

延長保育

アレルギー児、障害児、特定妊婦支援

余裕活用型一時預かり

こうのとりの保育園

新型コロナウイルス感染症拡大が長期化し、乳幼児にも感染している中、状況に応じて園対応をしながら保育を継続している。園児の日常や体験活動が以前と同じように行われるために感染防止対策を講じながら工夫を重ねている。行事等はクラスごと少人数での活動や年齢発達に合わせ、子ども中心の内容で楽しむことが出来るようになり、多様性が広がっている。2023年度には、子ども施策を総合的に推進するための「こども基本法」が施行され、子どもの政策の新たな推進体制の司令塔となる「こども家庭庁」が設立される。次世代を担うすべての子どもの権利擁護が図られ、子どもの健やかな成長にとって重要な就学前教育の質の確認、向上を目指す。子どもの安全・安心が何より優先される保育現場であるため、点検、確認、振り返りを行い、さらなる危機管理の意識を高めていく。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』マタイ福音書 22:39

『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書 13:34

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 保育の質向上への取組み

(ア) 教育、保育理念を理解し実践する

- ①子ども達の命を守ると共に、一人ひとりの個性や発達に合わせた環境の中で、自分を「かけがえのない存在」だと感じて日々を過ごす事が出来るような関わりをする。
- ②子どもの生活のリズムを大切にし、健康で情緒の安定した生活ができる環境や、自己を十分に発揮できる環境を整える。
- ③発達のプロセスを学び続け、子どもたちの“今”を保育のプロフェッショナルとして捉え、何を根拠にするのかを見出し、最も適したものを子どもの姿から生み出していく。
- ④職員が自分の役割を理解し、仲間に貢献し、個の力を発揮することでチーム力の向上に繋げる。
- ⑤保育を深めるために、子どもを見つめ、悩み工夫しながらも、園内での対話を重ね、「今できること」から実践を始め、保育の質の向上を目指す。

(イ) 家庭と連携をして子育てを共有する

- ①保育理念や保育目標、子ども達の様子や育ちについて、園だより、日々のドキュメンテーション

ョン、懇談会等を活用し、保護者に解りやすく伝え、相互理解を図る。

②保護者の保育参加を実施し、園での子どもの様子や友達との関わりを直接見る機会を設け、面談を通して子どもの育ちを共有する。

2. 保育支援システム（コドモン）による業務省力・働きやすい職場環境づくり

(ア) 保育支援システム（コドモン）の活用状況の把握とより良い環境の整備、有効な活用方法を見出す。業務省力化、記録業務や休憩時間の確保等、職員全員の意識を高めながら皆で取り組んでいく。

(イ) 保護者アプリの技術活用等を通して、保護者とのコミュニケーションを円滑に行い、園への安心感、満足度の向上と改善を促進する。

(ウ) 業務内容や会議体、新人指導の見直しを図り、優先順位や廃棄すべきものを決定する。

(エ) 職員同士の円滑なコミュニケーションを図り、互いに支え高め合うチーム保育を行う。

3. 統合保育の実践

(ア) 障がい児を対象とした一時保育「こひつじ保育」では、日々の生活の中で在園児との交流を行い、保護者や子どものニーズを踏まえ計画的に保育を行う。

(イ) 「磐田市発達支援センターはあと」の巡回相談を利用し、積極的に働きかけ、子どもへの関わり方や保護者へのアプローチ方法を学び、個別・集団における保育（療育）の実践に繋げる。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 「幼保小の架け橋プログラム」を共有し、地域、家庭等との連携、語り学び合い、改善し続けられる恒常的なしくみをつくることを目指し、幼児期の終わりまでに育てほしい具体的な姿を明確化し、小学校との円滑な連携・接続を図る。

(イ) 地域住民や小中高校生との世代間交流を推進し、子育て支援活動、体験学習を積極的に受け入れ、子育てに関わる機会をつくる。

【数値目標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	20名	20名	20名	20名	20名	20名	120名
一日平均入所者数	14.6名	24.4名	25.8名	26.0名	26.0名	26.0名	142.8名
年間入所延人数	175名	293名	310名	312名	312名	312名	1,714名
入所率	73.0%	122.0%	129.0%	130.0%	130.0%	130.0%	119.0%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	210,699千円						
職員数（常勤換算）	41.6名						

【提供事業】

延長保育事業	一時預かり事業（一般型）
地域子育て支援拠点事業	学童保育事業
休日保育事業	病児保育事業（病後児型）：休止中

聖隷こども園こうのとり東

2022年度は新型コロナウイルス感染症対策をとりつつ、今できる方法で保育体験の充実や地域との交流など一歩ずつ前進してきた。その中で、“子どもにとって今大切にしたいこと”を今一度考える機会にもなった。2023年度はその経験を基にして、子どもの主体性の育ちを保障するために、安心して生活・遊びに向かうことができ、年齢発達のつながりも意識した環境づくりについて学びを深め、園全体での構築を目指す。

また、職員一人ひとりのモチベーション向上のため、保育の質向上のための研鑽や働きやすい環境づくりやについて、園内外での研修会や勉強会参加機会の充実を図る。さらに、主幹保育教諭や副主任を中心に、個や組織として主体的に取り組めるような組織体制づくりの見直し構築を図る。

放課後児童クラブについては、利用希望者が多く優先順位を考慮しながら受け入れている。定員を超えての受け入れとなるので、落ち着いて生活できる場の保障とともに、児童に必要な社会性経験の保障についても、家庭との共有・連携を図りつつ児童の成長を支援していく。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』 マタイによる福音書 22:39

【経営方針】

1. 一人ひとりが愛される経験を通して愛する心を知り、互いが大切な存在であることを認めながら生活する環境を作る。
2. 生活、あそび等の豊かな経験を通し創造性や意欲を育てる。
3. 地域のお年寄り、子育てサークル、多文化交流センターとの繋がりの中で、豊かな人間関係や感謝する心を育成していく。

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上

(ア) 保育者が保育理念と保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする保育」を実践する

- ① “子どもの主体性を考える”を研究テーマとした学びを継続的に取り組み、子どもの発達の繋がりを考慮した園全体の環境づくりを目指す。
- ② 乳幼児の主体性を大切にした保育・教育を目指し、子どもの“今の姿”から興味関心を捉えて定期的に保育日課・内容を見直し、様々な保育体験の提供と子どもの“やってみよう”を引き出す保育スキルの向上を目指す。
- ③ 子どもの一人ひとりの尊厳を大切にした日常の保育活動を中心に、行事や異年齢保育の意味や内容について職員間で見直し再確認する。

(イ) 保護者支援を実践する

- ① 園の保育理念や保育目標に基づいた保育・教育について、子どもの姿や友達とのかかわりなどを、園便り、クラス便り、保育ドキュメンテーションを活用し、可視化して具体

的に知らせ、子供の成長を保護者と共有する。

- ② 懇談会や個人面談、保育参加を計画的に実施し、保護者の悩みを共有、支援しやすい関係性を築く。外国籍家庭は相互理解を深められるよう、より丁寧な支援を心掛ける。

2. 統合保育・他機関との連携

(ア) 保育者自身が統合保育の在り方を学び、子ども同士が共に育ち合う環境づくりや配慮について十分に理解を深め実践につなげる。

(イ) 虐待等や家庭（保護者）支援、配慮が必要と思われる子どもについての問題は、必要に応じて園と専門機関が連携し、子どもの安全と情緒の安定を図る。

3. 食育の推進

(ア) 栄養士、調理師、保育教諭が連携を取り、米、野菜づくりやクッキング活動を通して、子どもの食への関心を高める。

4. 地域における公益的な取組

(ア) 畑や田んぼ活動を通して、地域の高齢者とつながり、世代を超えた交流の機会をもつ。

(イ) 看護師による地域の方への健康管理（血圧測定・健康体操指導）を年2回実施する。

(ウ) 年16回の園庭開放を実施し、「こども園での生活」、「遊びの経験」、「身体測定」「歯科講習」等を通して地域子育て世帯の育児相談の場を提供する。

5. 放課後児童クラブ“オリーブ”

(ア) できるだけ児童が主体的に学習やあそび等、生活スケジュールを決めて行動することができるよう声かけをして環境を整える。その際は社会性も意識して助言をしていく。

定員：40名

対象児童：市内1年生～6年生 児童予定数：通常38名（長期休み：45名）

対象小学校：原則・・・東部小、田原小、福田小 *田原・福田については送迎車利用

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	28名	28名	36名	36名	36名	36名	200名
利用定員（1号）	-	-	-	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	28名	28名	36名	41名	41名	41名	215名
一日平均入所者数	14.9名	30.5名	33.7名	38.8名	41.0名	36.0名	194.9名
年間入所延人数	179名	366名	405名	466名	492名	432名	2,340名
入所率	53.2%	108.9%	93.7%	94.7%	100.0%	87.8%	90.6%
開所日数（延べ）	293日（教育週数44週）						
サービス活動収益	251,843千円						
職員数（常勤換算）	45.9名						

【提供事業】

延長保育事業 一時預かり事業（一般型） 外国人児童保育事業

病児保育事業（病後児型） 放課後児童健全育成事業

聖隷こども園こうのとり豊田

2023年度は、今まで以上に地域に開かれたこども園としての在り方を探っていく。様々な方法で園の役割や魅力を伝え、保護者や地域の方と共に子どもの育ちを見守っていくことを目指す。少子化の影響やコロナ禍等の事由で入園を控えるなど0歳児の新規獲得が困難な状況が予想される。そのため、園からの積極的な働きかけが重要である。磐田市や地域の子育て支援センター等と連携を図り、情報を得ると共に地域のニーズに応じた子育て支援等を行い入園へと繋げていく。職員一人ひとりが教育・保育の目的を理解し、自分の役割を担いつつ互いに支え合う関係を構築する。その中で園児が安心して主体的に生活できる教育・保育の環境を整えていく為の子ども理解に繋がる学びを園全体で進めていく。職員のワークライフバランスを保障するため、教育・保育準備や記録業務・環境整備等の振り返りを定期的に行い業務効率の改善に取り組む。

【施設理念】

キリスト教を基本理念とし

『わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書 13：34

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在である事を知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質向上への取り組み

(ア) 教育・保育理念を理解し実践する

- ① 乳児保育で、「ゆるやかな育児担当制保育」を継続する中で副主任・専門リーダーを中心に担当以外のクラスについても共に事例検討をしながらより良い方法を進めていく。
- ② 乳幼児の主体性を大切にした教育・保育を目指し、園児の成長や発達、興味や関心を子どもの姿より捉え、定期的に見直しながら保育環境や日課等を整えていく。
- ③ 子どもと保育者、子ども同士等の対話を大切にした「こども会議」等の手法も取り入れながら、こどもの理解を深める。

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

- ① 保育支援システム（コドモン）を通して、日々の保育の様子や教育及び保育の意図を丁寧に伝えることで保護者との相互理解を深める。
- ② 新型コロナウイルス感染対策を図りながら保育参加や行事を計画し、子どもの様子や友達との関わり、教育・保育の可視化を行う。個別面談等を行い子どもの育ちを共有する。

2. 保育の専門性の向上と働きやすい職場環境の構築

(ア) 副主任や専門リーダーの知識や技術を活かし、職員全体で学び合える為の計画実践を行う。新型コロナウイルス感染対策に考慮しつつ、外部研修に積極的に参加する。（キャリアアップ研修・実技研修・給食研修・衛生管理研修等）

(イ) 雇用形態の違う職員同士の園内研修の方法を検討し計画・実践を行う。職員同士が教育・

保育について定期的に語り合う環境を作り施設目標に向けて協同性を持って進める。

(ウ) 教育・保育準備や記録業務・環境整備等の振り返りを定期的に行い業務効率の改善に取り組むと共に職員一人一人が高い視座で周りの状況を見る力を養い、園児の対応や保育準備の手伝い等、互いに支え合う関係性を構築する。

3. 統合保育・専門機関との連携

(ア) 発達の良い気になる子や「こひつじ保育」(発達に偏りのある子どもを対象とした一時預かり)の広報を積極的に行い、利用者の増加に繋げる。子どもの育ちの背景や保護者の意向を踏まえて、個別の支援を実施する。

(イ) 必要に応じて磐田市の保健師、「磐田市発達支援センターはあと」や「聖隷こども発達支援センターかるみあ」と連携を図り、子どもへの関わり方や環境設定の配慮等を学ぶ。

(ウ) 小学生と園児の交流や小学校とこども園双方の参観会を実施し、情報交換を通して教育の理解を深め、小学校教育との更なる円滑化を図る。

4. 地域に根ざした取り組み

(ア) 地域の子育て家庭への助言や相談を行う機会を設ける。入園を視野に入れている親子へ保育公開日等を設ける。

(イ) 学童保育を継続し、在園児との交流を深めながら学習する習慣を身に着ける。

(ウ) 新型コロナウイルス感染対策を行いながら地域ふれあいクラブとの交流をすると共に空き部屋を活用し園に招いて手作り玩具等の作成や環境整備等を依頼し交流を図る。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域の子育て家庭を対象に、保育教諭等の専門的育児講座を企画する。

(BP プログラム (親子の絆づくりプログラム) 等)

(イ) 小学校、中学校、高等学校が実施する乳幼児との触れ合いや交流に、こども園が積極的に協力し、次世代育成支援の一端を担う。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員 (2・3号)	18名	23名	24名	25名	25名	25名	140名
利用定員 (1号)	-	-	-	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	18名	23名	24名	30名	30名	30名	155名
一日平均入所者数	13名	24名	28名	33名	33名	33名	164名
年間入所延人数	155名	288名	336名	396名	396名	396名	1,967名
入所率	72%	104%	117%	110%	110%	110%	105%
開所日数 (延べ)	293日 (教育週数44週)						
サービス活動収益	220,585千円						
職員数 (常勤換算)	40.2名						

【提供事業】

延長保育事業 一時預かり事業 (一般型・幼稚園型)

親子ひろば 学童保育事業

聖隷こうのとり富丘

聖隷こども園こうのとり富丘

聖隷こども発達支援事業所かみあ富丘 聖隷訪問看護ステーション富丘

2023年4月には「こども家庭庁」が創設される。少子化は国の予想を超えるペースで進んでいる中で、子育ての支援策はもちろん出産しても働きやすい環境作り等、取り組むべき課題は多い。「こども家庭庁」が設置されることで「こどもまんなか」社会の実現を心から願う。

開設から3年が経過し、運営、経営的にも安定してきている。こども園と児童発達支援そして訪問看護ステーションのそれぞれが目標を持ち、乳幼児期の教育・保育、療育のみならず、家族の保健医療等のケアに関わり、相互に関わり合って補い合って業務にあたっている。2023年度もそれぞれが目標を効果的に果たし、相互に関係しながら、成果をあげていくことを目指す。

【施設理念】

子どもたちの“今”が未来を創る～“その人らしく・その家族らしく”未来を描けるように～

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていると感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 施設運営

- (ア) 職員の意見を反映させる場を設定し、安全・安心な環境をつくる
- (イ) 多職種の職員がお互いの実体験をもとに語り合い、複数の視点を持ち、視野を広げ、利用者支援に活かす
- (ウ) 法人内外の研修参加、職種別ラダーを活用し、職員のスキルアップを行い、専門職としてのやりがいをつくる
- (エ) 安定した運営ができるよう、適切な職員配置、コスト管理を行う

2. 聖隷こども園こうのとり富丘

- (ア) 施設理念に基づいた保育研究や見合う保育の保育実践を行い、保育の質を高める
- (イ) 保護者向け講演会を企画し、子どもの育ちについて職員と共に考える機会を提供する
- (ウ) ひとり一人の育ちを丁寧に観ることで、年齢に応じた必要な環境を整える。“子どもが何を経験しているか”を考え、何が育っているかを保護者と一緒に共感する機会を持つ
- (エ) 3事業の専門性を活かし、定期的に事例発表を行い、お互いの専門性を活かし、吸収し合い、地域福祉の視点を広げる。

3. 聖隷こども発達支援事業所かみあ富丘

- (ア) 生まれもった能力や培った機能を十分に活かすためデジタルツールを導入、活用する

- (イ)前向きな子育てを支えるため、保護者間交流の機会を提供し事業を安定的に続ける
- (ウ)地域での生活を支えるため、体験型活動の案内や提供、相談窓口機能を維持する
- (エ)職員が、事業を通じて自己有用感をもちながら自身の望む活動や働きを実現する

4. 聖隷訪問看護ステーション富丘

- (ア) 聖隷袋井病院との連携を深め、利用者増に繋げる
- (イ) 法人内他事業所との関わり(研修・カンファレンス等)を継続し、連携を強化する。
- (ウ) 職場内での事例検討を充実させ、ケアの質を向上させる

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域に向けて、広報誌で聖隷こうのとり富丘の取り組みを伝えたり、食育や子どもの病気等の講話の機会を作ることで、子育て家庭が安心して子育てができるようにする
- (イ) 地域住民や小・中学生との交流など、多世代の方たちが子育てに関わる機会を作る
- (ウ) 施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	18名	20名	20名	20名	21名	21名	120名
利用定員(1号)	-	-	-	3名	3名	3名	9名
利用定員合計	18名	20名	20名	23名	24名	24名	129名
一日平均入所者数	15.3名	21.0名	25.0名	24.0名	23.5名	25.0名	133.8名
年間入所延人数	184名	252名	300名	288名	282名	300名	1,606名
入所率	85.0%	105.0%	125.0%	104.3%	97.9%	104.1%	103.7%
開所日数(延べ)	293日(教育週数 44週)						
サービス活動収益	201,219千円						
職員数(常勤換算)	36.1名						

■聖隷こども園こうのとり富丘

【提供事業】・延長保育事業 ・一時預かり事業(一般型・幼稚園型) ・病児保育事業(病後児型)

■聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

利用者定員	10名
利用者延べ人数	2,740名
一日平均利用者数	11.4名
稼働率	113.7%
稼働日数(延べ)	241日
単価(一人一日当り)	20,168円
サービス活動収益	55,260千円
職員数(常勤換算)	11.6名

■聖隷訪問看護ステーション富丘

平均利用者数	89名
月間訪問件数	419件
年訪問件数	5,028件
単価	10,000円
サービス活動収益	50,279千円
職員数(常勤換算)	8.3名

野上あゆみ保育園

のがみっこくらぶ にじっこくらぶ (放課後児童クラブ)

2022年度の職員の自己評価から、何事にも真摯に向き合い、自身ができることについてしっかり考えることができている集団であることがわかった。2023年度は、保育の質向上に重点を置き、園内外の研修を受けながらそれぞれの強みを伸ばせるサポートができる園を構築していきたい。また、職員の業務改善を積極的に取り組むことで、職員の働く環境を向上していきたいと思う。

子どもたちが興味関心をもって自ら環境へかかわることのできるよう、職員も一つ一つの活動へ率先してかかわっていく。保護者に対し、園の見える化を意識することで行事への取り組み等の理解につなげていきたい。

【施設理念】

「あなたがたも愛によってあゆみなさい」 —エフェソ 5-2—

【経営方針】

1. 私たちが神様に愛されて生かされるように、子どもたちに愛をもって接し、愛をもって子どもたちの心と身体を守る
2. 職員と保護者が、良い関わりをもち、子どもたちの成長を共に喜び合う
3. 地域の中でたくさんの人が集い、交わることのできる保育園とする

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上への取り組み
 - (ア) 職員が保育理念・キリスト教保育を根底とした保育方針を理解し、子どもたちの主体性を大切に、ひとりひとりの声や思いを保育実践に繋げていく。また、子どもや保護者の些細な違和感から、早期アプローチを心がける
 - (イ) 異年齢児や小学生などとの交流を通して、子どもの視野や社会性を広げる。また、自ら活動を選択できる場の中で、SDGsを意識して取り入れられるよう環境を整えていく
 - (ウ) 子どもたちの姿や育ちについて、保護者に伝える場として行事や懇談会の実施方法を検討し、有意義な時間を共有できるよう工夫する。また、個への対応を大切にし、発達に支援が必要と思われる子どもに対しては、専門家の意見を参考に保護者に伝えていく
 - (エ) 園の理念や思いを、保護者に伝えていくことを意識していく
 - (オ) 子どもたちが日々の食に興味を持ち、野菜の栽培や収穫と共に、食品ロスや野菜くずの再利用について意識できるよう、かかわりを考えたり課題を見出したりする
 - (カ) 2つの放課後児童クラブ(のがみっこくらぶ・にじっこくらぶ)同士や小学校との情報交換や共有を深めていく。また、子ども達の安心できる生活の場となるよう意識を持ちつつ、保護者と共に考える姿勢を持ち、子どもの育ちを支えていく
 - (キ) 保育園と児童館、放課後児童クラブが連携をとり、地域で子育てしている家庭へ協力してできることを検討する
 - (ク) 職員会議・パート会議の在り方を検討し、聞く姿勢ではなく、個々の思いや考えを積極的に伝え合えるような内容を取り入れていく

2. 施設の防災力の強化

- (ア) 職員全体が防災意識を高めて取り組むことができるよう、防災委員会よりマニュアルの周知徹底を呼び掛けていく
- (イ) 引き渡し訓練を実施し、保護者への防災意識を高め、また取り組みを共有する
- (ウ) 危機管理委員会でのケガ報告やヒヤリハットの検証をもとに出たことや季節時期により起こりやすい事故やけがについて職員間で周知する

3. 地区聖隷施設との連携

- (ア) 無理のない形で高齢者との交流を広げていく（聖隷逆瀬川デイサービスセンター・結いデイサービスセンター・宝塚エデンの園・宝塚栄光園）

4. 「人づくり」への取り組み

(ア) 研修への参加など

- ① 職員が専門性を高めるための研修や、副主任を中心に教育アドバイザーからポイントを教わり、積み木講習、伝承音楽あそびなど実践を伴った研修への積極的な参加
- ② 聖隷保育学会・階層別研修・あゆみ合同研修・キャリアアップ研修に参加
- ③ 逆瀬川あゆみ保育園の4歳児受け入れに向けての交流・引継ぎを実施
- ④ 園内研修で興味のある事に取り組み、自主性や積極性を養い保育の質の向上を目指す
- ⑥ 保育職ラダーや目標参画、自己評価の活用により、目的意識の明確化を図る。副主任を中心に保育をお互いに確認し合うなど保育の振り返りを実施

(イ) 次世代育成

- ① トライアルウィークの中学生や高校生、大学生ボランティアの受け入れを実施する。実習生や学生アルバイトを積極的に受け入れ採用へつなげる

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 安全な環境のもと、かけっこ教室や積み木遊び、足育講座、伝承音楽遊びを計画する
- (イ) 地域のニーズを探り、子育て支援プログラムの充実化を図る
- (ウ) 子育て支援担当者による相談事業の充実

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	9名	10名	12名	14名	22名	23名	90名
一日平均入所者数	8.8名	15名	15名	15名	27名	24名	104.8名
年間入所延人数	105名	180名	180名	180名	324名	288名	1,257名
入所率	97.2%	150%	125%	107.1%	122.7%	104.3%	116.4%
開所日数(延べ)	293日						
サービス活動収益	162,234千円						
職員数(常勤換算)	29.1名						

【提供事業】

一時保育事業 延長保育事業 障がい児保育 子育て支援事業 放課後児童健全育成事業

野上児童館

児童館における健全育成を常に意識しながら、この地域の現状を把握し、継続的なかかわりを通して安全基地となれるよう、サポートの在り方を職員会議や運営委員会等で考えていきたいと思う。地域の子育て支援の一つとして親同士や地域とつながることのできる共同の場としてネットワーク拠点の役割を担っていけるよう心掛けていきたい。更に、専門機関からの問い合わせや館からの報告相談等、スムーズな連携と情報共有を心掛けていきたい。

【施設理念】 地域の中で信頼され、愛される児童館を目指す。

【経営方針】

1. 来館者と職員が関わる中で、互いの信頼を築き、遊びの楽しさ、おもしろさを感じてもらいながら、いつでも気軽に相談ができるようなあたたかい雰囲気作りに努める
2. 地域のもつニーズを把握し、それに合ったプログラムを企画推進する。そして、子どもや、子育て不安を抱える保護者の心やすらぐ児童館、地域の子育て支援の拠点を目指す
3. 関連する地域の諸機関との協力、連携により、子どもをとりまく様々な課題解決を図るためにコミュニティーワークを進める

【事業・運営計画】

1. サービスの質の向上
 - (ア) コロナ禍での乳幼児・小学生向けのプログラム等、様々な活動を企画する
 - (イ) 食育の取り組み方を模索し年齢に応じた内容を提供していく
 - (ウ) 「ホールで遊ぼう」のプログラム内容を検討し、実施の方法を考える
 - (エ) 玩具やゲーム等、安心安全で遊べる環境作りを目指す
 - (オ) 放課後子ども教室等の活動に協力できるよう体制を整えていく
 - (カ) 児童館と保育園や学童保育が協力して行うことができることを検討する
 - (キ) 中高生の居場所作りとして行っている開館延長の周知方法を考え、参加を促していく
2. 地域との連帯の強化
 - (ア) 小学校、中学校、自治会、まちづくり協議会などとの関わりを深め、情報の共有を行い子育て力の向上を目指す
 - (イ) 出前児童館事業は、場所、時間帯を再考し、地域の協力を得ながら、ニーズに見合った実施を進め定着させる
 - (ウ) コロナ禍で行う地域の行事等に児童館ができることを検討し、地域とのつながりを深めていく
 - (エ) 来館者の悩みや思いに寄り添いつつ、利用者の必要な支援方法を模索する
3. 職員の資質向上
 - (ア) 宝塚市児童館交流研修等へ積極的に参加をする
 - (イ) 子育て支援研修などより専門性を高めるための研修へ参加する

【数値指標】 ひろば型 3名 出前児童館 3名

逆瀬川あゆみ保育園

2022年度、新型コロナウイルスの感染状況を見て、変更しながら行事の開催を進めてきた。在園児の登降園管理、おたよりなど ICT 化により保育士の労力の軽減には繋がったが、新型コロナウイルス感染症の影響も合わせて保護者とのコミュニケーションが希薄になりがちであった。今後感染状況の緩和と共に保護者との関係を意識して深めていくことが必要であると感じる。

また、世間では保育園での事故や不適切な関わりでの事実が次々と報道され、保護者の不安をあおる状況もあった。他園の事と見過ごすことなく今後もその都度、立ち止まり検証し、常に子どもの安全・権利を大切にする保育を実践していきたいと考える。

【施設理念】 キリスト教保育 「愛によって歩みなさい」

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、ひとりひとりが大切な存在であることを知る
2. ひとりひとりの違いに気づき、認め合い共に生活する
3. 楽しい環境の中で主体性、創造性を育む

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上
 - (ア) 保育の基本方針について職員理解の統一を図る
 - ① 保育理念、施設目標を確認し、「主体性を育む保育」の浸透をめざす。
 - ② 適切な声の大きさや丁寧な言葉使い、穏やかな関わりなどを保育者が実践し、主体的に行動する。
 - ③ 子どもの興味・関心があることに目を向け、大切にし、時期を逃さず環境を整える。
 - (イ) 保育者として基本に立ち返る
 - ① 子どもひとり一人の違いをよく観て知ろうとし、受け止め、適切な関わりと援助を行う。
 - ② 保育指針を理解し、保育士としての専門性を意識した保育計画を策定していく。
 - ③ 保育の基本スキルに加え、研修、保育現場での経験などから得た気づきを日々の保育に常に取り入れ、振り返りをする。
 - ④ 0歳児から、保育士の歌声でのリズム運動や研修で学んだわらべうたを保育に取り入れ、保育士の引き出しを増やすと共に子どもの体幹を育てる。
 - (ウ) 保育者研修の充実・人材育成
 - ① 園内研修やあゆみ合同研修、年度末研修、保育学会を通して、専門生を高める。
 - ② 保育士の興味にあった外部研修（リモート研修）を積極的に受講する時間を設ける。
 - ③ 保育の中での疑問や気づきを掘り下げて研究し、学会などで発表する。
 - ④ キリスト教保育冊子を使った毎月の学びや書籍を利用した読みあわせやグループディスカッションを行い、コミュニケーションをとりながら学びを深める

2. 保護者との交流
 - (ア) 実施可能な限り、保育参観や保育参加・懇談会・個別面談・コドモンによるおたより・連絡ノート・ドキュメンテーションを通して活動の様子を知らせる。
 - (イ) コドモンに頼りすぎず出来るだけ保護者との対面コミュニケーションを大切にする。
3. 野上あゆみ保育園・御殿山あゆみ保育園との3園連携
 - (ア) 合同研修や学会を通して情報交換をし、連携を図ることで共に学び歩いていく。野上あゆみ保育園の、同じクラスになる3歳児との交流を積極的に取り入れ、3歳児の不安を軽減できるようにする。また、保育士間の交流・連携も大切にする。
4. 地域とのつながり
 - (ア) 人数を制限しながらも、育児孤立を防ぐため、地域参加プログラム「すくすく」や、園庭開放、室内開放（栄養士相談・看護師相談・足育など）を通して保護者同士の繋がりを育てる。発達への気づきを促し社会資源もの利用も促してしていく。
 - (イ) 一時保育は、人数を縮小しながらも、子育てに難しさを抱える保護者の支援も行っていく。受入れ状況は、ホームページを利用して随時知らせる。
5. 食育
 - (ア) 栄養士を中心に、保護者に向けて行事やお便りを通して食に関する情報の発信を行う。
 - (イ) 給食を通じて旬の食材の名前や役割や味、食べることの楽しさを子ども達に伝える。
6. 防災・防犯訓練
 - (ア) 毎月の防災訓練に加え、災害時を想定し、野上あゆみ保育園に避難する訓練を実施する。不審者に対する対応を考え訓練をする。
7. 働きやすい環境づくりに取り組む
 - (ア) 会議の持ち方や書類の見直し等を行う。
8. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら少しずつ、地域の高齢者との交流の機会を持つことを再開する。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計
利用定員（2・3号）	10名	10名	12名	13名	45名
一日平均入所者数	11.5名	13名	14名	13名	51.5名
年間入所延人数	138名	156名	168名	156名	618名
入所率	115%	130%	116.7%	100%	114.4%
開所日数（延べ）	293日				
サービス活動収益	148,873千円				
職員数（常勤換算）	23.9名				

【提供事業】

一時保育 延長保育推進事業 子育て支援事業

御殿山あゆみ保育園

社会経済環境の変化にともない、核家族化や地域のつながりの希薄化、さらには新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、子ども、子育て世帯に対する支援がより一層重要になる。世の中の動きに合わせて園内に新しい風を取り入れ、変化していく事ができる組織作りをめざす。

少子化が進んでいく中、選ばれる保育園をめざすために保育の質のさらなる向上をはかる。子どもの声に耳を傾け、どんなことに興味を持っているのか、何を知りたいと思っているのか、保育士はアンテナを張り、成長していく姿をイメージしながら必要な準備をする。保育士のキャリアアップ、ICTシステムの内容の充実にも力を注ぎ、チームで試行錯誤をする対応力を身に付けていく。

【施設理念】

「あなたがたも愛によって歩みなさい」 エフェソの信徒への手紙 5:2

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、一人ひとりが大切な存在であることを知る。
2. 一人一人の違いに気付き、お互いに認め合いながら共に過ごす。
3. 豊かな環境の中で自己発揮し、創造性を育てる。

【事業・運営計画】

1. 聖隷の理念や施設理念、保育の基本方針の確認
 - (ア) 施設理念をもとに保育目標の確認をしながら、「一人ひとりを大切にする保育」を具体的に実践する。
 - (イ) 研修や会議を通してお互いの保育観を発信、共有して保育方針に沿って実践できる手立てや保育環境を共に考える。
2. 子どもたちが安心して園生活を送れるよう、言葉を手渡すことを意識しながら、一人ひとりの成長発達に応じた丁寧な関わりを心がける。
 - (ア) 乳児期の特定の大人との愛着関係を基盤に、ありのままを受け止め認められる事を繰り返しながら、自己肯定感、自尊心、他者に対する基本的な信頼感を育てる。幼児期においてはそこを土台に、非認知力を育て社会性、学びに向かう力、人間性等を培う。
 - (イ) 感染予防対策を取りながら異年齢で過ごす時間を自然に持てるよう考え、年齢の枠を超えた関わりを大切にする。
 - (ウ) 父親の座談会を定期的で開催し保護者同志のつながりを作り、父親の育児参加をサポートする。
 - (エ) 発達に障害等を抱え、個別の対応が必要な子どもたちの理解を深めるため、専門機関と連携を取りながら定期的にケース会議を行う。また、研修会にも参加しスキルを高める。
3. 食育の推進
 - (ア) 保育士、栄養士、調理師との連携による年間食育計画を作成し実施する。

- (イ) 保護者、子どもに向けて食に関する様々な情報の発信や相互の関わりを持つ。
 - (ウ) 種や苗からの野菜の栽培、収穫の喜びを通して食への関心を持ち、感謝の気持ちを育む。
4. 包括的な地域子育て支援の充実をめざす
- (ア) 児童館と連携しながら保育室解放・園庭開放などを実施する。子育て中の保護者の様々な思いにも寄り添い地域における子育て支援のニーズを知り、応えていく。
 - (イ) 子育て講演会、給食（離乳食・乳児食・幼児食）の試食会、子育て相談を実施する中で地域の社会資源となり、保護者の不安や悩みを知り受け止める。
 - (ウ) 保育士が専門性と自分の強みを活かした独自の子育て支援プログラムを計画し実施する。
5. 職員研修の充実と人材育成
- (ア) 専門性を高めるため、各自の保育の課題に沿った外部研修に、主体的に参加する。
 - (イ) 行事・保育などで「子どもにとって大切なことは何か」を立ち止まって考える。
 - (ウ) 保育の中での学びや実践を発表し、学びの場として宝塚・浜松地区保育学会に参加する。
 - (エ) 保育職ラダーの活用、自己評価の実施により、各自の役割を考えて理解し、責任をもって仕事に従事することのできる人材を育成していく。
 - (オ) ICT システムの配信内容をさらに充実させて保育を可視化し、保護者理解を深める。
 - (カ) 職員のノンコンタクトタイムを確保し、事務作業を円滑に進められるようにする。
6. 逆瀬川あゆみ保育園、野上あゆみ保育園との3園の連携
- (ア) 3ヶ園で相互の交流をはかり、共に保育の質の向上に取り組む。合同研修会の実施。
7. 防災対策の強化・充実（地域と共に）
- (ア) 防災委員会で様々な観点から課題を出し、職員と共に考えながら防災対策に取り組む。
 - (イ) 地域との連携を視野に入れ、小学校等で実施する地域防災訓練にも参加する。
8. 地域における公益的な取り組み
- (ア) 近隣の幼稚園や保育所、卒園児、小学校との交流。
 - (イ) 学生ボランティアや実習生の受け入れ。
9. 新型コロナウイルス等感染症対策
- (ア) 園内の消毒と換気を定期的に行い、感染予防に努める。保護者と連絡を密に取り、万一感染者が発生した場合は迅速かつ適切な対応ができるよう準備しておく。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	9名	21名	22名	22名	23名	23名	120名
一日平均入所者数	7.8名	25.0名	25.0名	25.0名	23.5名	25.0名	131.3名
年間入所延人数	93名	300名	300名	300名	282名	300名	1,575名
入所率	86.1%	119.0%	113.6%	113.6%	102.1%	108.7%	109.4%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	201,571千円						
職員数（常勤換算）	32.3名						

【実施事業】

一時保育事業 産休明け保育 延長保育促進事業 地域活動事業 特別支援事業

御殿山児童館

御殿山児童館は、次世代を担う子どもたちの健全育成の推進を目的とする。地域に信頼される児童館であるために2023年度も『地域子育て支援拠点ひろば型』事業として、子育て親子の交流を促進する場や機会の提供、相談・援助の実施や情報の提供、子育て講習の実施等、乳幼児親子への子育て支援の拡充に努める。また、小学生児童や中高生の余暇の居場所づくりの充実に加え、地域の実情と時代の風潮に合わせた事業展開を、併設の保育園と連携をとりながら図っていく。また、虐待などの情報の収集、社会資源へ繋げるなど積極的に行いたい。

【施設理念】地域と関わりながら、ひとりひとりの居場所となる児童館を目指す

【経営方針】

1. 子どもや子育てに関わる大人からの声を大切にニーズに応えられるような環境づくりや、活動に遊び心を持って取り組む
2. 個々や集団での関わりを通して、感性を豊かにする活動を実施する
3. 地域や諸機関との連携を図りながら、コーディネーター的役割を担う

【事業・運営計画】

1. 児童館施設の利用児童の把握と支援
 - (ア) 日常的な児童館施設の開放と自由に安心して遊べる環境を整え、提供する。
 - (イ) 利用児童の背景を把握することで必要な支援を的確に行う。
2. 乳幼児親子支援
 - (ア) 発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育て」・「親育ち」を支援する。
 - (イ) 保護者の子育てを支援し、保護者対象の講座を実施する。
3. 小学生集団あそび及び支援
 - (ア) 運動遊びや自然体験活動・創作活動や視聴覚活動を通して仲間作りを支援する。
4. 中高生居場所づくり
 - (ア) 自由に集える場の確保と多様な人とふれあう体験を通じて「心の自立」を支援する。
5. 出前児童館
 - (ア) 児童館の事業と機能を地域に出向いて実施し、環境の整備と居場所作り、プログラムなどを提供し支援する。
6. 地域組織活動の育成及び関係機関との連携・社会資源の活用
 - (ア) 地域における子育て支援の拠点として、的確な社会資源の活用、家庭や学校、関係機関との連携・協力を図る。
7. 児童館運営委員会の実施
 - (ア) 適正な運営を展開・維持するため、運営委員会で広く意見を求め運営に活かす。

8. 職員の資質向上

- (ア) 児童館運営に関する共通の認識を持ち、コミュニケーションを活発に行う。
- (イ) コーディネーター機能の強化のため、職場内研修を行う。
- (ウ) 子育て支援に必要な内部研修を行う。(発達、保育、障がい等)

9. 感染症対策

- (ア) 利用者の検温、消毒、体調等を確認し、利用者名簿の作成、館内の環境整備や消毒を実施する。更に自由利用やイベント・講座等の形態を十分に踏まえ、児童館内及びその周辺地域において、利用者へ感染症の拡大を防止するため、最大限の対策を講ずる。

【数値指標】 延利用者予定数 20,000人 出前児童館の予定回数 145回
正職員 0.4名 パート職 4.6名 合計 5.3名